

男女共同参画に関する  
市民意識調査報告書

2025年3月

春日市



# 目次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の性格	1
4. 回答者の属性	2
5. 調査結果利用上の注意	6

## II 調査結果

### 第1章 男女平等に関する意識について

1. 性別役割分担意識について	7
2. 男女の地位の平等感	9

### 第2章 子どもの育て方・教育について

1. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること	20
----------------------------------	----

### 第3章 家庭生活について

1. 家庭内での役割分担の状況	22
2. パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと	33

### 第4章 職業や仕事について

1. 女性が職業をもつことについて	35
2. 女性が職業をずっともたない方がいい理由	37
3. 女性が職業をずっともっている場合の働き方	39
4. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	41
5. 男性が育児休業・介護休業をとることについて	45
6. 男性が育児休業などを取得しない（できない）理由	49
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	51

### 第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

1. 妊娠や性に関する考え方	53
2. 暴力だと思うもの	55
3. パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無	61
4. 暴力を受けた後の対応	66
5. 対応で「何もしていない」理由	68

## 第6章 地域活動について

1. 地域社会で参加している実践活動…………… 69
2. 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応…………… 71
3. 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由…………… 74
4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点…………… 76

## 第7章 男女共同参画に関する施策について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知…………… 78
2. 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ…………… 84

調査結果のまとめ…………… 87

## 参考資料

使用した調査票…………… 93

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は「第5次春日市男女共同参画プラン」の策定にあたり市民の男女平等に関する意識と実態を把握し、今後の施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の内容

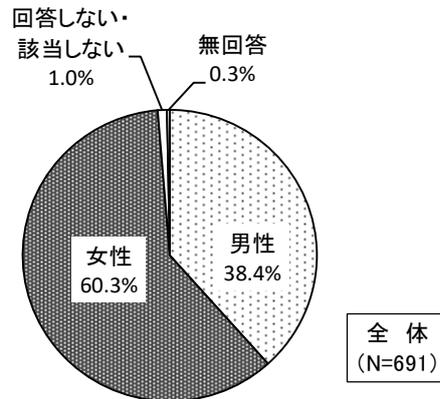
- (1) 対象者の属性
- (2) 男女平等に関する意識について
- (3) 子どもの育て方・教育について
- (4) 家庭生活について
- (5) 職業や仕事について
- (6) 暴力などの人権侵害について
- (7) 地域活動について
- (8) 男女共同参画に関する施策について

## 3. 調査の性格

- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域           | 春日市内全域                          |
| (2) 調査対象者          | 春日市内に居住する満18歳以上の男女<br>2,000サンプル |
| (3) 有効回収数          | 691サンプル（有効回収率34.5%）             |
| (4) 抽出方法           | 住民基本台帳による無作為抽出                  |
| (5) 調査方法           | 郵送法・専用ウェブサイトによるアンケート調査（無記名式）    |
| (6) 調査期間           | 令和6年10月9日（水）～11月8日（金）           |
| (7) 調査企画・実施        | 春日市人権男女共同参画課                    |
| (8) 調査結果の分析<br>と総括 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所<br>理事 倉富 史枝 |

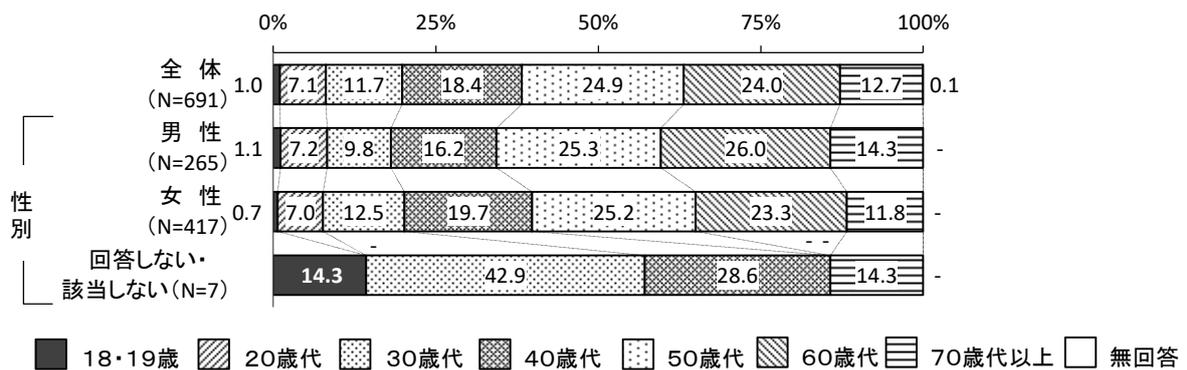
## 4. 回答者の属性

### ◎性別



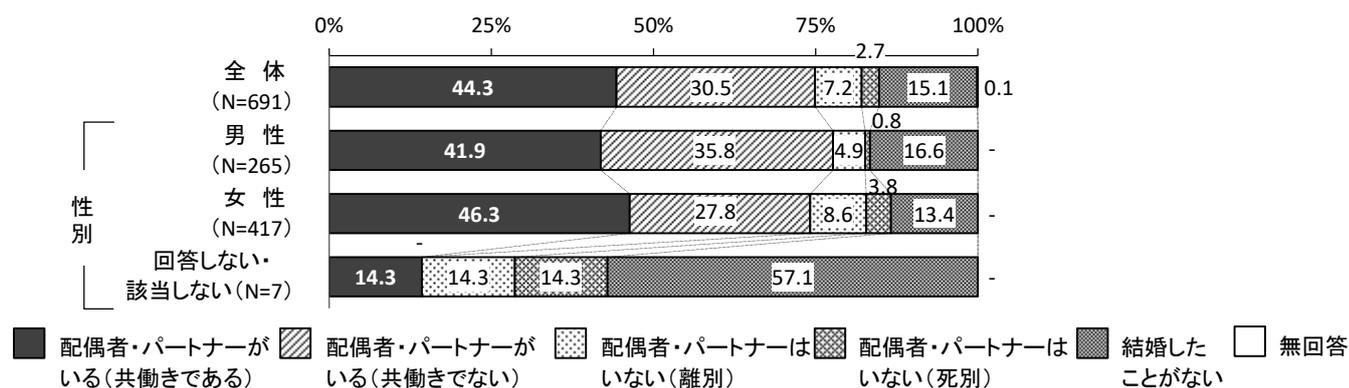
回答者の性別は「男性」が 38.4%、「女性」が 60.3%と女性の回答が 2 割ほど多い。

### ◎年齢



回答者の年齢は、「50歳代」(24.9%)、「60歳代」(24.0%)、「40歳代」(18.4%)、「70歳代以上」(12.7%)、「30歳代」(11.7%)、「20歳代」(7.1%)、「18・19歳」(1.0%)の順である。

◎婚姻状況

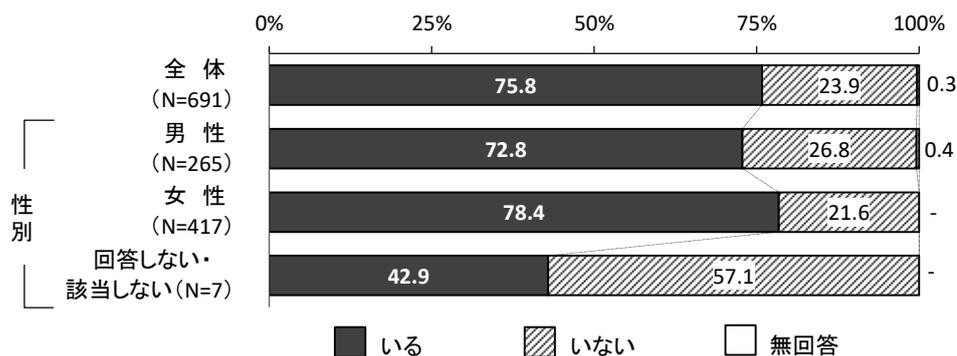


回答者の婚姻状況は、「パートナーがいる（共働きである）」が44.3%、「パートナーがいる（共働きでない）」が30.5%、「結婚したことがない」が15.1%である。

婚姻状況を年齢別にみると、「パートナーがいる（共働きである）」は男女とも30歳代から50歳代で5割以上と多く、特に女性の30歳代と40歳代では6割を超えている。

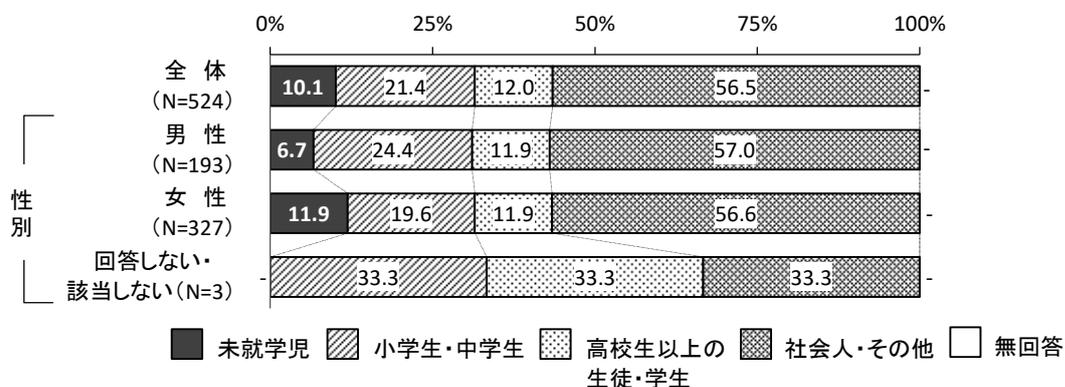
		標本数	配偶者・パートナーがいる(共働きである)	配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	配偶者・パートナーはいる(離別)	配偶者・パートナーはいる(死別)	結婚したことがない	無回答
全体		691	306	211	50	19	104	1
		100.0	44.3	30.5	7.2	2.7	15.1	0.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	13.6	4.5	-	-	81.8	-
	男性:30歳代	26	50.0	19.2	-	-	30.8	-
	男性:40歳代	43	58.1	23.3	-	-	18.6	-
	男性:50歳代	67	53.7	31.3	10.4	-	4.5	-
	男性:60歳代	69	39.1	44.9	7.2	-	8.7	-
	男性:70歳代以上	38	18.4	71.1	2.6	5.3	2.6	-
	女性:10・20歳代	32	15.6	6.3	3.1	-	75.0	-
	女性:30歳代	52	63.5	11.5	5.8	-	19.2	-
	女性:40歳代	82	67.1	17.1	7.3	1.2	7.3	-
	女性:50歳代	105	53.3	22.9	11.4	2.9	9.5	-
	女性:60歳代	97	40.2	40.2	9.3	7.2	3.1	-
女性:70歳代以上	49	10.2	63.3	10.2	10.2	6.1	-	
回答しない・該当しない		7	14.3	-	14.3	14.3	57.1	-
無回答		2	50.0	-	-	-	-	50.0

### ◎子どもの有無



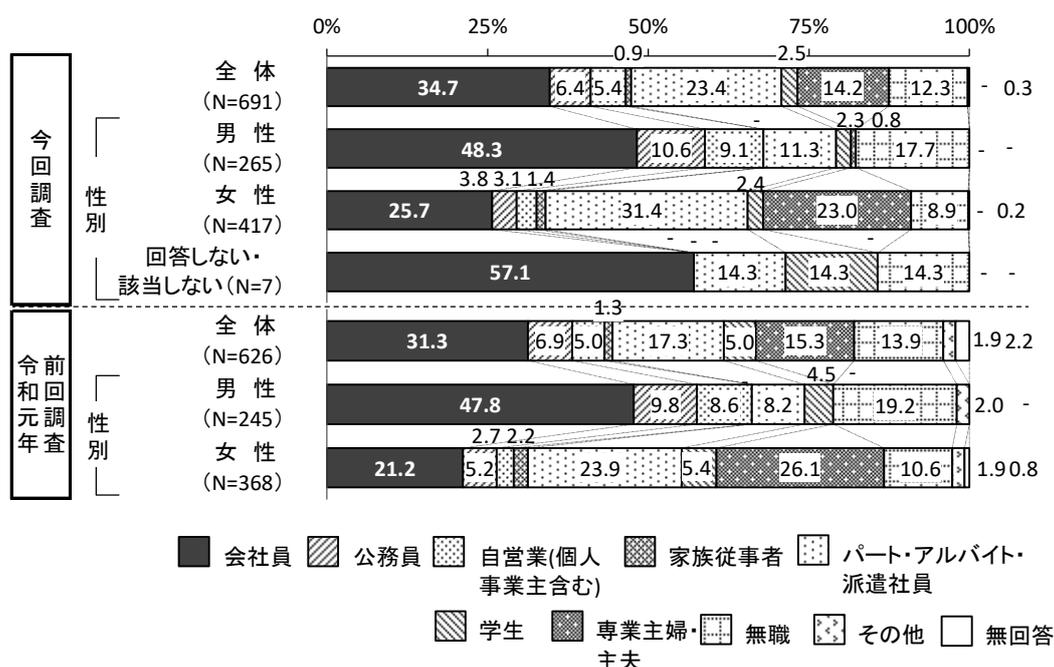
子どもがいる回答者の割合は75.8%である。

### ◎【子どもがいる人に】一番下の子どもの年齢



子どもがいる場合の一番下の子どもの年齢は、「社会人・その他」が56.5%で最も多く、次いで「小学生・中学生」が21.4%、「高校生以上の生徒・学生」が12.0%、「未就学児」が10.1%である。

◎職種・職業



回答者の職業は、「会社員」が34.7%で最も多い。

性別にみると、女性では「パート・アルバイト・派遣社員」が31.4%で最も多く、次いで「会社員」が25.7%、「専業主婦」が23.0%である。男性は「会社員」が48.3%と最も多い。

前回調査と比べると、働いている女性は65.4%で前回調査の55.2%から10.2ポイント増えている。

職業を年齢別にみると、女性の20歳代では「会社員」(43.8%)や「学生」(31.3%)が多く、30歳代と40歳代は「会社員」と「パート・アルバイト・派遣社員」が3割台半ばで同程度である。50歳代では「パート・アルバイト・派遣社員」(39.0%)が「会社員」(29.5%)を上回り、60歳代では「パート・アルバイト・派遣社員」と「専業主婦」が34.0%と同率である。

		標本数	会社員	公務員	自営業(個人事業主含む)	家族従事者	パート・アルバイト・派遣社員	学生	専業主婦・主夫	無職	その他	無回答
全体		691	240	44	37	6	162	17	98	85	-	2
		100.0	34.7	6.4	5.4	0.9	23.4	2.5	14.2	12.3	-	0.3
年齢別	男性:10・20歳代	22	40.9	9.1	4.5	-	9.1	27.3	4.5	4.5	-	-
	男性:30歳代	26	61.5	26.9	-	-	3.8	-	-	7.7	-	-
	男性:40歳代	43	62.8	18.6	9.3	-	4.7	-	-	4.7	-	-
	男性:50歳代	67	67.2	11.9	10.3	-	6.0	-	-	4.5	-	-
	男性:60歳代	69	39.1	4.3	13.0	-	15.9	-	1.4	26.1	-	-
	男性:70歳代以上	38	10.5	-	7.9	-	26.3	-	-	55.3	-	-
	女性:10・20歳代	32	43.8	6.3	-	-	6.3	31.3	6.3	6.3	-	-
	女性:30歳代	52	36.5	7.7	3.8	1.9	32.7	-	13.5	1.9	-	1.9
	女性:40歳代	82	36.6	6.1	4.9	1.2	36.6	-	13.4	1.2	-	-
	女性:50歳代	105	29.5	3.8	2.9	2.9	39.0	-	19.0	2.9	-	-
	女性:60歳代	97	12.4	1.0	4.1	-	34.0	-	34.0	14.4	-	-
	女性:70歳代以上	49	2.0	-	-	2.0	16.3	-	46.9	32.7	-	-
	回答しない・該当しない	7	57.1	-	-	-	14.3	14.3	-	14.3	-	-
無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	

## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○-○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

春日市 「男女共同参画社会に関する市民意識調査」令和元年8月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和4年11月実施

内閣府 「男女間における暴力に関する調査」令和5年11月実施

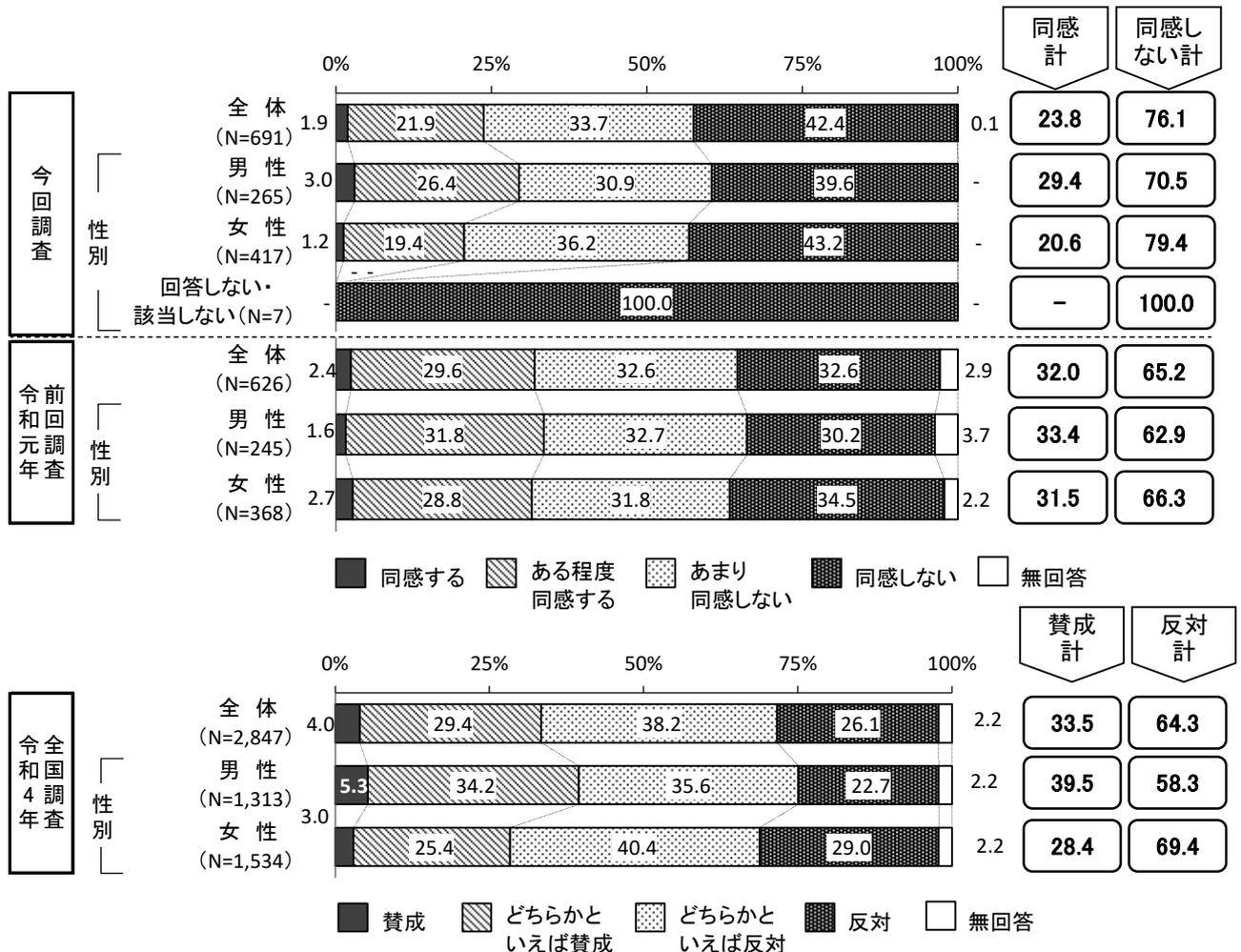
## II 調査結果

### 第1章 男女平等に関する意識について

#### 1. 性別役割分担意識について

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたは、この考え方にどの程度同感しますか。(〇は1つだけ)

図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別]  
(前回・全国調査比較)



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない」と「あまり同意しない」を合わせた『同意しない』は76.1%であり、「同意する」と「ある程度同意する」を合わせた『同意する』の23.8%を52.3ポイントと大幅に上回っている。

性別にみると、男性の『同意しない』は70.5%、女性は79.4%と女性の方が8.9ポイント高い。

令和元年8月実施された春日市「男女共同参画社会に関する市民意識調査」（以下、前回調査という）と比べると、『同意しない』の割合は男女とも増加し、男性で7.6ポイント、女性で13.1ポイントと、女性の増え方の方が大きい。

令和4年11月に実施された内閣府「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、選択肢の文言が異なることに留意が必要ではあるが、春日市の方が男女とも性別役割分担に否定的な人の割合が約10ポイント高い。

年齢別にみると、男性の30歳代は『同感しない』が96.1%と最も高いが、同年代の女性では63.4%と女性の中で最も低く、同じ年代でも性別によって考え方が大きく違う。

図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体、年齢別〕

(%)

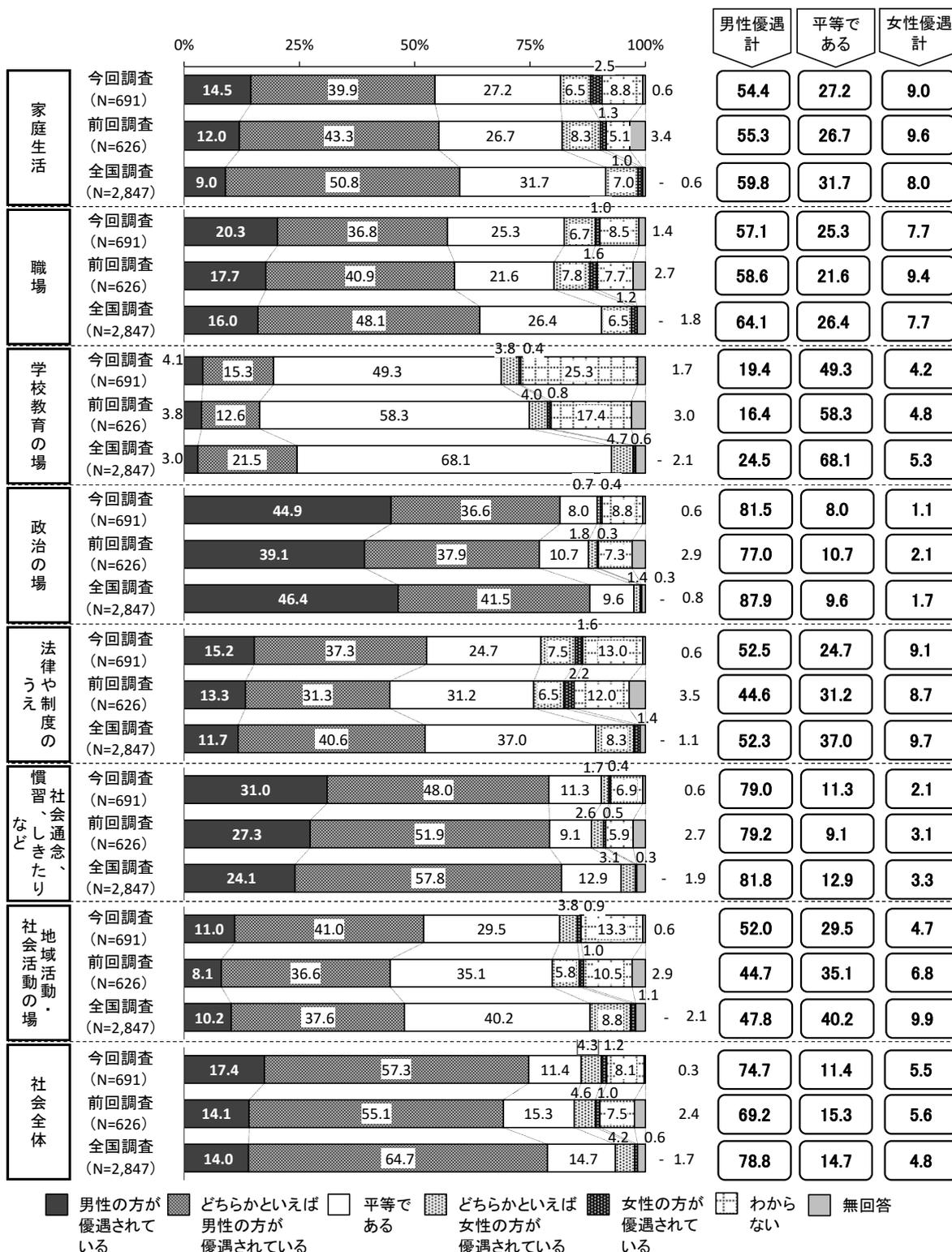
		標本数	同感する	感ある程度同	しあまり同感	同感しない	無回答	同感計	計同感しない
全体		691 100.0	13 1.9	151 21.9	233 33.7	293 42.4	1 0.1	164 23.8	526 76.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	18.2	40.9	36.4	-	22.7	77.3
	男性:30歳代	26	-	3.8	34.6	61.5	-	3.8	96.1
	男性:40歳代	43	7.0	30.2	27.9	34.9	-	37.2	62.8
	男性:50歳代	67	1.5	32.8	29.9	35.8	-	34.3	65.7
	男性:60歳代	69	4.3	24.6	26.1	44.9	-	28.9	71.0
	男性:70歳代以上	38	-	34.2	36.8	28.9	-	34.2	65.7
	女性:10・20歳代	32	3.1	12.5	34.4	50.0	-	15.6	84.4
	女性:30歳代	52	5.8	30.8	34.6	28.8	-	36.6	63.4
	女性:40歳代	82	-	24.4	35.4	40.2	-	24.4	75.6
	女性:50歳代	105	1.0	18.1	37.1	43.8	-	19.1	80.9
	女性:60歳代	97	-	14.4	39.2	46.4	-	14.4	85.6
	女性:70歳代以上	49	-	16.3	32.7	51.0	-	16.3	83.7
	回答しない・該当しない		7	-	-	-	100.0	-	-
無回答		2	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0

2. 男女の地位の平等感

問2. 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

次の(ア)から(ク)のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

図表1-3 男女の地位の平等感 [全体] (前回・全国調査比較)



※「地域活動・社会活動」は全国調査では「自治会やNPOの地域活動の場」

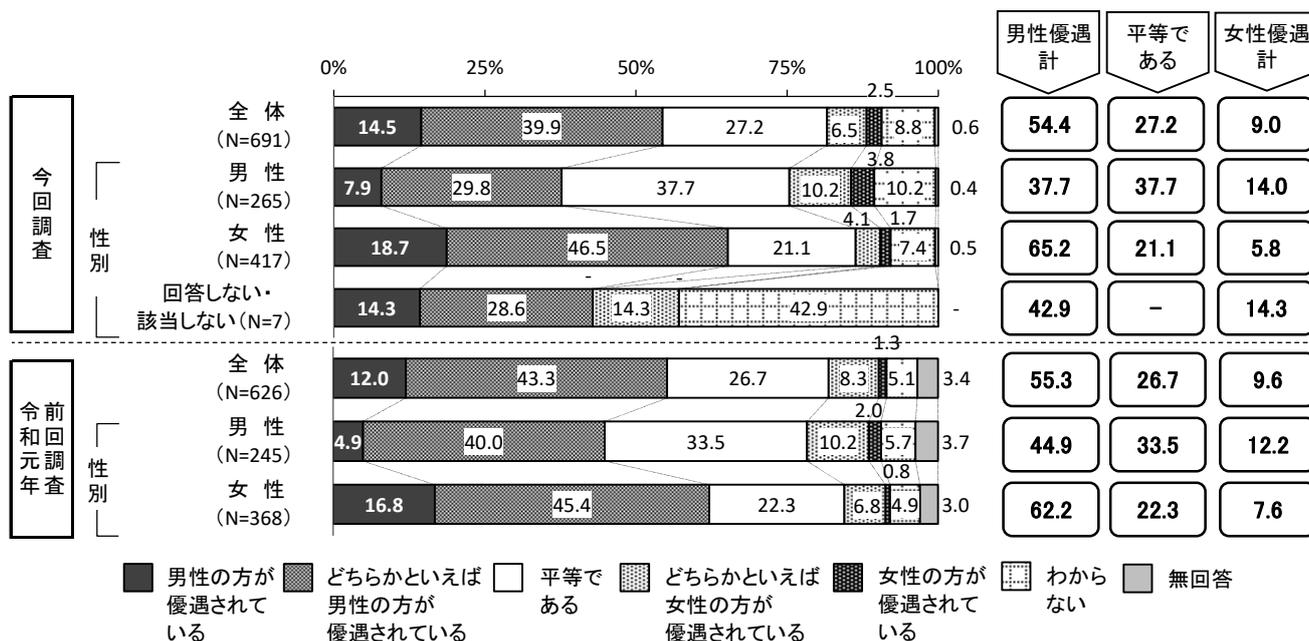
男女の地位の平等感について、8分野についてたずねた。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が高いのは「政治の場」(81.5%)や「社会通念、慣習、しきたりなど」(79.0%)などで約8割、「社会全体」で74.7%である。その他「職場」(57.1%)、「家庭生活」(54.4%)、「法律や制度のうえ」(52.5%)、「地域活動・社会活動の場」(52.0%)でも『男性優遇』が5割台である。「学校教育の場」では『平等である』が49.3%と最も高い。

前回調査と比べると、「家庭生活」「職場」「社会通念、慣習、しきたりなど」では『男性優遇』の割合は同程度、その他の「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度のうえ」「地域活動・社会活動の場」「社会全体」では『男性優遇』の割合は増えている。また、すべての分野で『男性優遇』のうち「男性の方が優遇されている」の割合はやや増加している。「家庭生活」「職場」では『平等である』の割合もわずかに増えている。

全国調査との比較では『わからない』という項目がないため留意が必要であるが、『平等である』の割合は、いずれの分野でも今回調査の方が低い。

### (ア) 家庭生活

図表 1-4 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「家庭生活」について性別にみると、『平等である』は男性が37.7%で、女性の21.1%を16.6ポイント上回り、男女の隔たりが大きい。また、女性では『男性優遇』が65.2%と男性(37.7%)より27.5ポイント高く、女性の不平等感が強い分野である。

前回調査と比べると、女性は前回調査とあまり変わらないが、男性は『男性優遇』が7.2ポイント減少し、『平等である』が4.2ポイント増えている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

配偶状況別にみると、女性のパートナーがいる人で共働き、共働きでないに関わらず、『男性優遇』は約7割に対し、男性は約4割と女性の方が約3割上回っている。『平等である』は男性のパートナーがいる人では3割台半ばから約4割あるが、女性では1割台半ばから約2割と約半分の割合となるなど、性別によって大きな違いがみられる。

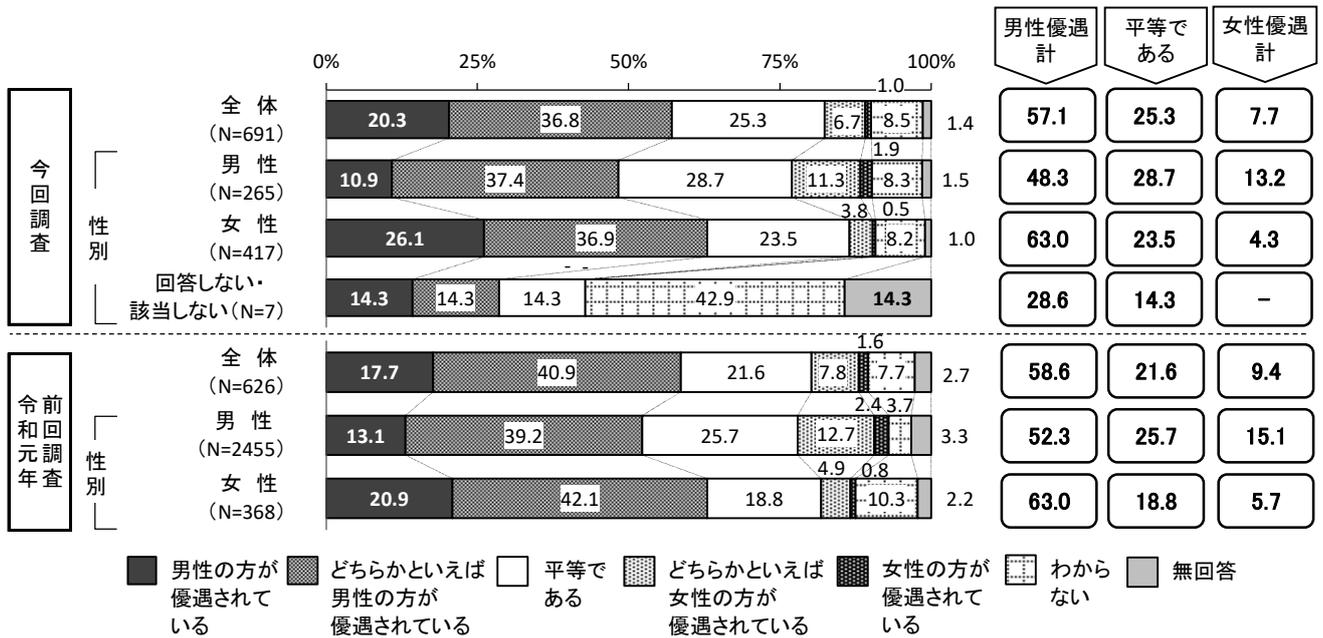
図表1-5 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、配偶状況別]

(%)

	標本数	男性の方が優遇	どちらかの方が優え	平等である	どちらかの方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計	
全体	691 100.0	100 14.5	276 39.9	188 27.2	45 6.5	17 2.5	61 8.8	4 0.6	376 54.4	62 9.0	
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	7.2	33.3	36.9	9.9	4.5	8.1	-	40.5	14.4
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	9.5	31.6	42.1	8.4	3.2	4.2	1.1	41.1	11.6
	男性:パートナー はいない(離別)	13	15.4	38.5	38.5	-	-	7.7	-	53.9	-
	男性:パートナー はいない(死別)	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0
	男性:結婚していない	44	4.5	15.9	29.5	18.2	2.3	29.5	-	20.4	20.5
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	20.2	49.2	23.3	1.6	1.6	4.1	-	69.4	3.2
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	17.2	52.6	16.4	7.8	1.7	3.4	0.9	69.8	9.5
	女性:パートナー はいない(離別)	36	25.0	36.1	19.4	-	5.6	13.9	-	61.1	5.6
	女性:パートナー はいない(死別)	16	6.3	68.8	18.8	-	-	6.3	-	75.1	-
	女性:結婚していない	56	16.1	25.0	25.0	8.9	-	23.2	1.8	41.1	8.9
	回答しない・該当しない	7	14.3	28.6	-	14.3	-	42.9	-	42.9	14.3
	無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	-

(イ) 職場

図表 1-6 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「職場」について性別にみると、『男性優遇』は女性が63.0%で男性(48.3%)を14.7ポイント上回り、『平等である』は男性が28.7%で女性(23.5%)を5.2ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられないが、男女とも『平等である』は3~4.7ポイント増えている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

職業・職種別にみると、公務員では男女とも『平等である』が4割台半ばから5割と高い。会社員では男女とも『男性優遇』が約5割から6割と高く、『平等である』は約3割にとどまる。標本数は少ないが、自営業では男性の『男性優遇』は54.1%に対し、女性は84.6%、家族従事者では100.0%になっている。会社員や自営業では不平等感が強い。

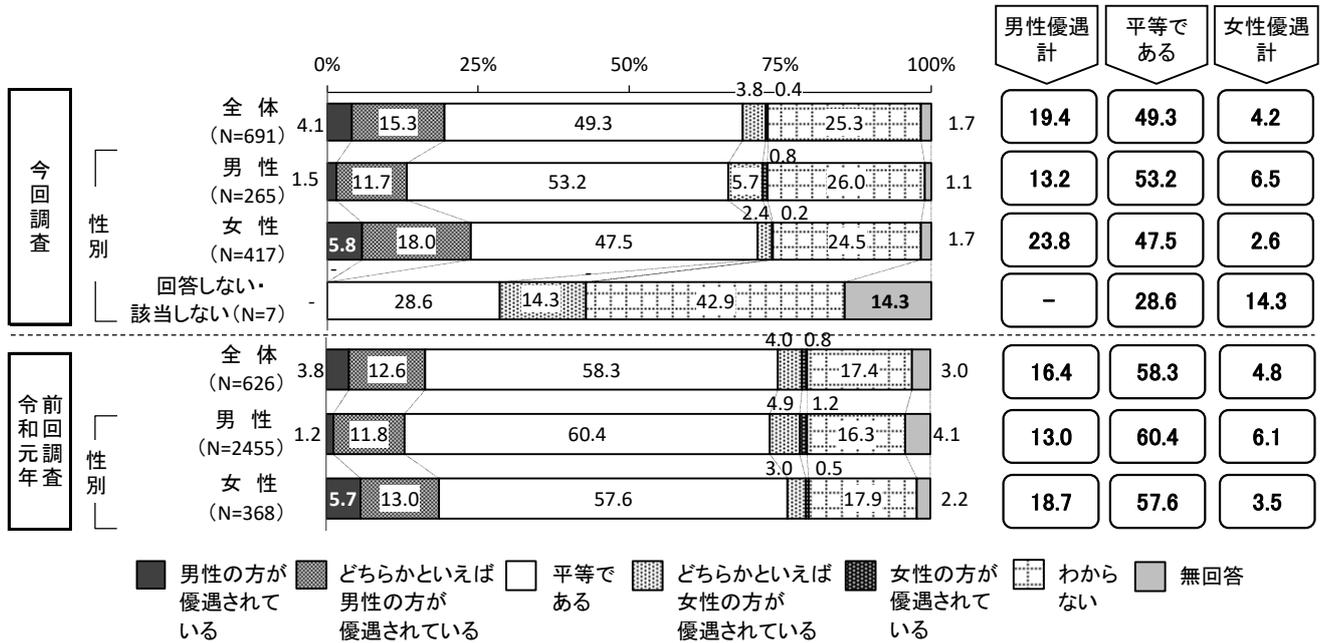
図表1-7 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業・職種別]

(%)

	標本数	男性の方が優遇	どちらの性も優え	平等である	どちらの性も優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計	
全体	691 100.0	140 20.3	254 36.8	175 25.3	46 6.7	7 1.0	59 8.5	10 1.4	394 57.1	53 7.7	
職業・職種別	男性:会社員	128	14.1	37.5	28.1	12.5	2.3	3.9	1.6	51.6	14.8
	男性:公務員	28	-	25.0	46.4	21.4	-	7.1	-	25.0	21.4
	男性:自営業	24	8.3	45.8	25.0	12.5	-	8.3	-	54.1	12.5
	男性:家族従事者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:パート・アルバイト・派遣社員	30	10.0	26.7	43.3	10.0	3.3	6.7	-	36.7	13.3
	男性:学生	6	16.7	-	-	-	-	16.7	50.0	16.7	16.7
	男性:専業主夫	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-
	男性:無職	47	10.6	53.2	17.0	2.1	-	14.9	2.1	-	-
	女性:会社員	107	25.2	31.8	32.7	6.5	0.9	2.8	-	57.0	7.4
	女性:公務員	16	25.0	12.5	50.0	12.5	-	-	-	37.5	12.5
	女性:自営業	13	30.8	53.8	-	-	7.7	7.7	-	84.6	7.7
	女性:家族従事者	6	33.3	66.7	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性:パート・アルバイト・派遣社員	131	21.4	37.4	33.6	3.8	-	3.8	-	58.8	3.8
	女性:学生	10	-	30.0	30.0	20.0	-	20.0	-	-	-
	女性:専業主婦	96	29.2	42.7	6.3	-	-	19.8	2.1	-	-
	女性:無職	37	43.2	37.8	5.4	-	-	8.1	5.4	81.0	-
回答しない・該当しない	7	14.3	14.3	14.3	-	-	42.9	14.3	28.6	-	
無回答	3	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	

(ウ) 学校教育の場

図表 1-8 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「学校教育の場」について性別にみると、女性では『男性優遇』が 23.8%で男性 (13.2%) よりも 10.6 ポイント高く、『平等である』は 5.7 ポイント低い。

前回調査と比べると、男女とも『平等である』の割合が減少しており、男性で 7.2 ポイント、女性で 10.1 ポイント低い。

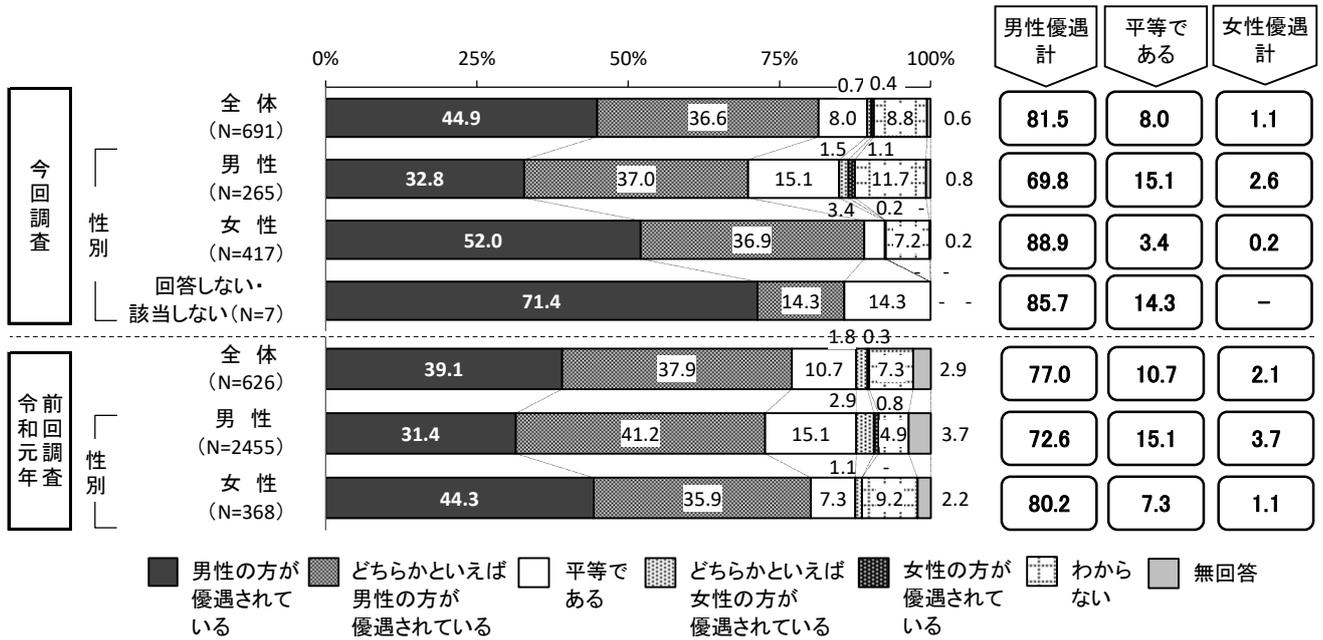
一番下の子どもの状況別にみると、男女とも小学生・中学生では『平等である』が 5 割台半ばから約 6 割あるが、高校生以上の生徒・学生では約 5 割と低い。

図表 1-9 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、一番下の子どもの状況別]

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	4.1	15.3	49.3	3.8	0.4	25.3	1.7	19.4	4.2
一番下の子どもの状況別	男性:未就学児	13	-	15.4	76.9	-	-	7.7	-	15.4	-
	男性:小学生・中学生	47	4.3	10.6	59.6	4.3	-	21.3	-	14.9	4.3
	男性:高校生以上の生徒・学生	23	-	13.0	47.8	-	-	39.1	-	13.0	-
	男性:社会人・その他	110	0.9	12.7	58.2	3.6	-	22.7	1.8	13.6	3.6
	女性:未就学児	39	2.6	12.8	59.0	2.6	-	23.1	-	15.4	2.6
	女性:小学生・中学生	64	-	20.3	54.7	4.7	1.6	18.8	-	20.3	6.3
	女性:高校生以上の生徒・学生	39	7.7	20.5	51.3	2.6	-	17.9	-	28.2	2.6
	女性:社会人・その他	185	8.1	16.2	46.5	1.6	-	24.9	2.7	24.3	1.6
	回答しない・該当しない	3	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-
無回答	168	3.6	15.5	37.5	7.1	1.2	32.7	2.4	19.1	8.3	

(エ) 政治の場

図表1-10 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「政治の場」について性別にみると、『男性優遇』は女性で88.9%と高く、男性(69.8%)より19.1ポイント高く、『平等である』は11.7ポイント低いなど、男性自身も『男性優遇』との認識は高いが、女性の認識の方が強い分野である。

前回調査と比べると、男性はあまり大きな差はみられないが、女性は『男性優遇』が8.7ポイント増えている。

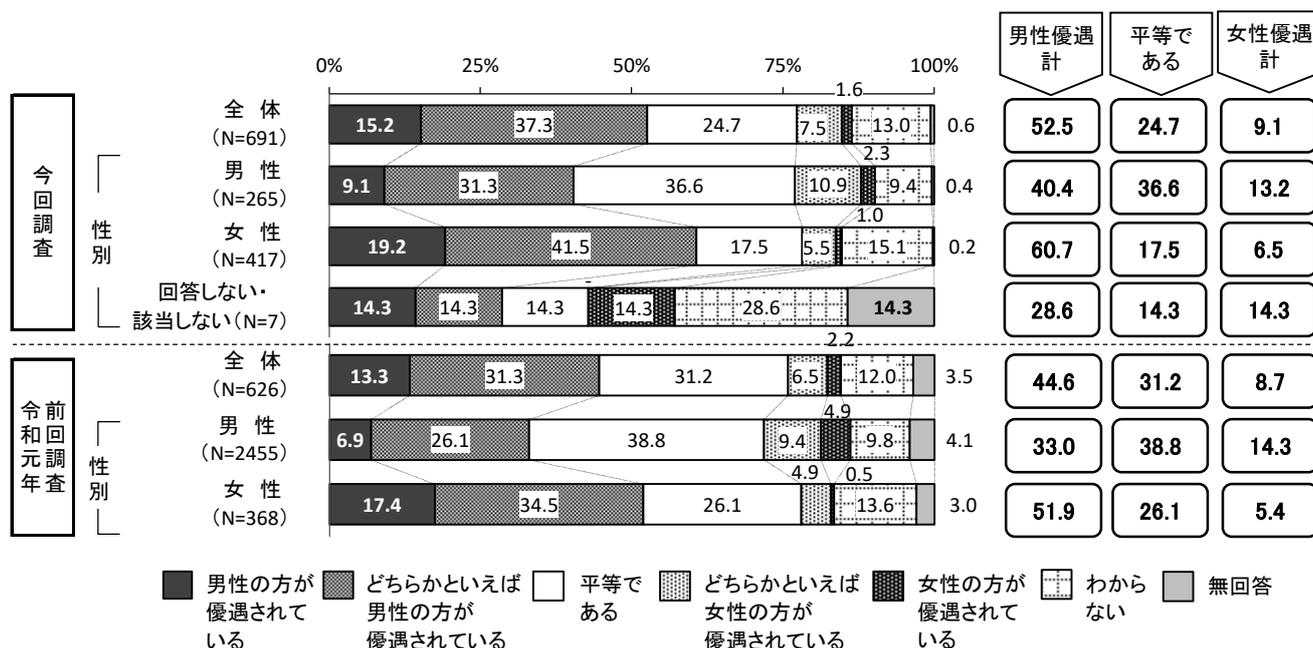
年齢別にみると、女性の30歳代から50歳代で『男性優遇』が9割台と高い。男性は40歳代から60歳代で高いが7割台にとどまる。

図表1-11 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	男性優遇	女性優遇	平等である	男性優遇	女性優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	310	253	55	5	3	61	4	563	8
		100.0	44.9	36.6	8.0	0.7	0.4	8.8	0.6	81.5	1.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	18.2	31.8	13.6	-	9.1	27.3	-	50.0	9.1
	男性:30歳代	26	30.8	30.8	23.1	-	-	15.4	-	61.6	-
	男性:40歳代	43	34.9	39.5	16.3	-	-	9.3	-	74.4	-
	男性:50歳代	67	35.8	35.8	10.4	4.5	-	13.4	-	71.6	4.5
	男性:60歳代	69	36.2	39.1	15.9	1.4	-	7.2	-	75.3	1.4
	男性:70歳代以上	38	28.9	39.5	15.8	-	2.6	7.9	5.3	68.4	2.6
	女性:10・20歳代	32	43.8	37.5	-	-	-	18.8	-	81.3	-
	女性:30歳代	52	53.8	38.5	3.8	-	-	3.8	-	92.3	-
	女性:40歳代	82	52.4	42.7	1.2	1.2	-	2.4	-	95.1	1.2
	女性:50歳代	105	61.0	31.4	1.9	-	-	5.7	-	92.4	-
	女性:60歳代	97	48.5	35.1	6.2	-	-	10.3	-	83.6	-
	女性:70歳代以上	49	42.9	40.8	6.1	-	-	8.2	2.0	83.7	-
	回答しない・該当しない		7	71.4	14.3	14.3	-	-	-	-	85.7
無回答		2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-

(オ) 法律や制度のうえ

図表 1-12 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「法律や制度のうえで」について性別にみると、女性は『男性優遇』が 60.7%で男性 (40.4%) より 20.3 ポイント高く、『平等である』は 17.5%で男性 (36.6%) より 19.1 ポイント低く、女性の不平等感が強い分野である。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 7.4~8.8 ポイント増加し、また女性では「平等である」が 8.6 ポイント減少している。

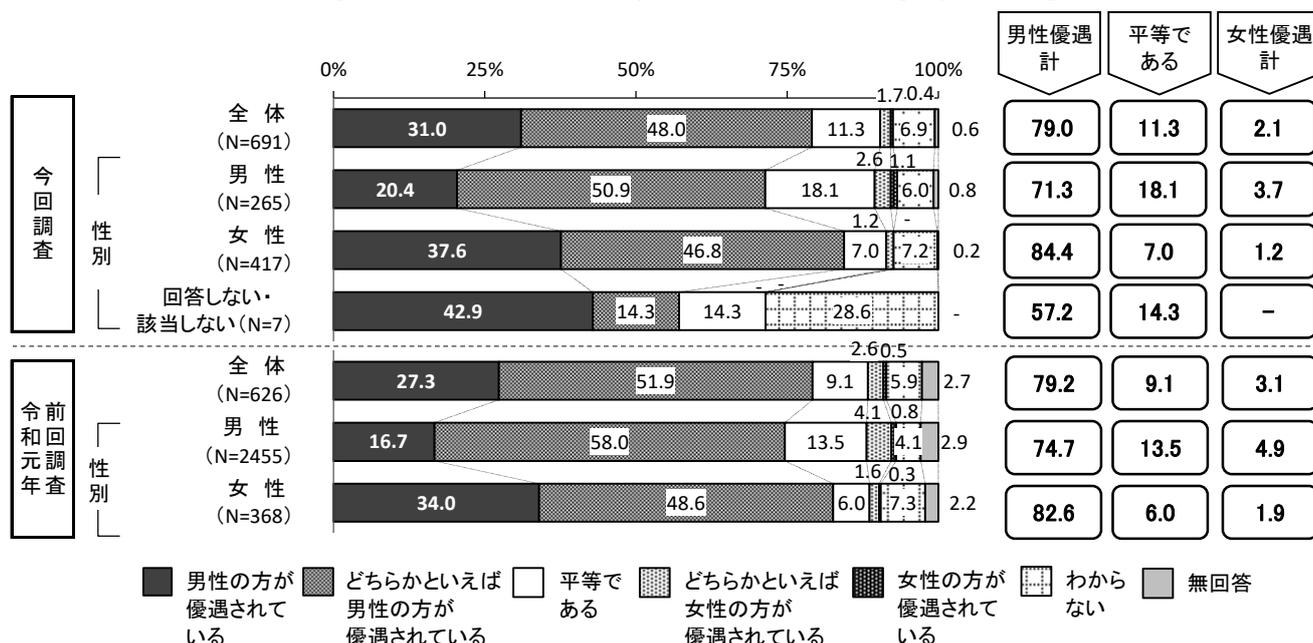
年齢別にみると、女性の 40 歳代と 50 歳代で『男性優遇』が約 7 割と高い。

図表 1-13 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	105	258	171	52	11	90	4	363	63
年齢別	男性:10・20歳代	22	9.1	13.6	36.4	9.1	13.6	18.2	-	22.7	22.7
	男性:30歳代	26	7.7	26.9	42.3	15.4	-	7.7	-	34.6	15.4
	男性:40歳代	43	9.3	25.6	37.2	14.0	4.7	9.3	-	34.9	18.7
	男性:50歳代	67	13.4	35.8	29.9	11.9	1.5	7.5	-	49.2	13.4
	男性:60歳代	69	4.3	31.9	43.5	10.1	-	10.1	-	36.2	10.1
	男性:70歳代以上	38	10.5	42.1	31.6	5.3	-	7.9	2.6	52.6	5.3
	女性:10・20歳代	32	15.6	31.3	21.9	6.3	-	25.0	-	46.9	6.3
	女性:30歳代	52	15.4	25.0	26.9	11.5	3.8	17.3	-	40.4	15.3
	女性:40歳代	82	26.8	41.5	9.8	8.5	1.2	12.2	-	68.3	9.7
	女性:50歳代	105	19.0	50.5	15.2	2.9	1.0	10.5	1.0	69.5	3.9
	女性:60歳代	97	16.5	41.2	19.6	5.2	-	17.5	-	57.7	5.2
	女性:70歳代以上	49	18.4	46.9	18.4	-	-	16.3	-	65.3	-
回答しない・該当しない		7	14.3	14.3	14.3	-	14.3	28.6	14.3		
無回答		2	-	50.0	-	-	-	-	50.0		

(カ) 社会通念、慣習、しきたりなど

図表1-14 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」について性別にみると、女性の『男性優遇』は84.4%で男性(71.3%)よりも13.1ポイント高く、『平等である』は11.1ポイント低いなど、男性自身も『男性優遇』との認識は高いが、女性の認識の方が強い分野である。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

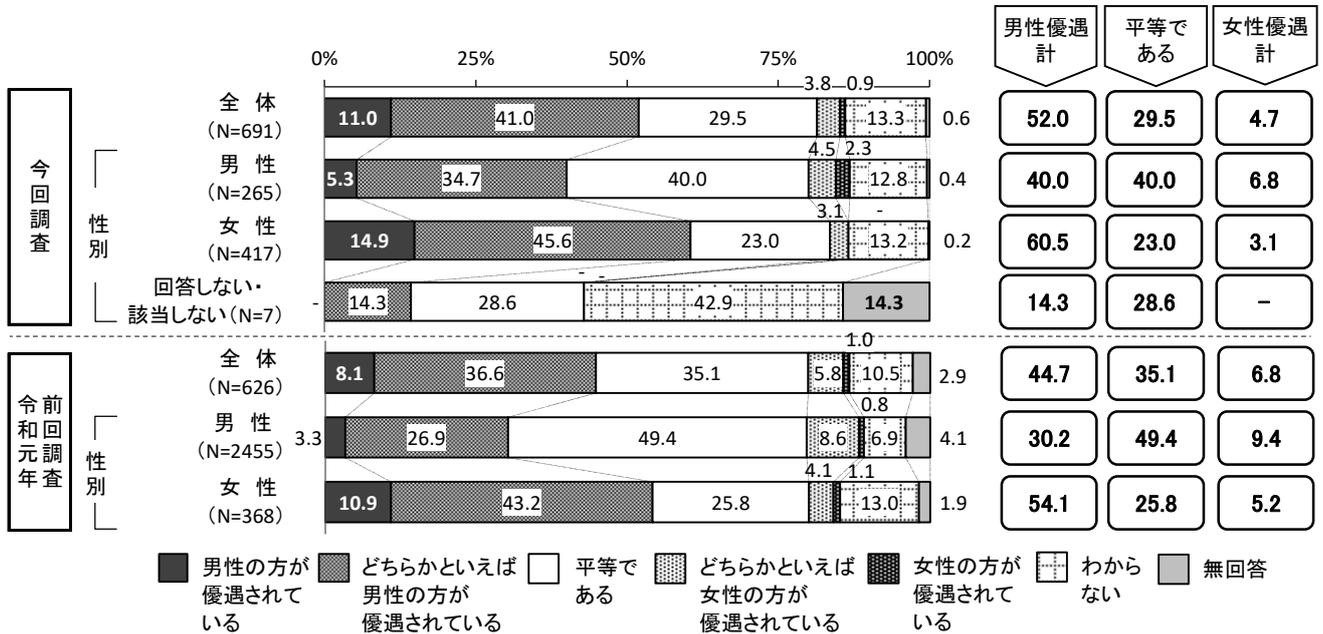
年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど『男性優遇』の割合が高くなる傾向がみられる。女性は30歳代以上では『男性優遇』が8割台半ばから約9割と高率である。

図表1-15 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	214	332	78	12	3	48	4	546	15
		100.0	31.0	48.0	11.3	1.7	0.4	6.9	0.6	79.0	2.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	13.6	27.3	31.8	9.1	4.5	13.6	-	40.9	13.6
	男性:30歳代	26	19.2	46.2	30.8	-	-	3.8	-	65.4	-
	男性:40歳代	43	16.3	48.8	20.9	2.3	2.3	9.3	-	65.1	4.6
	男性:50歳代	67	20.9	55.2	13.4	1.5	1.5	7.5	-	76.1	3.0
	男性:60歳代	69	21.7	55.1	15.9	2.9	-	2.9	1.4	76.8	2.9
	男性:70歳代以上	38	26.3	55.3	10.5	2.6	-	2.6	2.6	81.6	2.6
	女性:10・20歳代	32	15.6	43.8	12.5	-	-	25.0	3.1	59.4	-
	女性:30歳代	52	48.1	42.3	5.8	-	-	3.8	-	90.4	-
	女性:40歳代	82	42.7	46.3	4.9	1.2	-	4.9	-	89.0	1.2
	女性:50歳代	105	43.8	41.0	6.7	1.9	-	6.7	-	84.8	1.9
	女性:60歳代	97	32.0	49.5	10.3	1.0	-	7.2	-	81.5	1.0
	女性:70歳代以上	49	30.6	61.2	2.0	2.0	-	4.1	-	91.8	2.0
回答しない・該当しない		7	42.9	14.3	14.3	-	-	28.6	-	-	-
無回答		2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-

(キ) 地域活動・社会活動の場

図表 1-16 地域活動・社会活動の場などでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「地域活動・社会活動の場」について性別にみると、女性は『男性優遇』が60.5%で男性(40.0%)よりも20.5ポイント高く、『平等である』が23.0%で男性(40.0%)より17ポイント低いなど、女性の不平等感が強い分野である。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が6.4~9.8ポイント増えている。

年齢別にみると、女性では40歳代以上で『男性優遇』が約6割から7割と高い。男性では、30歳代で『平等である』の割合が50.0%と最も高く、60歳代以上や女性の10・20歳代でも4割台半ばと高い。

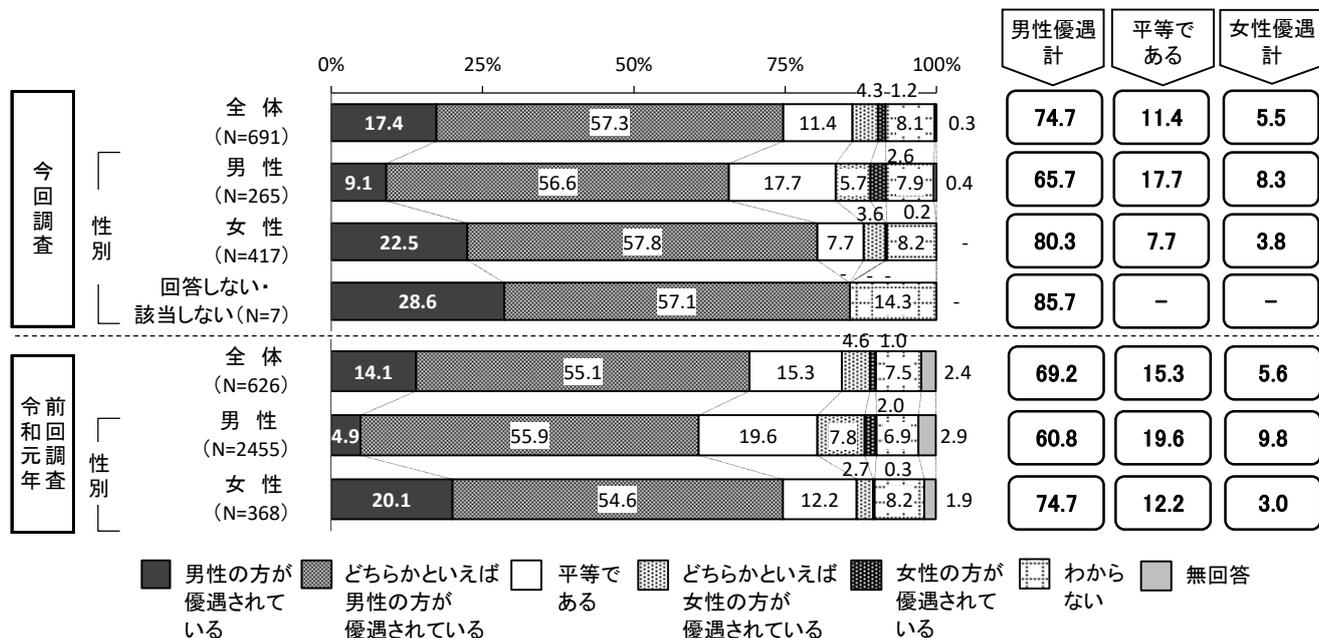
図表 1-17 地域活動・社会活動の場などでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	11.0	41.0	29.5	3.8	0.9	13.3	0.6	52.0	4.7
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	13.6	22.7	4.5	4.5	50.0	-	18.1	9.0
	男性:30歳代	26	3.8	23.1	50.0	3.8	3.8	15.4	-	26.9	7.6
	男性:40歳代	43	9.3	30.2	37.2	7.0	4.7	11.6	-	39.5	11.7
	男性:50歳代	67	6.0	43.3	34.3	4.5	1.5	10.4	-	49.3	6.0
	男性:60歳代	69	5.8	36.2	46.4	4.3	1.4	5.8	-	42.0	5.7
	男性:70歳代以上	38	-	42.1	44.7	2.6	-	7.9	2.6	42.1	2.6
	女性:10・20歳代	32	3.1	28.1	46.9	-	-	21.9	-	31.2	-
	女性:30歳代	52	19.2	26.9	32.7	1.9	-	19.2	-	46.1	1.9
	女性:40歳代	82	20.7	46.3	13.4	7.3	-	12.2	-	67.0	7.3
	女性:50歳代	105	14.3	48.6	24.8	2.9	-	9.5	-	62.9	2.9
	女性:60歳代	97	15.5	48.5	18.6	3.1	-	14.4	-	64.0	3.1
	女性:70歳代以上	49	8.2	63.3	18.4	-	-	8.2	2.0	71.5	-
回答しない・該当しない		7	-	14.3	28.6	-	-	42.9	14.3	-	-
無回答		2	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0

(ク) 社会全体

図表1-18 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



「社会全体」でみた場合を性別にみると、男性自身も『男性優遇』との認識は高いが、女性は『男性優遇』が80.3%と男性（65.7%）よりも14.6ポイント高く、『平等である』が7.7%と男性（17.7%）より10ポイント低いなど、女性の認識の方が強い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が4.9~5.6ポイント増え、『平等である』が女性で4.5ポイント減っている。

年齢別にみると、男女とも『男性優遇』の割合は年齢が高い層で高い傾向がみられる。

図表1-19 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

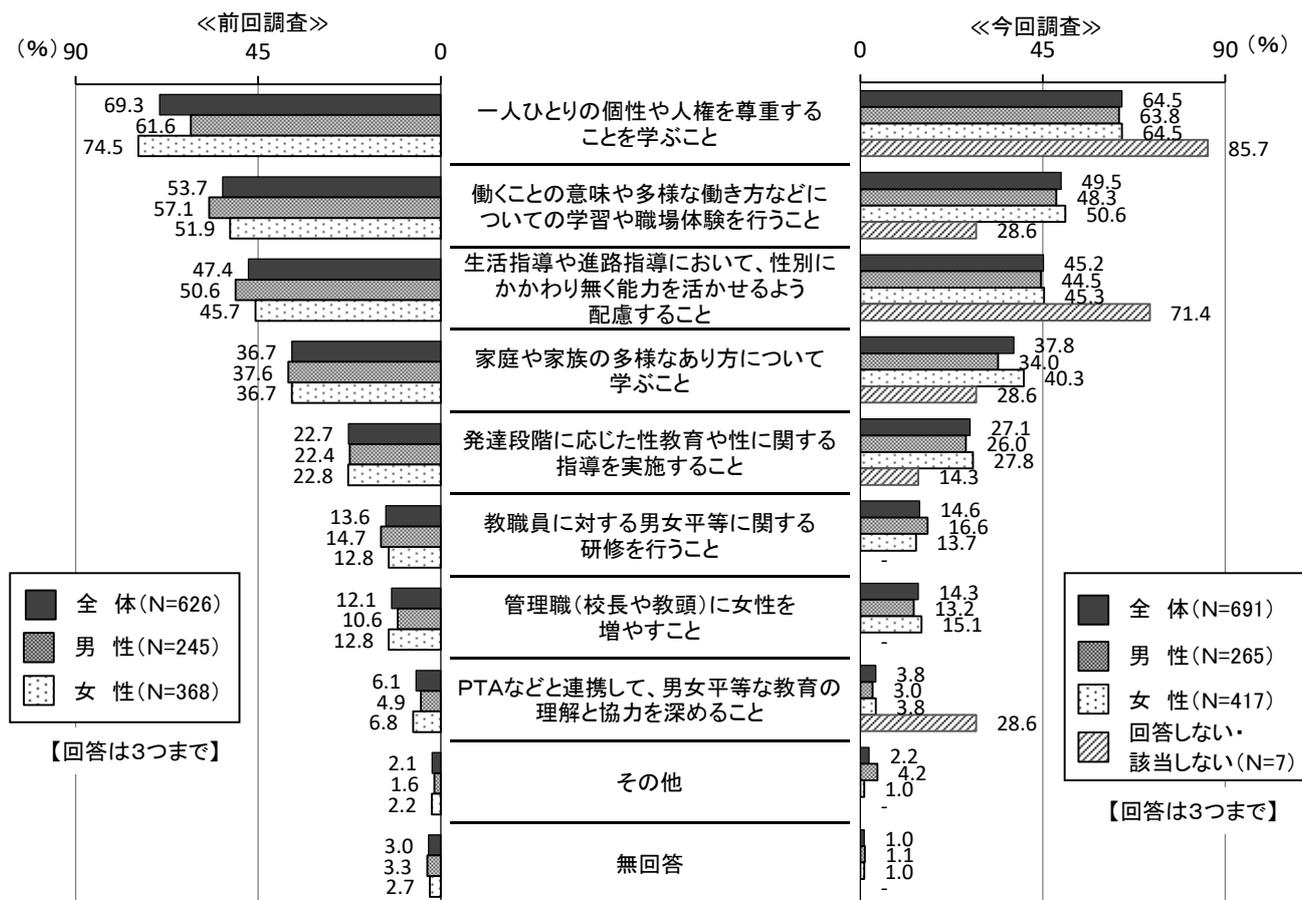
		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		691	120	396	79	30	8	56	2	516	38
		100.0	17.4	57.3	11.4	4.3	1.2	8.1	0.3	74.7	5.5
年齢別	男性:10・20歳代	22	9.1	22.7	18.2	9.1	9.1	31.8	-	31.8	18.2
	男性:30歳代	26	3.8	46.2	26.9	7.7	3.8	11.5	-	50.0	11.5
	男性:40歳代	43	11.6	55.8	18.6	4.7	4.7	4.7	-	67.4	9.4
	男性:50歳代	67	10.4	62.7	11.9	4.5	3.0	7.5	-	73.1	7.5
	男性:60歳代	69	8.7	58.0	20.3	8.7	-	4.3	-	66.7	8.7
	男性:70歳代以上	38	7.9	71.1	15.8	-	-	2.6	2.6	79.0	-
	女性:10・20歳代	32	9.4	46.9	12.5	3.1	-	28.1	-	56.3	3.1
	女性:30歳代	52	21.2	53.8	13.5	7.7	-	3.8	-	75.0	7.7
	女性:40歳代	82	30.5	51.2	4.9	6.1	-	7.3	-	81.7	6.1
	女性:50歳代	105	24.8	58.1	5.7	3.8	-	7.6	-	82.9	3.8
	女性:60歳代	97	19.6	64.9	6.2	1.0	1.0	7.2	-	84.5	2.0
	女性:70歳代以上	49	20.4	65.3	10.2	-	-	4.1	-	85.7	-
回答しない・該当しない		7	28.6	57.1	-	-	-	14.3	-	-	-
無回答		2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	-

## 第2章 子どもの育て方・教育について

### 1. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること

問3. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

図表2-1 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること  
[全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画を進めていくために学校教育で力を入れるべきことについて2つまで選んでもらったところ、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が64.5%で最も高く、次いで「働くことの意味や多様な働き方についての学習や職場体験を行うこと」が49.5%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が45.2%、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」が37.8%である。

性別でみてもあまり大きな差はみられない。

前回調査と比べると、男女とも割合が減っているか前回と同程度の項目が多いが、その中で「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は女性で5ポイント増えている。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は男性の30歳代と60歳代、女性の60歳代で7割台半ばと高く、また男性の30歳代では「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が61.5%と高い。「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は、男性の10・20歳代で40.9%と高く、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性の10・20歳代で56.3%と高い。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は女性の60歳代や男性の30歳代と70歳代以上で約6割と他の年齢に比べて高い。

図表2-2 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること [全体、年齢別]

(%)

	標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重すること	発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること	平等な教育の理解と協力を深めること	PTAなど連携して、男女体方働くことの意味や多様な働き方などについて学習や職場体験を行うこと	管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと	教職員の研修を行うこと	その他	無回答	
全体	691 100.0	446 64.5	187 27.1	261 37.8	312 45.2	26 3.8	342 49.5	99 14.3	101 14.6	15 2.2	7 1.0	
年齢別	男性:10・20歳代	22	54.5	40.9	31.8	31.8	4.5	40.9	4.5	13.6	-	-
	男性:30歳代	26	73.1	34.6	30.8	61.5	-	57.7	11.5	15.4	-	-
	男性:40歳代	43	60.5	30.2	27.9	46.5	2.3	51.2	9.3	16.3	4.7	-
	男性:50歳代	67	56.7	25.4	38.8	41.8	3.0	43.3	19.4	13.4	6.0	-
	男性:60歳代	69	65.2	20.3	39.1	36.2	4.3	44.9	11.6	18.8	5.8	4.3
	男性:70歳代以上	38	76.3	18.4	26.3	57.9	2.6	57.9	15.8	21.1	2.6	-
	女性:10・20歳代	32	59.4	28.1	56.3	31.3	-	34.4	25.0	6.3	3.1	-
	女性:30歳代	52	55.8	36.5	48.1	40.4	3.8	38.5	26.9	15.4	1.9	-
	女性:40歳代	82	56.1	35.4	50.0	42.7	4.9	45.1	15.9	13.4	1.2	1.2
	女性:50歳代	105	64.8	21.0	38.1	41.0	4.8	55.2	14.3	14.3	1.0	1.0
	女性:60歳代	97	75.3	22.7	29.9	57.7	4.1	61.9	8.2	12.4	-	-
	女性:70歳代以上	49	69.4	30.6	30.6	49.0	2.0	51.0	10.2	18.4	-	4.1
	回答しない・該当しない	7	85.7	14.3	28.6	71.4	28.6	28.6	-	-	-	-
無回答	2	100.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	

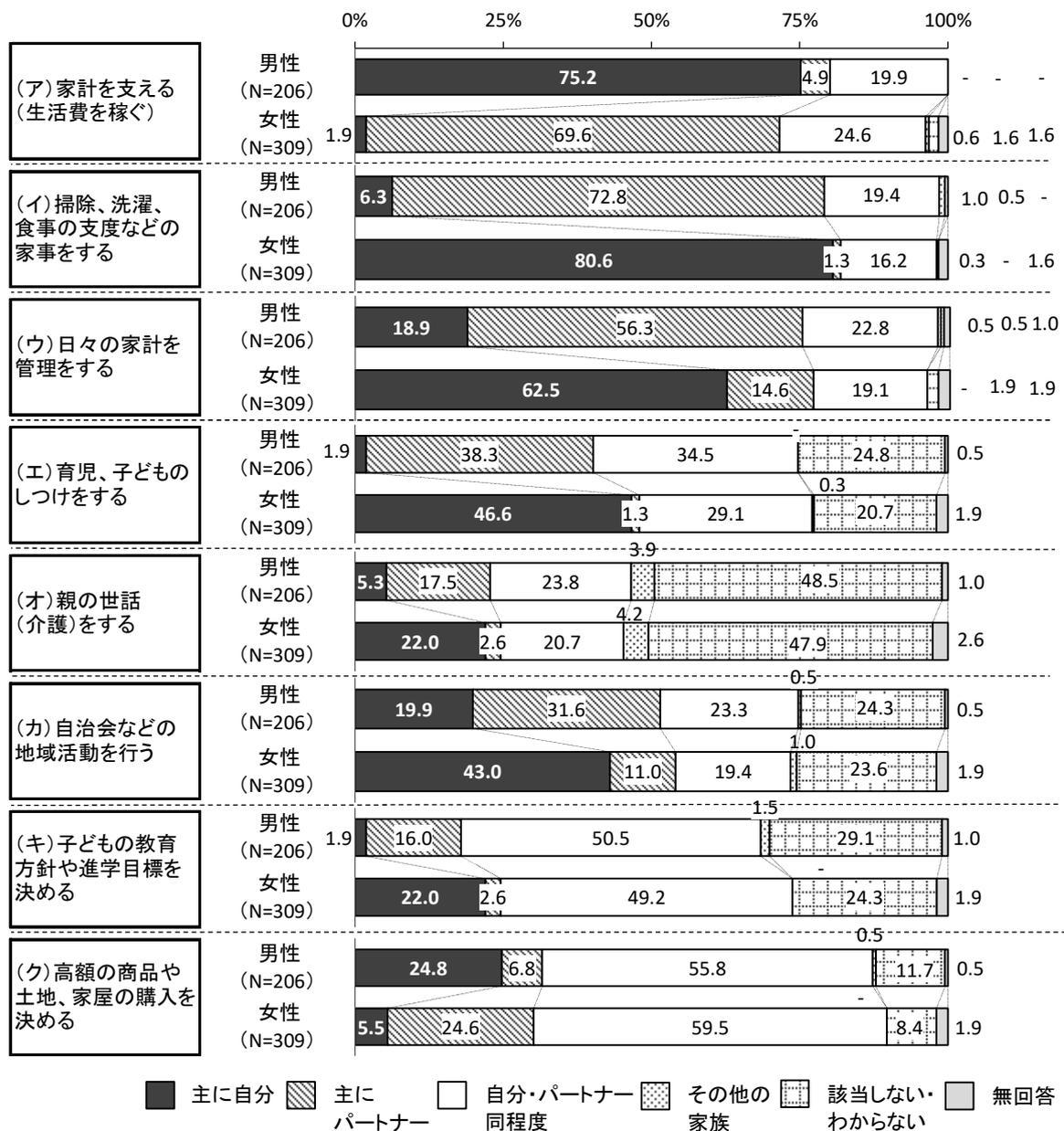
### 第3章 家庭生活について

#### 1. 家庭内での役割分担の状況

【現在パートナー（配偶者や恋人）と同居している方におたずねします。】

問4. あなたの家庭では、次のことを、主にどなたが行っていますか。次の（ア）から（ク）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。  
 （〇はそれぞれ1つだけ）

図表3-1 家庭内での役割分担 [性別]



同居するパートナーがいる人に家庭内での役割分担をたずねたところ、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」については、男性は「主に自分」が75.2%、女性は「主にパートナー」が69.6%と、約7割から7割台半ばの家庭は男性の役割である。「自分・パートナー同程度」は、男性が19.9%、女性が24.6%と女性の方が4.7ポイント高い。

「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」については、男性は「主にパートナー」が72.8%、女性は「主に自分」が80.6%と、約7割から8割の家庭は女性の役割である。「自分・パートナー同程度」は、男性が19.4%、女性が16.2%である。

「日々の家計を管理する」は、男性は「主にパートナー」が56.3%、女性は「主に自分」が62.5%と、5割台半ばから約6割の家庭は女性の役割である。主に男性が担っている家庭は男性で18.9%、女性で14.6%である。「自分・パートナー同程度」（男性22.8%、女性19.1%）は、男女ともに約2割である。

「育児、子どものしつけをする」については、男性は「主にパートナー」が38.3%で、女性は「主に自分」が46.6%と約4割から4割台半ばの家庭は女性の役割である。「自分・パートナー同程度」は男性が34.5%、女性は29.1%と男性の方が5.4ポイント高い。

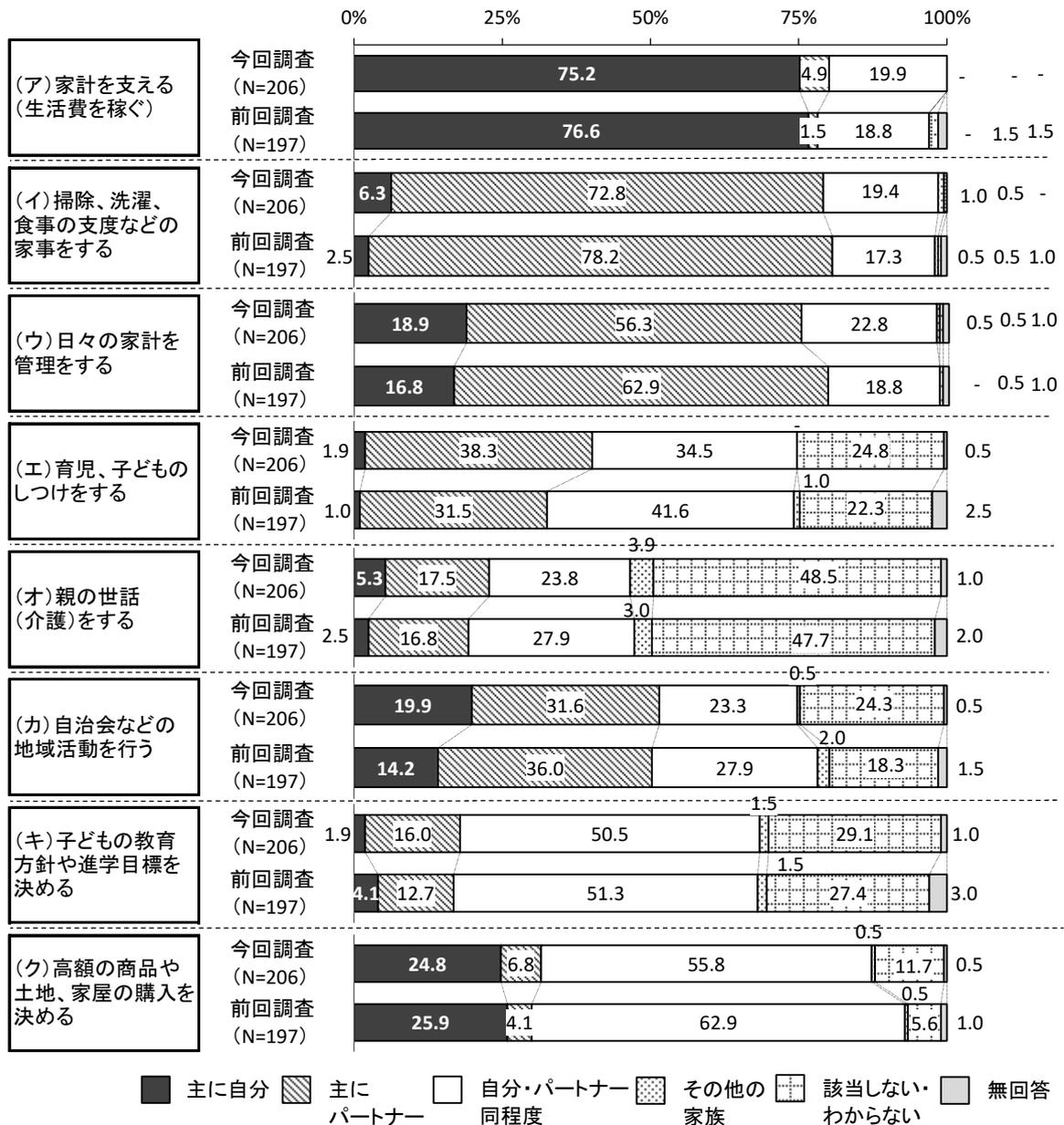
「親の世話（介護）をする」については、男性は「主にパートナー」が17.5%、女性は「主に自分」が22.0%と、約2割の家庭は女性の役割であるが、「自分・パートナー同程度」（男性23.8%、女性20.7%）も男女ともに約2割である。

「自治会などの地域活動を行う」は、男性は「主にパートナー」が31.6%、女性は「主に自分」が43.0%と高く、約3割から4割の家庭は女性の役割である。男性の「主に自分」は19.9%、女性の「主にパートナー」は11.0%と男性の方が8.9ポイント高い。「自分・パートナー同程度」（男性23.3%、女性19.4%）は、男女ともに約2割である。

「子どもの教育方針や進学目標を決める」は、男女ともに「自分・パートナー同程度」（男性50.5%、女性49.2%）が約5割と高い。主に女性が担っている家庭（男性16.0%、22.0%）は1割台半ばから約2割であるが、主に男性が担っている家庭（同1.9%、2.6%）は3%に満たず少ない。

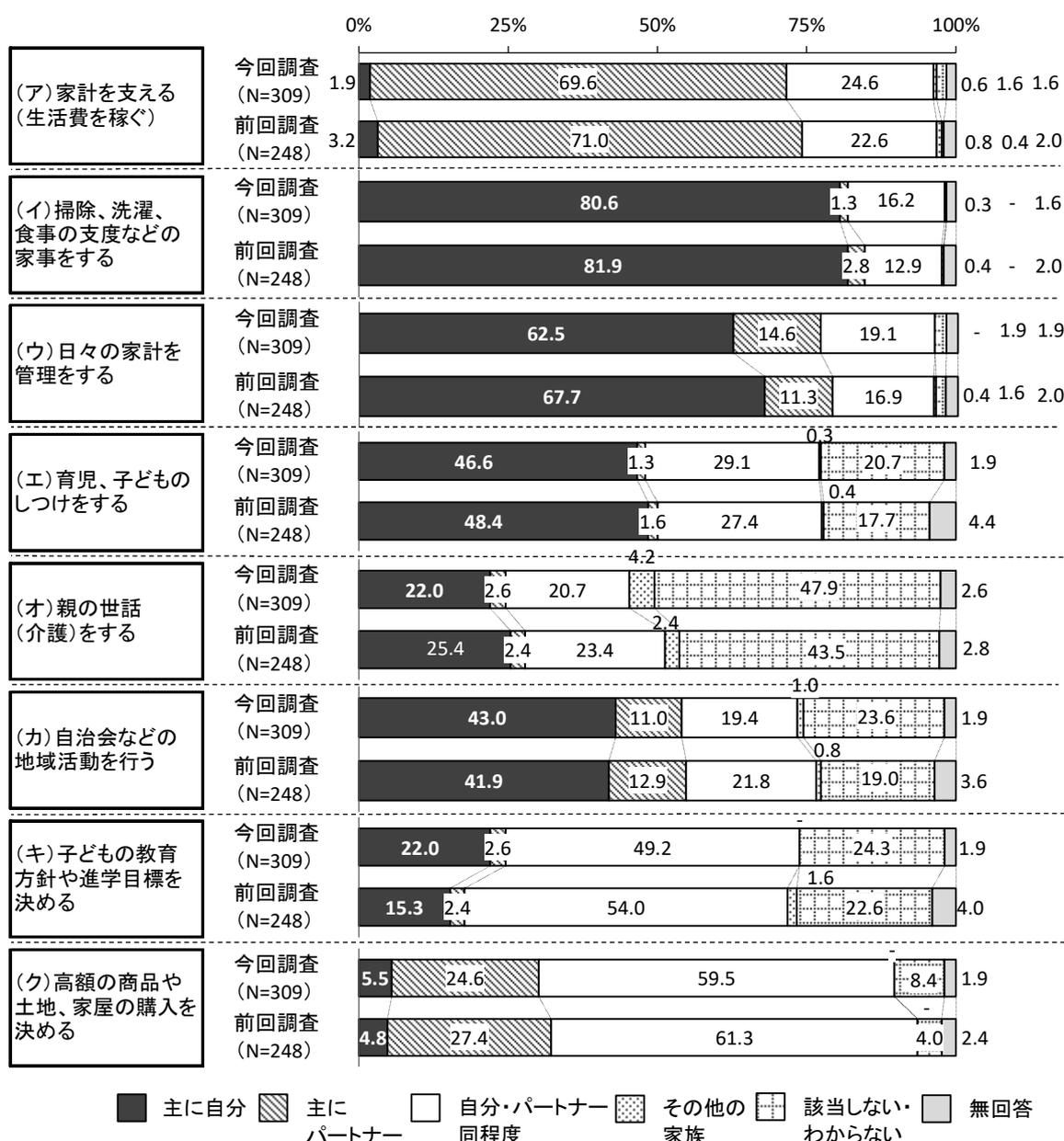
「高額の商品や土地、家屋の購入を決める」は、男女ともに「自分・パートナー同程度」（男性55.8%、女性59.5%）が5割台半ばから約6割と高い。主に男性が担っている家庭（同24.8%、24.6%）は2割台半ばであるのに対して、主に女性が担っている家庭（同6.8%、5.5%）は5%程度であり、大きな買い物については、同程度であるという家庭が多い一方で、男性に決定権がある場合も少なくない。

図表3-2 家庭内での役割分担〔男性〕（前回調査比較）



男性について前回調査と比べると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」や「子どもの教育方針や進学目標を決める」「高額の商品や土地、家屋の購入を決める」についてはあまり大きな差はみられない。「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」「日々の家計を管理する」はわずかであるが「主に自分」の割合が増え、また「自分・パートナー同程度」も増えている。「育児、子どものしつけをする」については、「自分・パートナー同程度」が7.1ポイント減り、「主にパートナー」の割合は6.8ポイント増えている。「親の世話（介護）をする」は「主に自分」の割合がやや増え、「自分・パートナー同程度」は4.1ポイント減少している。「自治会などの地域活動を行う」は「主に自分」が5.7ポイント増え、「主にパートナー」や「自分・パートナー同程度」は4.4～4.6ポイント減少している。

図表3-3 家庭内での役割分担 [女性] (前回調査比較)



女性について前回調査と比べると、「家計を支える (生活費を稼ぐ)」や「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」「育児、子どものしつけをする」「自治会などの地域活動を行う」「高額の商品や土地、家屋の購入を決める」などについてはあまり大きな差はみられない。「日々の家計を管理する」は「主に自分」が5.2ポイント減り、「主にパートナー」「自分・パートナー同程度」はやや増えている。「親の世話 (介護) をする」は「主に自分」の割合がやや減っている。「子どもの教育方針や進学目標を決める」は「主に自分」が6.7ポイント増え、「自分・パートナー同程度」は4.8ポイント減っている。

「家計を支える（生活費を稼ぐ）」について年齢別にみると、50歳代の男性で「主に自分」が84.2%、女性で「主にパートナー」が80.0%と男性の役割とする割合が最も高い。「自分・パートナー同程度」は女性の30歳代で38.5%と最も高い。

配偶状況別にみると、男女とも共働きである世帯では、「自分・パートナー同程度」が約3割、男性の役割とする割合は約6割台半ばである。

図表3-4 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、年齢別、配偶状況別]

(%)

		標本数	(ア)家計を支える(生活費を稼ぐ)					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・	
全体		517 100.0	162 31.3	225 43.5	118 22.8	2 0.4	5 1.0	5 1.0
年齢別	男性:10・20歳代	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-
	男性:30歳代	18	72.2	-	27.8	-	-	-
	男性:40歳代	35	74.3	11.4	14.3	-	-	-
	男性:50歳代	57	84.2	5.3	10.5	-	-	-
	男性:60歳代	58	72.4	1.7	25.9	-	-	-
	男性:70歳代以上	34	70.6	2.9	26.5	-	-	-
	女性:10・20歳代	7	-	71.4	28.6	-	-	-
	女性:30歳代	39	-	61.5	38.5	-	-	-
	女性:40歳代	69	1.4	72.5	26.1	-	-	-
	女性:50歳代	80	2.5	80.0	13.8	-	-	3.8
	女性:60歳代	78	2.6	65.4	25.6	2.6	1.3	2.6
	女性:70歳代以上	36	2.8	58.3	27.8	-	11.1	-
	回答しない・該当しない	1	100.0	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	68.5	4.5	27.0	-	-	-
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	83.2	5.3	11.6	-	-	-
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	1.6	65.3	31.1	-	-	2.1
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	2.6	76.7	13.8	1.7	4.3	0.9
	回答しない・該当しない	1	100.0	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-

「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」について年齢別にみると、男女とも年齢が低い層で「自分・パートナー同程度」の割合が高くなり、特に標本数は少ないが、10・20代で約4割から5割と高い。30歳代以上では約6割から8割台半ばの家庭は女性の役割である。

配偶状況別にみると、男女とも共働きである世帯で「自分・パートナー同程度」が約2割で、共働きでない男性の17.9%と大差は無い。男性は共働き、共働きでないに関わらず約7割が女性の役割と回答している。

図表3-5 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする〔全体、年齢別、配偶状況別〕

(%)

		標本数	(イ)掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする					
			主に自分	主にパートナー	自分同程度パートナー	その他の家族	該当しない・	無回答
全体		517	262	155	91	3	1	5
		100.0	50.7	30.0	17.6	0.6	0.2	1.0
年齢別	男性:10・20歳代	4	25.0	25.0	50.0	-	-	-
	男性:30歳代	18	-	61.1	38.9	-	-	-
	男性:40歳代	35	2.9	71.4	25.7	-	-	-
	男性:50歳代	57	5.3	82.5	10.5	1.8	-	-
	男性:60歳代	58	10.3	65.5	20.7	1.7	1.7	-
	男性:70歳代以上	34	5.9	82.4	11.8	-	-	-
	女性:10・20歳代	7	57.1	-	42.9	-	-	-
	女性:30歳代	39	76.9	-	23.1	-	-	-
	女性:40歳代	69	81.2	1.4	15.9	1.4	-	-
	女性:50歳代	80	78.8	2.5	15.0	-	-	3.8
	女性:60歳代	78	83.3	-	14.1	-	-	2.6
	女性:70歳代以上	36	86.1	2.8	11.1	-	-	-
	回答しない・該当しない	1	-	100.0	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	5.4	72.1	20.7	1.8	-	-
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	7.4	73.7	17.9	-	1.1	-
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	77.2	0.5	19.7	0.5	-	2.1
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	86.2	2.6	10.3	-	-	0.9
		回答しない・該当しない	1	-	100.0	-	-	-
		無回答	1	-	-	100.0	-	-

「日々の家計を管理する」について年齢別にみると、男性は10・20歳代や30歳代、50歳代、60歳代、女性は10・20歳代、40歳代で「自分・パートナー同程度」が2割を超えて他の年齢に比べて高い。

図表3-6 日々の家計を管理する〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	(ウ)日々の家計を管理をする					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・	
全体		517 100.0	233 45.1	162 31.3	106 20.5	1 0.2	7 1.4	8 1.5
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	-	100.0	-	-	-
	男性:30歳代	18	38.9	33.3	27.8	-	-	-
	男性:40歳代	35	25.7	60.0	11.4	-	2.9	-
	男性:50歳代	57	12.3	64.9	22.8	-	-	-
	男性:60歳代	58	22.4	50.0	25.9	1.7	-	-
	男性:70歳代以上	34	8.8	67.6	17.6	-	-	5.9
	女性:10・20歳代	7	57.1	14.3	28.6	-	-	-
	女性:30歳代	39	61.5	23.1	12.8	-	2.6	-
	女性:40歳代	69	62.3	11.6	24.6	-	1.4	-
	女性:50歳代	80	61.3	13.8	18.8	-	2.5	3.8
	女性:60歳代	78	61.5	15.4	17.9	-	2.6	2.6
	女性:70歳代以上	36	69.4	11.1	16.7	-	-	2.8
	回答しない・該当しない		1	100.0	-	-	-	-
無回答		1	-	100.0	-	-	-	-

「育児、子どものしつけをする」について年齢別にみると、男性の40歳代で「自分・パートナー同程度」が45.7%と最も高く、その前後の30歳代、50歳代でも3割台半ばを超えている。女性でも30歳代から50歳代で約3割から3割台半ばあるが、男性に比べて割合はやや低い。

一番下の子どもの状況別にみると、未就学児で「自分・パートナー同程度」が男性は53.8%と最も高く、小学生・中学生から高校生以上の生徒・学生でも4割台半ばである。女性は未就学児で「自分・パートナー同程度」が45.9%と男性より7.9ポイント低く、「主に自分」(51.4%)の方が5.5ポイント高い。小学生・中学生から高校生以上の生徒・学生では「自分・パートナー同程度」が3割台半ばから約4割と男性より低い割合で、男女の認識に差がみられる。

図表3-7 育児、子どものしつけをする〔全体、年齢別、一番下の子どもの状況別〕

(%)

		標本数	(エ)育児、子どものしつけをする					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・パートナー程度	その他の家族	該当しない・	
全体		517 100.0	148 28.6	84 16.2	162 31.3	1 0.2	115 22.2	7 1.4
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	25.0	25.0	-	50.0	-
	男性:30歳代	18	-	38.9	38.9	-	22.2	-
	男性:40歳代	35	-	40.0	45.7	-	14.3	-
	男性:50歳代	57	1.8	47.4	36.8	-	14.0	-
	男性:60歳代	58	3.4	37.9	24.1	-	34.5	-
	男性:70歳代以上	34	2.9	23.5	35.3	-	35.3	2.9
	女性:10・20歳代	7	42.9	-	14.3	-	42.9	-
	女性:30歳代	39	46.2	-	35.9	-	17.9	-
	女性:40歳代	69	52.2	2.9	33.3	-	11.6	-
	女性:50歳代	80	45.0	1.3	33.8	-	16.3	3.8
	女性:60歳代	78	44.9	-	26.9	1.3	24.4	2.6
	女性:70歳代以上	36	44.4	2.8	11.1	-	38.9	2.8
	回答しない・該当しない	1	-	-	100.0	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-	-	-	-
一番下の子どもの状況別	男性:未就学児	13	-	46.2	53.8	-	-	-
	男性:小学生・中学生	46	-	52.2	45.7	-	2.2	-
	男性:高校生以上の生徒・学生	22	4.5	50.0	45.5	-	-	-
	男性:社会人・その他	100	3.0	38.0	30.0	-	28.0	1.0
	女性:未就学児	37	51.4	2.7	45.9	-	-	-
	女性:小学生・中学生	59	64.4	-	35.6	-	-	-
	女性:高校生以上の生徒・学生	34	52.9	5.9	38.2	-	2.9	-
	女性:社会人・その他	150	46.0	0.7	24.7	0.7	24.0	4.0
		回答しない・該当しない	1	-	-	100	-	-
	無回答	55.0	-	1.8	9.1	-	89.1	-

「親の世話（介護）をする」について年齢別にみると、女性では60歳代以上で、「自分・パートナー同程度」よりも「主に自分」の割合の方が高くなっている。

図表3-8 親の世話（介護）をする〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	(オ)親の世話(介護)をする					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・同程度	その他の家族	該当しない	
全体		517 100.0	79 15.3	44 8.5	115 22.2	21 4.1	248 48.0	10 1.9
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	-	-	-	100.0	-
	男性:30歳代	18	-	16.7	16.7	5.6	61.1	-
	男性:40歳代	35	2.9	11.4	20.0	5.7	60.0	-
	男性:50歳代	57	10.5	17.5	26.3	3.5	42.1	-
	男性:60歳代	58	6.9	20.7	29.3	1.7	41.4	-
	男性:70歳代以上	34	-	20.6	20.6	5.9	47.1	5.9
	女性:10・20歳代	7	-	-	14.3	-	85.7	-
	女性:30歳代	39	10.3	-	10.3	-	79.5	-
	女性:40歳代	69	18.8	1.4	24.6	5.8	49.3	-
	女性:50歳代	80	23.8	6.3	26.3	6.3	33.8	3.8
	女性:60歳代	78	28.2	2.6	23.1	2.6	38.5	5.1
	女性:70歳代以上	36	27.8	-	8.3	5.6	55.6	2.8
	回答しない・該当しない		1	-	-	100.0	-	-
無回答		1	-	-	100.0	-	-	-

「自治会などの地域活動を行う」について年齢別にみると、女性は40歳代と50歳代で「主に自分」が約5割、60歳代以上でも約4割である。男性は30歳以上で「主に自分」の割合より「主にパートナー」の割合が3割から3割台半ばで高い。

図表3-9 自治会などの地域活動を行う〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	(カ)自治会などの地域活動を行う					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・同程度	その他の家族	該当しない	
全体		517 100.0	174 33.7	99 19.1	109 21.1	4 0.8	124 24.0	7 1.4
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	25.0	-	-	75.0	-
	男性:30歳代	18	5.6	27.8	27.8	-	38.9	-
	男性:40歳代	35	11.4	34.3	22.9	-	31.4	-
	男性:50歳代	57	24.6	28.1	29.8	1.8	15.8	-
	男性:60歳代	58	20.7	36.2	19.0	-	24.1	-
	男性:70歳代以上	34	29.4	29.4	20.6	-	17.6	2.9
	女性:10・20歳代	7	-	14.3	-	-	85.7	-
	女性:30歳代	39	30.8	10.3	23.1	-	35.9	-
	女性:40歳代	69	50.7	7.2	20.3	-	21.7	-
	女性:50歳代	80	47.5	12.5	21.3	-	15.0	3.8
	女性:60歳代	78	43.6	14.1	20.5	1.3	17.9	2.6
	女性:70歳代以上	36	38.9	8.3	11.1	5.6	33.3	2.8
	回答しない・該当しない		1	-	-	100.0	-	-
無回答		1	-	-	-	-	100.0	-

「子どもの教育方針や進学目標を決める」について年齢別にみると、男女ともすべての年代において「自分・パートナー同程度」の割合が最も高い。女性の30歳代から50歳代で「主に自分」が約2割から3割、男性の40歳代と50歳代で「主にパートナー」が約2割から2割台半ばと比較的高い。

一番下の子どもの状況別にみると、女性は小学生・中学生がいる場合「主に自分」が44.1%と高く、未就学児や高校生以上の生徒・学生がいる場合でも2割台半ばと比較的高い。男性は小学生・中学生、高校生以上の生徒・学生がいる場合「主にパートナー」の割合が約2割から3割と比較的高い。

図表3-10 子どもの教育方針や進学目標を決める [全体、年齢別、一番下の子どもの年齢別]

(%)

		標本数	(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・回答しない	
全体		517 100.0	72 13.9	41 7.9	258 49.9	3 0.6	135 26.1	8 1.5
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	-	50.0	-	50.0	-
	男性:30歳代	18	-	11.1	72.2	-	16.7	-
	男性:40歳代	35	2.9	20.0	60.0	2.9	14.3	-
	男性:50歳代	57	-	26.3	52.6	3.5	17.5	-
	男性:60歳代	58	5.2	12.1	43.1	-	37.9	1.7
	男性:70歳代以上	34	-	5.9	38.2	-	52.9	2.9
	女性:10・20歳代	7	14.3	-	42.9	-	42.9	-
	女性:30歳代	39	30.8	-	51.3	-	17.9	-
	女性:40歳代	69	30.4	5.8	50.7	-	13.0	-
	女性:50歳代	80	23.8	5.0	46.3	-	21.3	3.8
	女性:60歳代	78	14.1	-	52.6	-	29.5	3.8
	女性:70歳代以上	36	11.1	-	44.4	-	44.4	-
	回答しない・該当しない		1	-	-	100.0	-	-
無回答		1	-	-	100.0	-	-	-
一番下の子どもの状況別	男性:未就学児	13	-	15.4	84.6	-	-	-
	男性:小学生・中学生	46	2.2	28.3	63.0	2.2	4.3	-
	男性:高校生以上の生徒・学生	22	-	22.7	59.1	9.1	9.1	-
	男性:社会人・その他	100	3.0	13.0	47.0	-	35.0	2.0
	女性:未就学児	37	24.3	2.7	70.3	-	2.7	-
	女性:小学生・中学生	59	44.1	3.4	49.2	-	3.4	-
	女性:高校生以上の生徒・学生	34	26.5	11.8	58.8	-	2.9	-
	女性:社会人・その他	150	16.0	0.7	49.3	-	30.0	4.0
	回答しない・該当しない		1	-	-	100	-	-
無回答		55.0	-	-	14.5	-	85.5	-

「高額の商品や土地、家屋の購入を決める」について年齢別にみると、男女ともすべての年代において「自分・パートナー同程度」が最も高いが、女性では40歳代と50歳代で「主にパートナー」、男性では60歳代以上で「主に自分」とする割合が3割を超えて比較的高い。

図表3-11 高額の商品や土地、家屋の購入を決める〔全体、年齢別〕

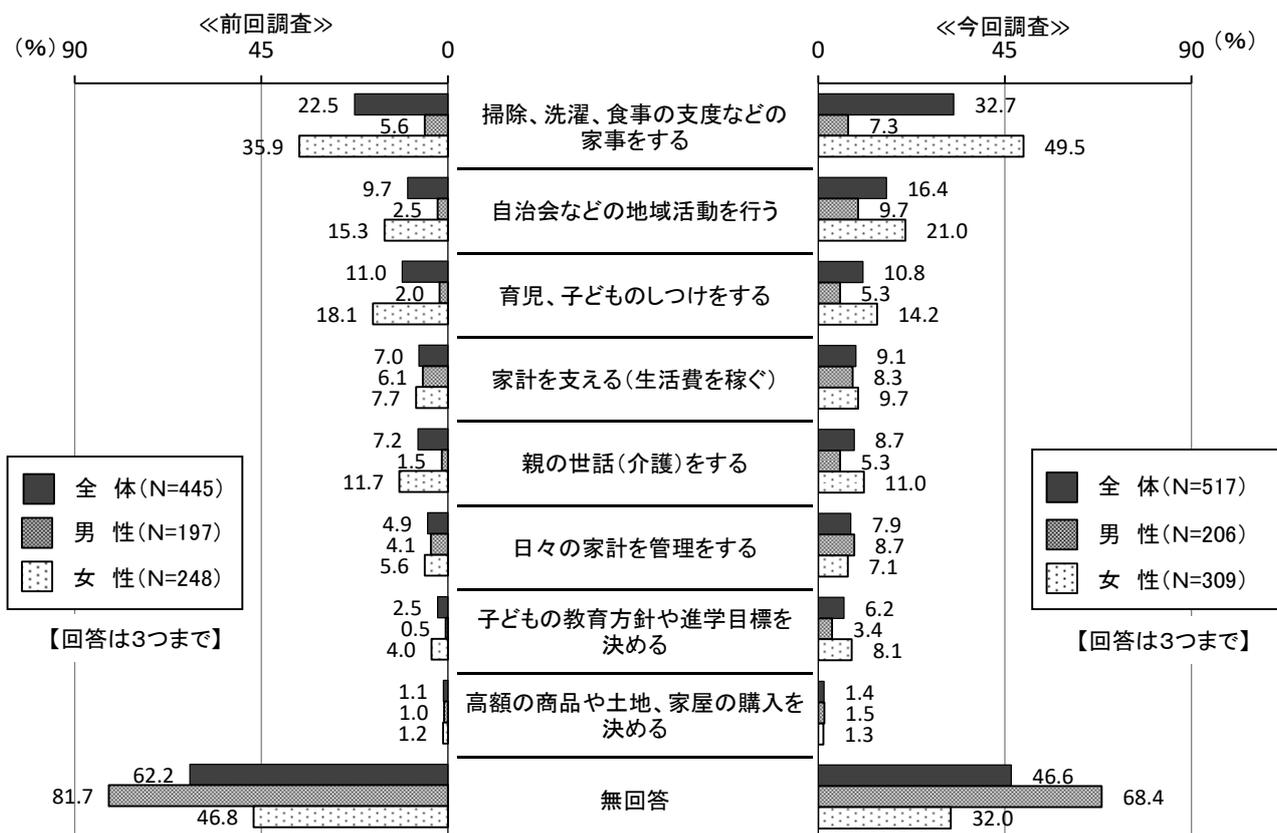
(%)

		標本数	(ク)高額の商品や土地、家屋の購入を決める					無回答
			主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・	
全体		517 100.0	69 13.3	90 17.4	300 58.0	1 0.2	50 9.7	7 1.4
年齢別	男性:10・20歳代	4	25.0	-	75.0	-	-	-
	男性:30歳代	18	11.1	5.6	77.8	5.6	-	-
	男性:40歳代	35	20.0	14.3	45.7	-	20.0	-
	男性:50歳代	57	19.3	8.8	59.6	-	12.3	-
	男性:60歳代	58	29.3	5.2	50.0	-	13.8	1.7
	男性:70歳代以上	34	38.2	-	55.9	-	5.9	-
	女性:10・20歳代	7	-	-	85.7	-	14.3	-
	女性:30歳代	39	7.7	17.9	66.7	-	7.7	-
	女性:40歳代	69	2.9	30.4	62.3	-	4.3	-
	女性:50歳代	80	3.8	31.3	53.8	-	7.5	3.8
	女性:60歳代	78	6.4	20.5	60.3	-	10.3	2.6
	女性:70歳代以上	36	11.1	19.4	52.8	-	13.9	2.8
回答しない・該当しない		1	100.0	-	-	-	-	-
無回答		1	-	-	100.0	-	-	-

2. パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと

付問4-1. 問4で（ア）から（ク）のうち、配偶者・パートナーに「もっとしてほしい」と思う項目があれば、下の欄にご記入ください。（記入は3つまで）

図表3-12 パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと [全体、性別]（前回調査比較）



パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしい」と思う項目をたずねたところ、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が32.7%で最も高く、次いで、「自治会などの地域活動を行う」が16.4%、「育児、子どものしつけをする」が10.8%である。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が割合は高い。特に「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」（男性7.3%、女性49.5%）は女性の方が42.2ポイントも高く、その他「自治会などの地域活動を行う」（同9.7%、21.0%）は11.3ポイント、「育児、子どものしつけをする」（同5.3%、14.2%）は8.9ポイントなど、全体的に男女の隔たりが大きい。男性では、68.4%が無回答である。

前回調査と比べると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」「自治会などの地域活動を行う」などで女性の割合が5.7~13.6ポイント高い。

年齢別にみると、女性の30歳代と40歳代、60歳代以上では「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が5割台と高く、また30歳代以下では「育児、子どものしつけをする」も約3割と高い。女性の40歳代から60歳代で「自治会などの地域活動を行う」が2割台、40歳代と50歳代では「親の世話（介護）をする」が1割台半ばと他の年齢に比べて高い。男性の40歳代では「家計を支える（生活費を稼ぐ）」が20.0%、30歳代で「日々の家計を管理する」が22.2%で高い。

図表3-13 パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと〔全体、年齢別〕

			(%)									
		標本数	活家計を支える（生活費を稼ぐ）	を掃除、洗濯、食事を支度する	を日々の家計を管理する	つ育児、子どものしつけをする	を親の世話（介護）をする	活自治会などの地域活動を行う	子どもや学目標を育め針	地、家の購入を	高額の商品や土	無回答
全体		517 100.0	47 9.1	169 32.7	41 7.9	56 10.8	45 8.7	85 16.4	32 6.2	7 1.4	241 46.6	
年齢別	男性:10・20歳代	4	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	男性:30歳代	18	16.7	5.6	22.2	11.1	11.1	5.6	16.7	5.6	55.6	
	男性:40歳代	35	20.0	20.0	14.3	8.6	-	2.9	5.7	-	54.3	
	男性:50歳代	57	7.0	7.0	8.8	8.8	8.8	19.3	1.8	1.8	59.6	
	男性:60歳代	58	3.4	5.2	6.9	-	6.9	8.6	1.7	-	74.1	
	男性:70歳代以上	34	2.9	-	-	2.9	-	5.9	-	2.9	91.2	
	女性:10・20歳代	7	-	28.6	14.3	28.6	-	-	-	-	-	57.1
	女性:30歳代	39	15.4	51.3	12.8	33.3	5.1	10.3	15.4	2.6	20.5	
	女性:40歳代	69	14.5	58.0	14.5	21.7	15.9	24.6	17.4	1.4	18.8	
	女性:50歳代	80	11.3	38.8	3.8	11.3	15.0	26.3	6.3	-	35.0	
	女性:60歳代	78	2.6	53.8	3.8	6.4	9.0	20.5	2.6	1.3	38.5	
	女性:70歳代以上	36	8.3	50.0	-	-	5.6	19.4	-	2.8	44.4	
回答しない・該当しない		1	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
無回答		1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	

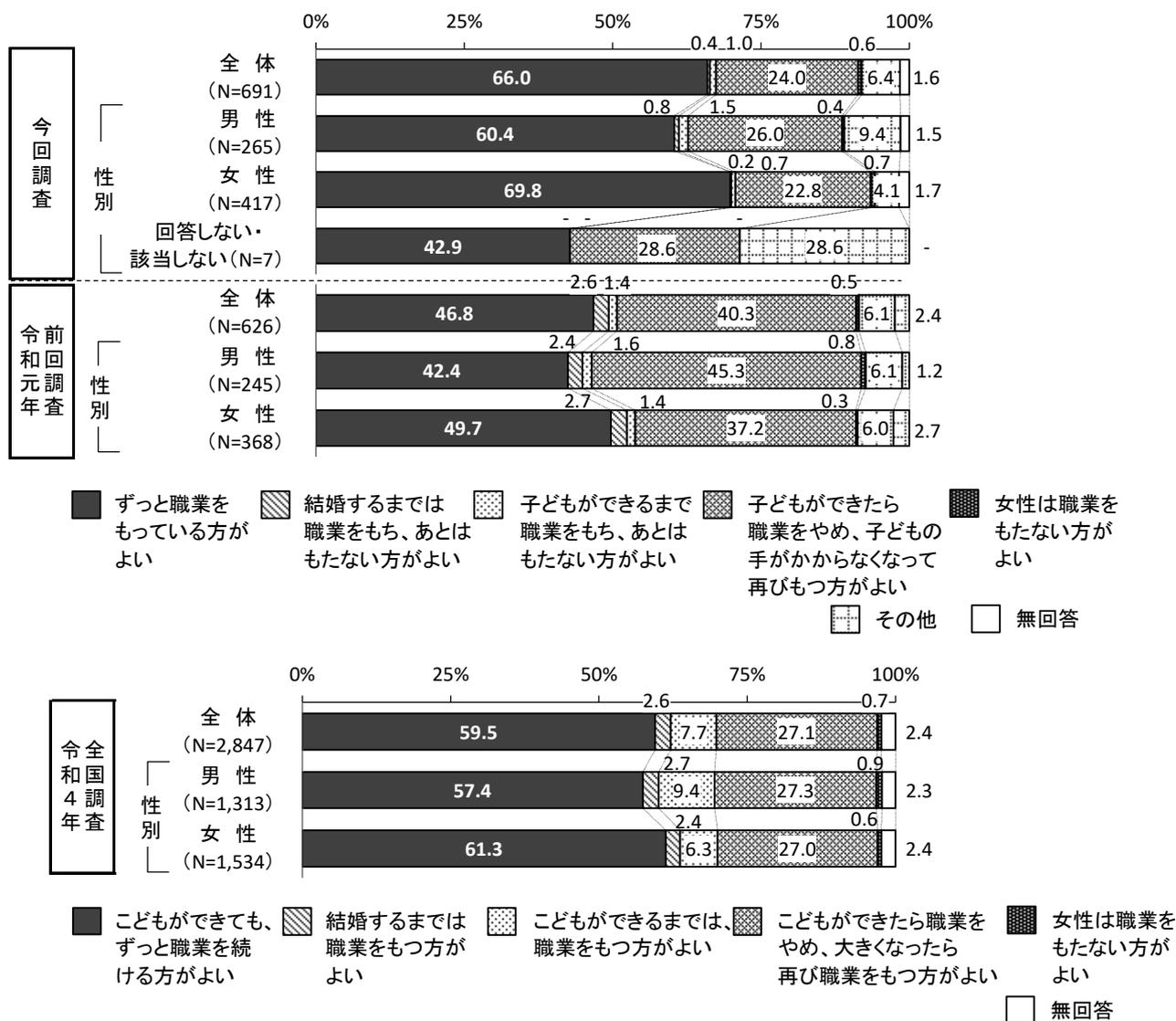
## 第4章 職業や仕事について

### 1. 女性が職業をもつことについて

問5. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。

(○は1つだけ)

図表4-1 女性が職業をもつことについて [全体、性別] (前回・全国調査比較)



女性が職業をもつことについての考えをたずねたところ、「ずっと職業をもっている方がよい」が66.0%で最も高く、次いで、「子どもができれば職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」が24.0%である。

性別にみると、「ずっと職業をもっている方がよい」は女性では69.8%と、男性(60.4%)よりも9.4ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「ずっと職業をもっている方がよい」が18~20.1ポイント増加し、「子どもができれば職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」が14.4~19.3ポイント減少するなど、この5年間の市民の意識の変化が顕著にみられる。

全国調査と比べると、「ずっと職業をもっている方がよい」は男女とも今回調査の方が3～8.5ポイント高い。

年齢別にみると、「子どもができたなら職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」は男性の70歳以上で42.1%、50歳代と60歳代、女性の50歳代でも約3割と他の年齢よりも高いが、男性の70歳代以上を除く年齢で「ずっと職業をもっている方がよい」が約6割から7割と高い。

図表4-2 女性が職業をもつことについて〔全体、年齢別〕

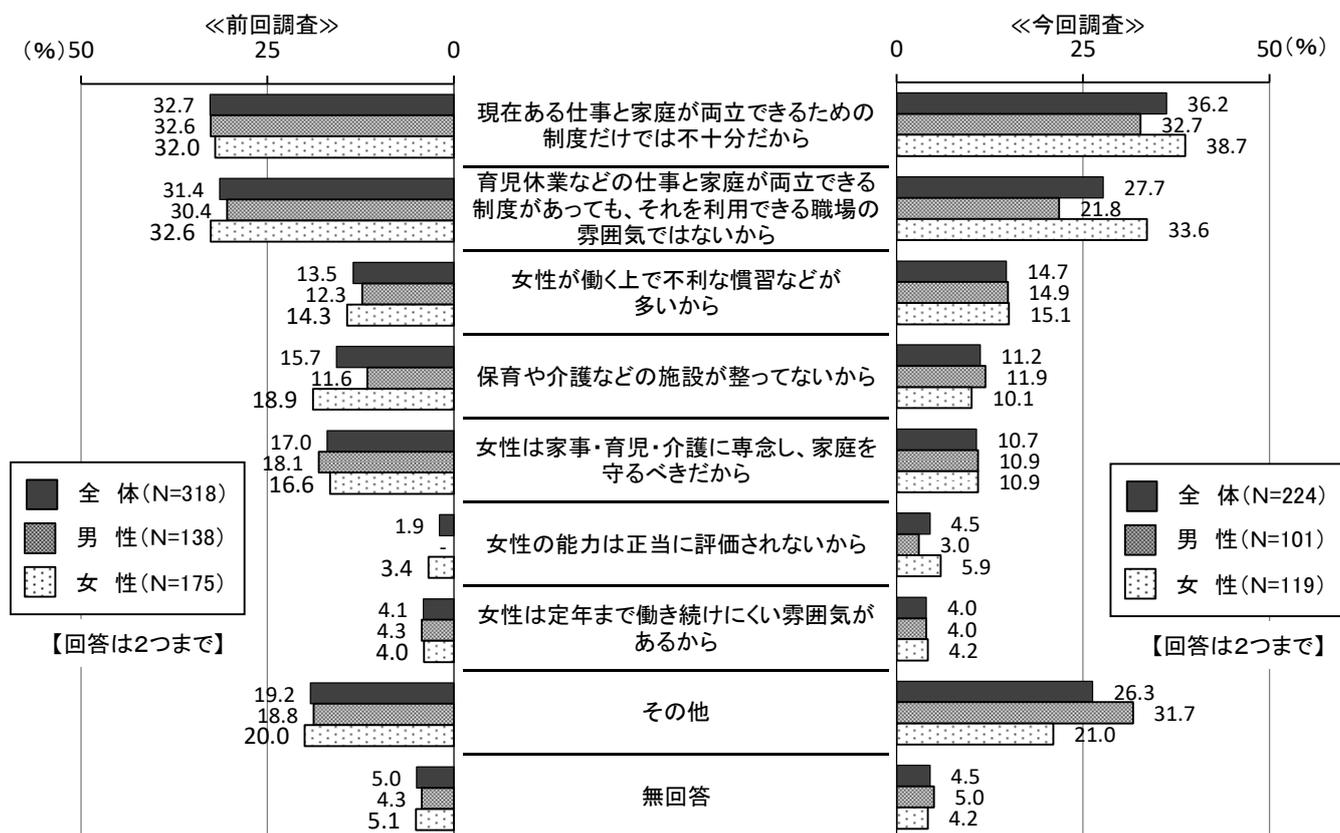
		(%)								
		標本数	がずっと職業をもっている方	いち結婚するまでは職業をもっている方	よも子どもあともできる職業が	子どもあともできる職業が	くめ子どもが再びもつ方がよい	よ女性職業をもたない方が	その他	無回答
全体		691 100.0	456 66.0	3 0.4	7 1.0	166 24.0	4 0.6	44 6.4	11 1.6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	59.1	4.5	4.5	9.1	-	22.7	-	
	男性:30歳代	26	69.2	-	-	15.4	-	15.4	-	
	男性:40歳代	43	72.1	-	-	18.6	-	9.3	-	
	男性:50歳代	67	56.7	1.5	1.5	28.4	1.5	10.4	-	
	男性:60歳代	69	60.9	-	1.4	29.0	-	5.8	2.9	
	男性:70歳代以上	38	47.4	-	2.6	42.1	-	2.6	5.3	
	女性:10・20歳代	32	71.9	-	3.1	12.5	-	12.5	-	
	女性:30歳代	52	69.2	-	1.9	25.0	-	3.8	-	
	女性:40歳代	82	75.6	-	-	18.3	2.4	3.7	-	
	女性:50歳代	105	62.9	1.0	-	28.6	-	6.7	1.0	
	女性:60歳代	97	71.1	-	1.0	22.7	1.0	-	4.1	
	女性:70歳代以上	49	71.4	-	-	22.4	-	2.0	4.1	
	回答しない・該当しない	7	42.9	-	-	28.6	-	28.6	-	
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	-		

2. 女性が職業をずっともたない方がいい理由

【問5で「2」～「6」のいずれかに答えた方に】

付問5-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

図表4-3 女性が職業をずっともたない方がいい理由 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業を継続しない方がいいと考える理由をたずねたところ、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が36.2%と最も高く、次いで「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」が27.7%である。

性別にみると、全体的に男女の差は小さいが、女性は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」(男性21.8%、女性33.6%)が11.8ポイント、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」(同32.7%、38.7%)が6ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、女性は「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が6.7ポイント増えているが、その他を除く他の項目は割合が減少か同程度である。特に、男性では「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が8.6ポイント減、女性は「保育や介護などの施設が整ってないから」が8.8ポイント減、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は男女とも5.7～7.2ポイント減である。

年齢別にみると、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は、男性の30歳代と40歳代、女性の40歳代と60歳代以上で約4割から5割台半ば、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は女性の40歳代と60歳代以上で4割台と他の年齢よりも高い。その他「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性の30歳代と40歳代、男性の70歳代以上で2割台半ばから約3割、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は男性の60歳代で24.0%と比較的高いのが目立つ。

図表4-4 女性が職業をずっともたない方がいい理由 [全体、年齢別]

		標本数	家庭を守るべきだから 女性は家事・育児・介護に専念し、	女性はあるから 気が定年まで働き続けにくい雰囲気	女性の能力は正当に評価されないから	女性が働く上で不利な慣習などが多いから	育児休業などの仕事と家庭が両立できるときは職場の雰囲気ではないから	現在ある仕事と家庭が両立できないから	保育や介護などの施設が整っていないから	その他	無回答
全体		224 100.0	24 10.7	9 4.0	10 4.5	33 14.7	62 27.7	81 36.2	25 11.2	59 26.3	10 4.5
年齢別	男性:10・20歳代	9	11.1	-	-	-	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1
	男性:30歳代	8	-	-	-	12.5	12.5	50.0	-	37.5	-
	男性:40歳代	12	16.7	-	8.3	16.7	16.7	41.7	8.3	25.0	8.3
	男性:50歳代	29	-	3.4	3.4	13.8	24.1	31.0	13.8	44.8	6.9
	男性:60歳代	25	24.0	4.0	-	12.0	16.0	28.0	12.0	32.0	-
	男性:70歳代以上	18	11.1	11.1	5.6	27.8	33.3	33.3	11.1	16.7	5.6
	女性:10・20歳代	9	-	-	22.2	-	22.2	22.2	-	44.4	-
	女性:30歳代	16	12.5	6.3	6.3	25.0	31.3	31.3	12.5	12.5	12.5
	女性:40歳代	20	10.0	-	15.0	30.0	40.0	55.0	5.0	20.0	-
	女性:50歳代	38	13.2	5.3	-	5.3	23.7	31.6	15.8	28.9	5.3
	女性:60歳代	24	12.5	8.3	4.2	16.7	45.8	41.7	4.2	16.7	4.2
	女性:70歳代以上	12	8.3	-	-	16.7	41.7	50.0	16.7	-	-
回答しない・該当しない		4	-	-	-	-	-	50.0	25.0	50.0	-

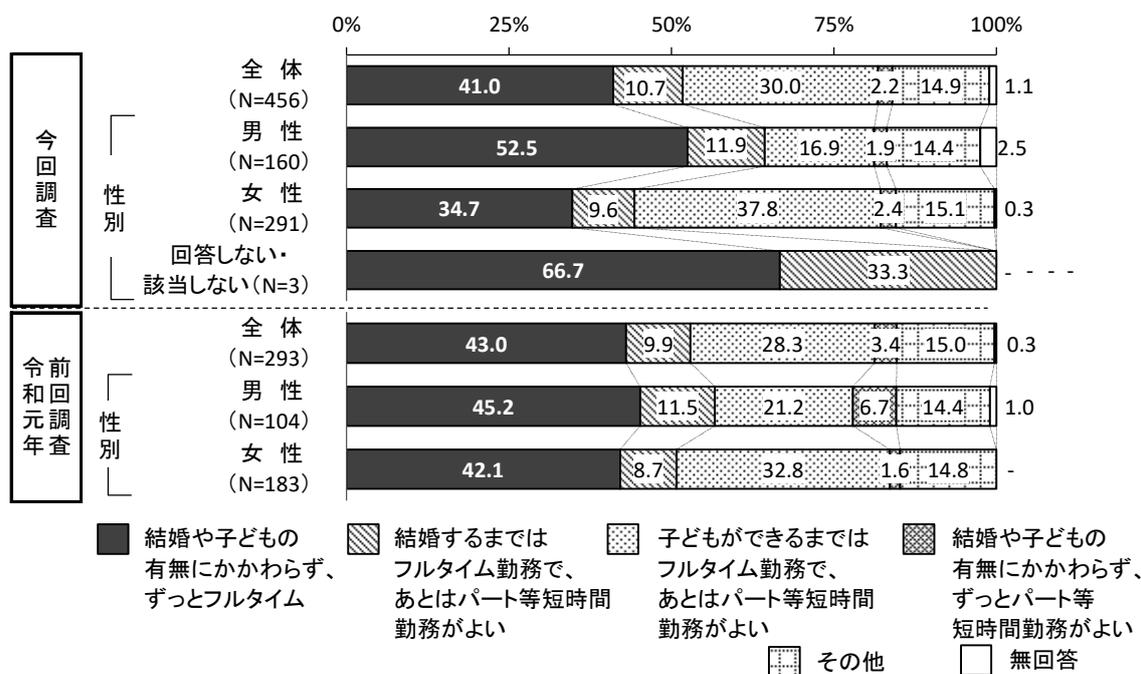
3. 女性が職業をずっともっている場合の働き方

【問5で「1. ずっと職業をもっている方がよい」と答えた方におたずねします。】

付問5-2. ずっと職業をもっている場合、どのような働き方がよいと思いますか。

(○は1つだけ)

図表4-5 女性が職業をずっともっている場合の働き方 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業を継続する方がよいと考える場合に、どのような働き方が望ましいかをたずねたところ、「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が41.0%で最も高く、次いで「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が30.0%である。

性別にみると、男性は「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が52.5%で女性(34.7%)より17.8ポイント高く、女性は「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が37.8%で男性(16.9%)より20.9ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が7.3ポイント増加しているが、女性は7.4ポイント減少し、「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が5ポイント増加している。

年齢別にみると、「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」は男性の40歳代以上で5割から約6割と高く、「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」は女性の30歳代以下で約5割と高い。

配偶状況別にみると、男性は共働き、共働きでないにもかかわらず「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が5割を超えて高いが、女性は共働きである人で「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」と「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が3割台半ばで同程度、共働きでない人では「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が42.7%と最も高い。

図表4-6 女性が職業をずっと持っている場合の働き方〔全体、年齢別〕

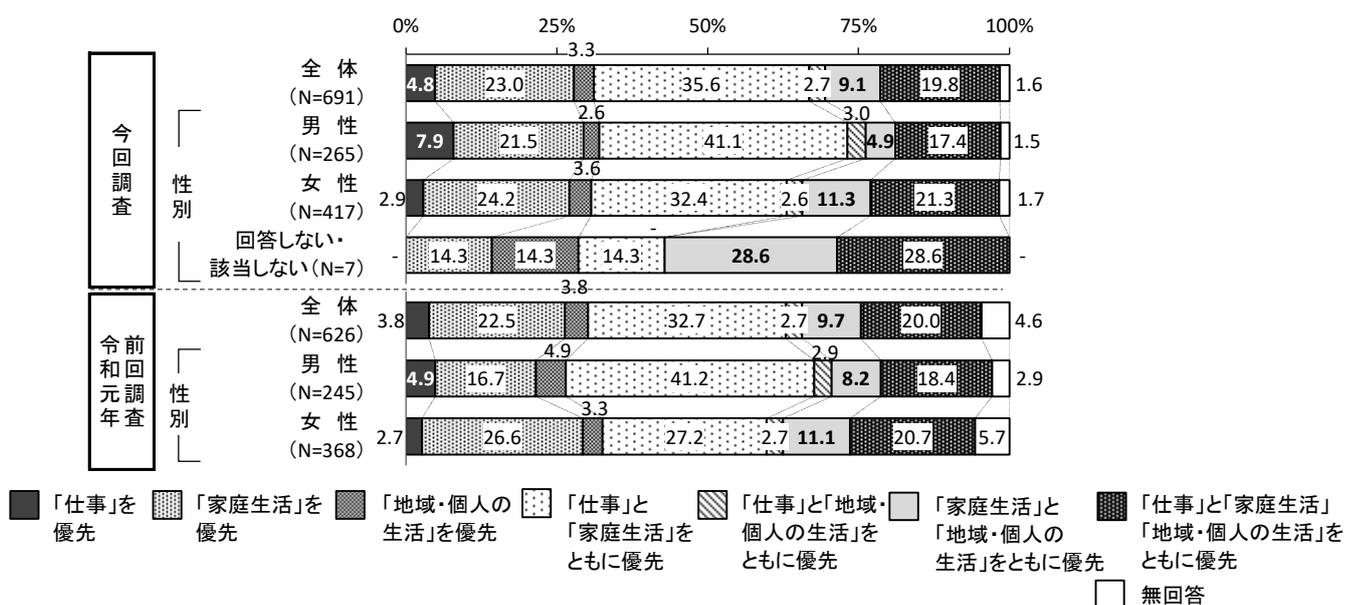
		標本数	勤務がよい					その他	無回答
			勤務がよい	結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい	結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい	子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい	子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい		
全体		456	187	49	137	10	68	5	
		100.0	41.0	10.7	30.0	2.2	14.9	1.1	
年齢別	男性:10・20歳代	13	46.2	15.4	30.8	-	7.7	-	
	男性:30歳代	18	33.3	11.1	33.3	-	16.7	5.6	
	男性:40歳代	31	51.6	9.7	19.4	-	16.1	3.2	
	男性:50歳代	38	55.3	13.2	7.9	2.6	18.4	2.6	
	男性:60歳代	42	61.9	9.5	11.9	-	14.3	2.4	
	男性:70歳代以上	18	50.0	16.7	16.7	11.1	5.6	-	
	女性:10・20歳代	23	26.1	21.7	47.8	-	4.3	-	
	女性:30歳代	36	27.8	8.3	52.8	-	11.1	-	
	女性:40歳代	62	35.5	6.5	37.1	4.8	16.1	-	
	女性:50歳代	66	34.8	4.5	34.8	3.0	22.7	-	
	女性:60歳代	69	40.6	8.7	33.3	1.4	15.9	-	
	女性:70歳代以上	35	34.3	20.0	31.4	2.9	8.6	2.9	
回答しない・該当しない		3	66.7	33.3	-	-	-	-	
無回答		2	-	50.0	-	-	50.0	-	
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	70	57.1	8.6	14.3	1.4	17.1	1.4	
	男性:パートナーがいる(共働きでない)	52	51.9	11.5	17.3	1.9	13.5	3.8	
	男性:パートナーはいない(離別)	4	75.0	25.0	-	-	-	-	
	男性:パートナーはいない(死別)	1	-	-	-	100.0	-	-	
	男性:結婚していない	33	42.4	18.2	24.2	-	12.1	3.0	
	女性:パートナーがいる(共働きである)	140	35.0	6.4	36.4	2.1	19.3	0.7	
	女性:パートナーがいる(共働きでない)	75	32.0	12.0	42.7	4.0	9.3	-	
	女性:パートナーはいない(離別)	25	36.0	16.0	16.0	4.0	28.0	-	
	女性:パートナーはいない(死別)	11	54.5	9.1	27.3	-	9.1	-	
	女性:結婚していない	40	32.5	12.5	50.0	-	5.0	-	
回答しない・該当しない		3	66.7	33.3	-	-	-	-	
無回答		2	-	50.0	-	-	50.0	-	

4. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問6. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

（ア）希望

図表4-7 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度  
[全体、性別]（前回調査比較）



生活における優先度についてたずねたところ、希望としては「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が35.6%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先」が23.0%、「『仕事』と『家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先」が19.8%である。

性別にみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は男性が41.1%で女性（32.4%）より8.7ポイント高い。女性は「『家庭生活』を優先」や「『仕事』と『家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が男性よりもやや高い。

前回調査と比べると、男性は「『家庭生活』を優先」が4.8ポイント増、女性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が5.2ポイント増えている。

年齢別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性の60歳代で50.7%と最も高く、その他10・20歳代や40歳代、女性の60歳代でも4割台と高い。『家庭生活』を優先は女性の30歳代で40.4%と最も高い。

配偶状況別にみると、女性の共働きでない人では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が34.5%、『家庭生活』を優先が25.0%と共働きである人といずれも同程度の割合である。

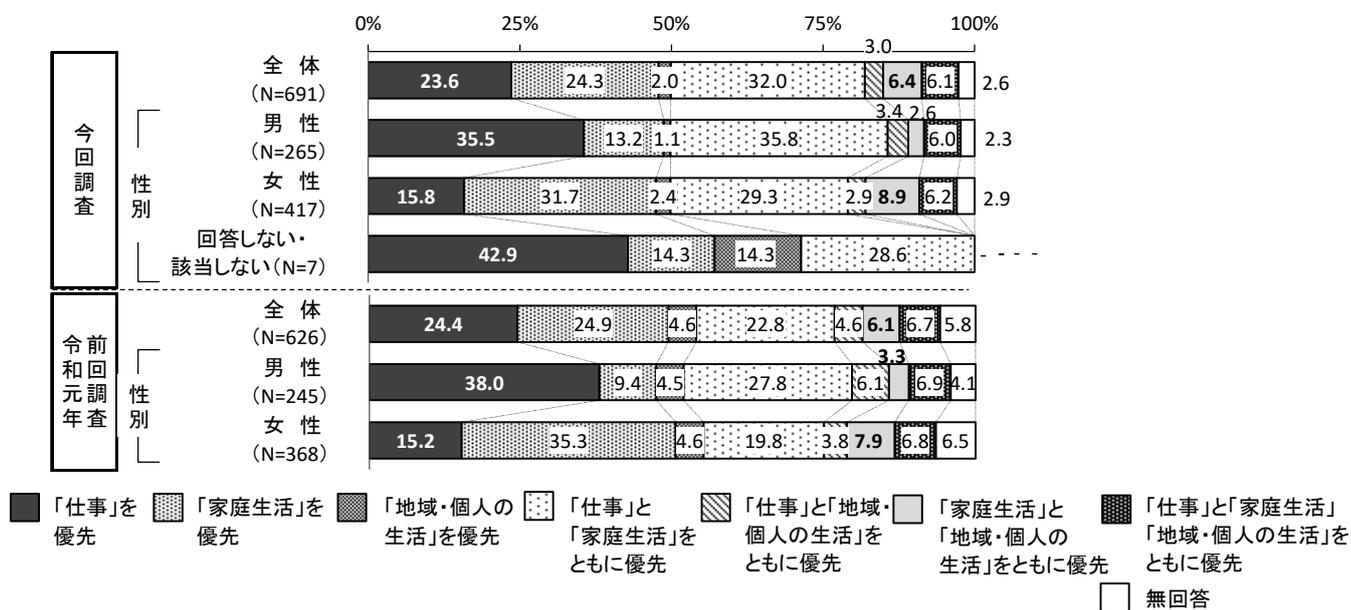
図表4-8 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度  
[全体、年齢別、配偶状況別]

(%)

	標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先	無回答	
全体	691 100.0	33 4.8	159 23.0	23 3.3	246 35.6	19 2.7	63 9.1	137 19.8	11 1.6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	18.2	4.5	9.1	45.5	4.5	4.5	13.6	-
	男性:30歳代	26	7.7	19.2	3.8	30.8	7.7	11.5	19.2	-
	男性:40歳代	43	2.3	27.9	2.3	44.2	2.3	4.7	16.3	-
	男性:50歳代	67	7.5	22.4	3.0	38.8	3.0	3.0	22.4	-
	男性:60歳代	69	7.2	18.8	1.4	50.7	2.9	1.4	14.5	2.9
	男性:70歳代以上	38	10.5	28.9	-	28.9	-	10.5	15.8	5.3
	女性:10・20歳代	32	3.1	12.5	9.4	37.5	-	21.9	12.5	3.1
	女性:30歳代	52	3.8	40.4	5.8	26.9	-	9.6	13.5	-
	女性:40歳代	82	3.7	29.3	4.9	22.0	3.7	11.0	25.6	-
	女性:50歳代	105	5.7	15.2	2.9	30.5	2.9	10.5	30.5	1.9
	女性:60歳代	97	-	25.8	1.0	41.2	3.1	7.2	19.6	2.1
	女性:70歳代以上	49	-	22.4	2.0	38.8	4.1	16.3	12.2	4.1
	回答しない・該当しない	7	-	14.3	14.3	14.3	-	28.6	28.6	-
無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	5.4	25.2	3.6	44.1	2.7	0.9	17.1	0.9
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	6.3	21.1	1.1	38.9	2.1	5.3	24.2	1.1
	男性:パートナー はいない(離別)	13	7.7	15.4	-	53.8	-	23.1	-	-
	男性:パートナー はいない(死別)	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-
	男性:結婚していない	44	15.9	15.9	4.5	36.4	6.8	6.8	9.1	4.5
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	2.6	26.4	1.6	33.7	1.6	8.8	24.9	0.5
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	1.7	25.0	2.6	34.5	3.4	13.8	18.1	0.9
	女性:パートナー はいない(離別)	36	2.8	33.3	5.6	27.8	-	5.6	22.2	2.8
	女性:パートナー はいない(死別)	16	-	25.0	-	25.0	6.3	12.5	25.0	6.3
	女性:結婚していない	56	7.1	8.9	12.5	28.6	5.4	17.9	14.3	5.4
	回答しない・該当しない	7	-	14.3	14.3	14.3	-	28.6	28.6	-
無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	

(イ) 現実（現状）

図表4-9 現実（現状）の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度  
[全体、性別]（前回調査比較）



現実（現状）についてたずねたところ、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が32.0%で最も高く、次いで「『仕事』を優先」（23.6%）と「『家庭生活』を優先」（24.3%）がいずれも2割台半ばで拮抗している。希望と比べると、「『仕事』と『家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先」が13.7ポイント低く、「『仕事』を優先」が18.8ポイント高い。

性別にみると、男女の差が大きく、男性は「『仕事』を優先」（35.5%）、女性は「『家庭生活』を優先」（31.7%）がそれぞれ3割台で高い。

前回調査と比べると、男女とも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が8～9.5ポイント増えている。

年齢別にみると、男性の10・20歳代から50歳代では「『仕事』を優先」が約4割から5割を占めているが、これを希望している人は1割台からそれ以下であることから、希望と現実の違いが顕著である。

配偶状況別にみると、女性の共働きでない人は「『家庭生活』を優先」が55.2%（希望25.0%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が10.3%（希望34.5%）と希望と現実の違いが大きい。

図表4-10 現実（現状）の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度  
[全体、年齢別、配偶状況別]

(%)

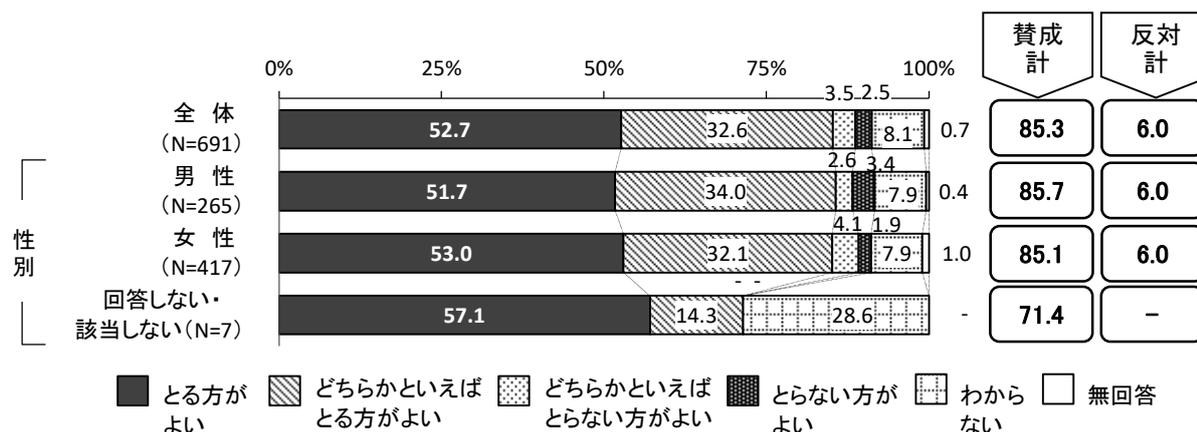
	標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	個人の仕事と「地域」をともに優先	地域・家庭生活と「地域」を優先	生活「仕事」と「地域」をともに優先	無回答	
全体	691 100.0	163 23.6	168 24.3	14 2.0	221 32.0	21 3.0	44 6.4	42 6.1	18 2.6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	50.0	9.1	4.5	18.2	9.1	-	4.5	4.5
	男性:30歳代	26	42.3	7.7	3.8	30.8	3.8	-	11.5	-
	男性:40歳代	43	39.5	7.0	2.3	44.2	2.3	2.3	2.3	-
	男性:50歳代	67	44.8	13.4	-	32.8	3.0	1.5	4.5	-
	男性:60歳代	69	27.5	11.6	-	43.5	2.9	4.3	5.8	4.3
	男性:70歳代以上	38	15.8	28.9	-	31.6	2.6	5.3	10.5	5.3
	女性:10・20歳代	32	21.9	21.9	9.4	28.1	-	6.3	9.4	3.1
	女性:30歳代	52	26.9	28.8	-	32.7	-	5.8	5.8	-
	女性:40歳代	82	22.0	29.3	-	31.7	6.1	3.7	7.3	-
	女性:50歳代	105	11.4	27.6	2.9	33.3	4.8	8.6	7.6	3.8
	女性:60歳代	97	13.4	34.0	3.1	26.8	1.0	12.4	5.2	4.1
	女性:70歳代以上	49	4.1	49.0	2.0	18.4	2.0	16.3	2.0	6.1
回答しない・該当しない	7	42.9	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	39.6	11.7	0.9	38.7	2.7	-	5.4	0.9
	男性:パートナー がいる (共働きでない)	95	26.3	20.0	-	37.9	2.1	4.2	9.5	-
	男性:パートナー はいない(離別)	13	53.8	-	-	30.8	-	15.4	-	-
	男性:パートナー はいない(死別)	2	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0
	男性:結婚していない	44	40.9	6.8	4.5	25.0	9.1	2.3	2.3	9.1
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	14.0	24.4	1.0	44.6	2.6	3.1	8.8	1.6
	女性:パートナー がいる (共働きでない)	116	2.6	55.2	3.4	10.3	1.7	20.7	4.3	1.7
	女性:パートナー はいない(離別)	36	36.1	19.4	2.8	27.8	2.8	2.8	2.8	5.6
	女性:パートナー はいない(死別)	16	12.5	31.3	-	31.3	6.3	6.3	6.3	6.3
	女性:結婚していない	56	37.5	16.1	5.4	16.1	5.4	8.9	3.6	7.1
回答しない・該当しない	7	42.9	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	

5. 男性が育児休業・介護休業をとることについて

問7. あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の(ア)、(イ)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。  
(○はそれぞれ1つだけ)

(ア) 育児休業

図表4-11 男性が育児休業をとることについて [全体、性別]



男性が育児休業をとることについて、「とる方がよい」が52.7%で最も高く、次いで「どちらかといえばとる方がよい」が32.6%でこれらをあわせた『賛成』は85.3%である。「とらない方がよい」(2.5%)と「どちらかといえばとらない方がよい」(3.5%)をあわせた『反対』は6.0%である。

性別にみても、あまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性の30歳代で『反対』が15.4%、男性の60歳代と40歳代で約1割と他の年齢に比べて高い。

配偶状況別にみると、積極的な「とる方がよい」について、女性の共働きでない人では62.1%と最も高いが、男性の共働きでない人では48.4%と13.7ポイントの差がある。共働きである人は男女とも約5割と同程度である。

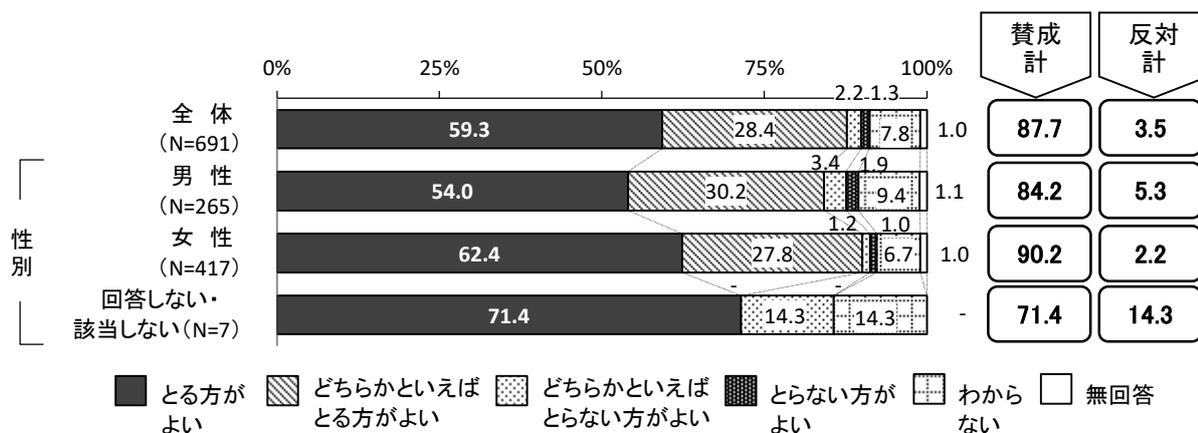
図表4-12 男性が育児休業をとることについて〔全体、年齢別、配偶状況別〕

(%)

		標本数	とる方がよい	よえどいばちとらるか方がよい	方えどがばちよいらかかない	よとらない方が	わからない	無回答	賛成計	反対計
全体		691 100.0	364 52.7	225 32.6	24 3.5	17 2.5	56 8.1	5 0.7	589 85.3	41 6.0
年齢別	男性:10・20歳代	22	59.1	27.3	-	4.5	9.1	-	86.4	4.5
	男性:30歳代	26	65.4	34.6	-	-	-	-	100.0	-
	男性:40歳代	43	41.9	39.5	7.0	2.3	9.3	-	81.4	9.3
	男性:50歳代	67	61.2	29.9	-	3.0	6.0	-	91.1	3.0
	男性:60歳代	69	50.7	26.1	4.3	5.8	11.6	1.4	76.8	10.1
	男性:70歳代以上	38	34.2	52.6	2.6	2.6	7.9	-	86.8	5.2
	女性:10・20歳代	32	59.4	25.0	-	-	15.6	-	84.4	-
	女性:30歳代	52	63.5	17.3	9.6	5.8	3.8	-	80.8	15.4
	女性:40歳代	82	46.3	40.2	3.7	1.2	8.5	-	86.5	4.9
	女性:50歳代	105	49.5	36.2	5.7	2.9	3.8	1.9	85.7	8.6
	女性:60歳代	97	52.6	36.1	2.1	1.0	7.2	1.0	88.7	3.1
	女性:70歳代以上	49	57.1	22.4	2.0	-	16.3	2.0	79.5	2.0
	回答しない・該当しない		7	57.1	14.3	-	-	28.6	-	71.4
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	50.5	33.3	5.4	2.7	7.2	0.9	83.8	8.1
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	48.4	37.9	1.1	4.2	8.4	-	86.3	5.3
	男性:パートナー はいない(離別)	13	53.8	30.8	-	7.7	7.7	-	84.6	7.7
	男性:パートナー はいない(死別)	2	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	男性:結婚していない	44	63.6	25.0	-	2.3	9.1	-	88.6	2.3
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	51.3	33.2	6.2	1.6	7.3	0.5	84.5	7.8
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	62.1	27.6	1.7	0.9	6.9	0.9	89.7	2.6
	女性:パートナー はいない(離別)	36	47.2	44.4	-	-	8.3	-	91.6	-
	女性:パートナー はいない(死別)	16	25.0	56.3	6.3	6.3	6.3	-	81.3	12.6
	女性:結婚していない	56	51.8	23.2	3.6	5.4	12.5	3.6	75.0	9.0
	回答しない・該当しない		7	57.1	14.3	-	-	28.6	-	71.4
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-

(イ) 介護休業

図表4-13 男性が介護休業をとることについて [全体、性別]



男性が介護休業をとることについて、「とる方がよい」が59.3%で最も高く、次いで「どちらかといえばとる方がよい」が28.4%でこれらをあわせた『賛成』は87.7%である。「とらない方がよい」(1.3%)と「どちらかといえばとらない方がよい」(2.2%)をあわせた『反対』は3.5%である。

性別にみると、積極的な「とる方がよい」は女性が62.4%で男性(54.0%)より8.4ポイント高い。

育児休業と比べて、女性は介護休業の方が積極的な「とる方がよい」の割合が9.4ポイント高い。男性はあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性の40歳代以上で『賛成』が9割を超えて高く、男性は30歳代と50歳代で9割を超える。

配偶状況別にみると、積極的な「とる方がよい」について、女性の共働きでない人では73.3%と最も高いが、男性の共働きでない人では57.9%と15.4ポイントの差がある。共働きである人も女性が59.1%、男性が51.4%と女性の方が7.7ポイント高い。

図表4-14 男性が介護休業をとることについて〔全体、年齢別、配偶状況別〕

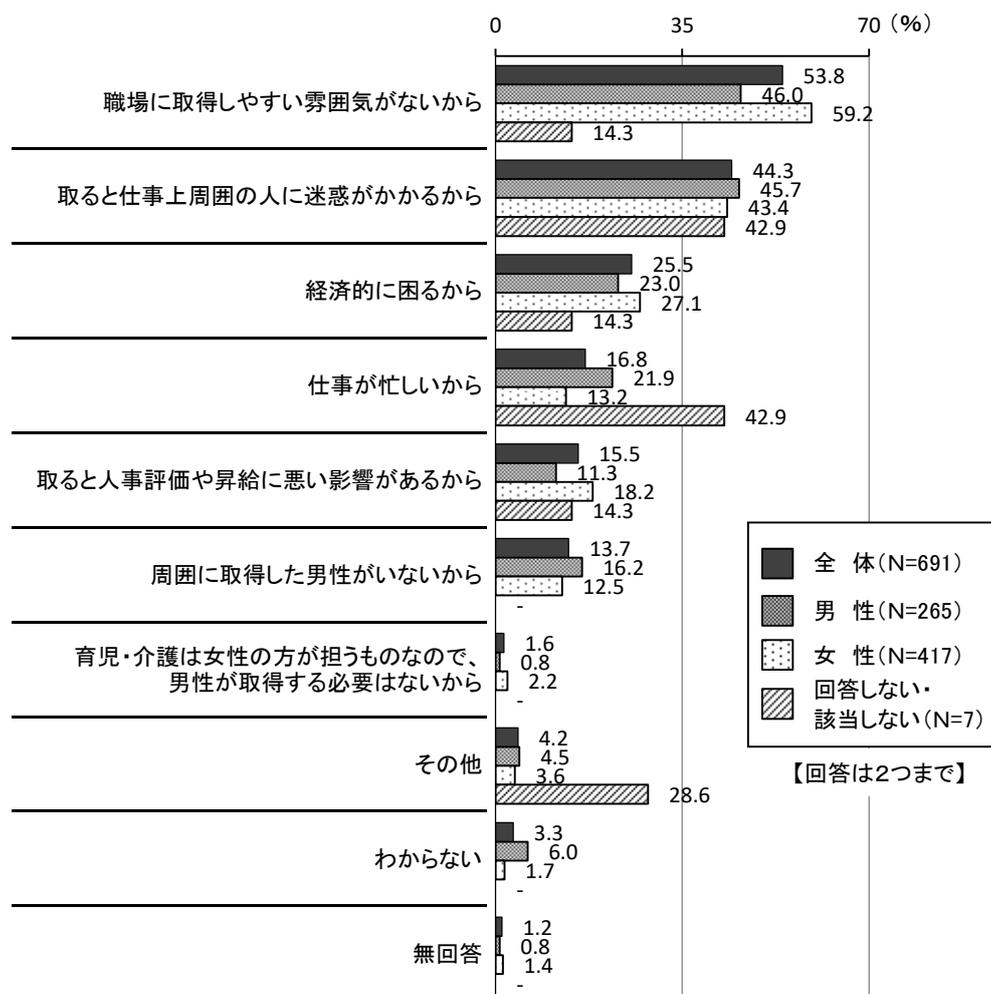
		標本数	とる方がよい	よえど いばち とら るか 方と がい	方えど がばち よとら いか なと いい	よと らな い 方 が	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計	
全体		691 100.0	410 59.3	196 28.4	15 2.2	9 1.3	54 7.8	7 1.0	606 87.7	24 3.5	
年齢別	男性:10・20歳代	22	31.8	40.9	4.5	-	22.7	-	72.7	4.5	
	男性:30歳代	26	73.1	23.1	3.8	-	-	-	96.2	3.8	
	男性:40歳代	43	46.5	37.2	2.3	2.3	11.6	-	83.7	4.6	
	男性:50歳代	67	62.7	28.4	1.5	3.0	4.5	-	91.1	4.5	
	男性:60歳代	69	59.4	20.3	5.8	1.4	10.1	2.9	79.7	7.2	
	男性:70歳代以上	38	36.8	42.1	2.6	2.6	13.2	2.6	78.9	5.2	
	女性:10・20歳代	32	59.4	15.6	-	-	25.0	-	75.0	-	
	女性:30歳代	52	67.3	15.4	1.9	5.8	9.6	-	82.7	7.7	
	女性:40歳代	82	56.1	35.4	2.4	-	6.1	-	91.5	2.4	
	女性:50歳代	105	62.9	32.4	-	1.0	1.9	1.9	95.3	1.0	
	女性:60歳代	97	58.8	33.0	2.1	-	5.2	1.0	91.8	2.1	
	女性:70歳代以上	49	75.5	16.3	-	-	6.1	2.0	91.8	-	
回答しない・該当しない		7	71.4	-	14.3	-	14.3	-	71.4	14.3	
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	51.4	34.2	4.5	0.9	7.2	1.8	85.6	5.4	
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	57.9	27.4	2.1	3.2	9.5	-	85.3	5.3	
	男性:パートナー はいない(離別)	13	46.2	38.5	-	7.7	7.7	-	84.7	7.7	
	男性:パートナー はいない(死別)	2	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
	男性:結婚していない	44	54.5	25.0	4.5	-	13.6	2.3	79.5	4.5	
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	59.1	30.6	2.1	1.6	6.2	0.5	89.7	3.7	
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	73.3	21.6	-	-	4.3	0.9	94.9	-	
	女性:パートナー はいない(離別)	36	58.3	36.1	-	-	5.6	-	94.4	-	
	女性:パートナー はいない(死別)	16	43.8	43.8	6.3	-	6.3	-	87.6	6.3	
	女性:結婚していない	56	58.9	21.4	-	1.8	14.3	3.6	80.3	1.8	
	回答しない・該当しない		7	71.4	-	14.3	-	14.3	-	71.4	14.3
	無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-

6. 男性が育児休業などを取得しない（できない）理由

問8. 女性の育児休業取得率は84.1%であるのに対し、男性の育児休業取得率は30.1%（厚生労働省：令和5年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の約7割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。

（○は2つまで）

図表4-15 男性が育児休業などを取得しない（できない）理由 [全体、性別]



女性に比べ男性の育児休業取得率が低い理由として、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が53.8%で最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が44.3%でこの二つが大きな理由である。以下、「経済的に困るから」が25.5%、「仕事が忙しいから」が16.8%、「取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから」が15.5%、「周囲に取得した男性がいないから」が13.7%などである。

性別にみると、男性は「仕事が忙しいから」（男性21.9%、女性13.2%）や「周囲に取得した男性がいないから」（同16.2%、12.5%）などの理由が女性よりも3.7～8.7ポイント高い。女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」（同46.0%、59.2%）や「経済的に困るから」（同23.0%、27.1%）、「取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから」（同11.3%、18.2%）などが男性よりも4.1～13.2ポイント高い。

年齢別にみると、女性はすべての年代でも「職場に取得しやすい雰囲気がないから」の割合が5割台半ばから約6割で最も高いのに対し、男性は10・20歳代で54.5%、50歳代以上で約5割である。男性は30歳代では「経済的に困るから」（50.0%）や「仕事が忙しいから」（42.3%）、30歳代と50歳代以上で「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」の割合が他の年代に比べて高い。女性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は年齢が高い層で、「経済的に困るから」は年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。

職業別にみると、女性の会社員では「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が65.4%で最も高く、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（43.9%）を21.5ポイント上回る。男性の会社員では「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（46.9%）が最も高く、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」（42.2%）を4.7ポイント上回る。女性の自営業や家族従事者では「経済的に困るから」が5割から約6割と高い。

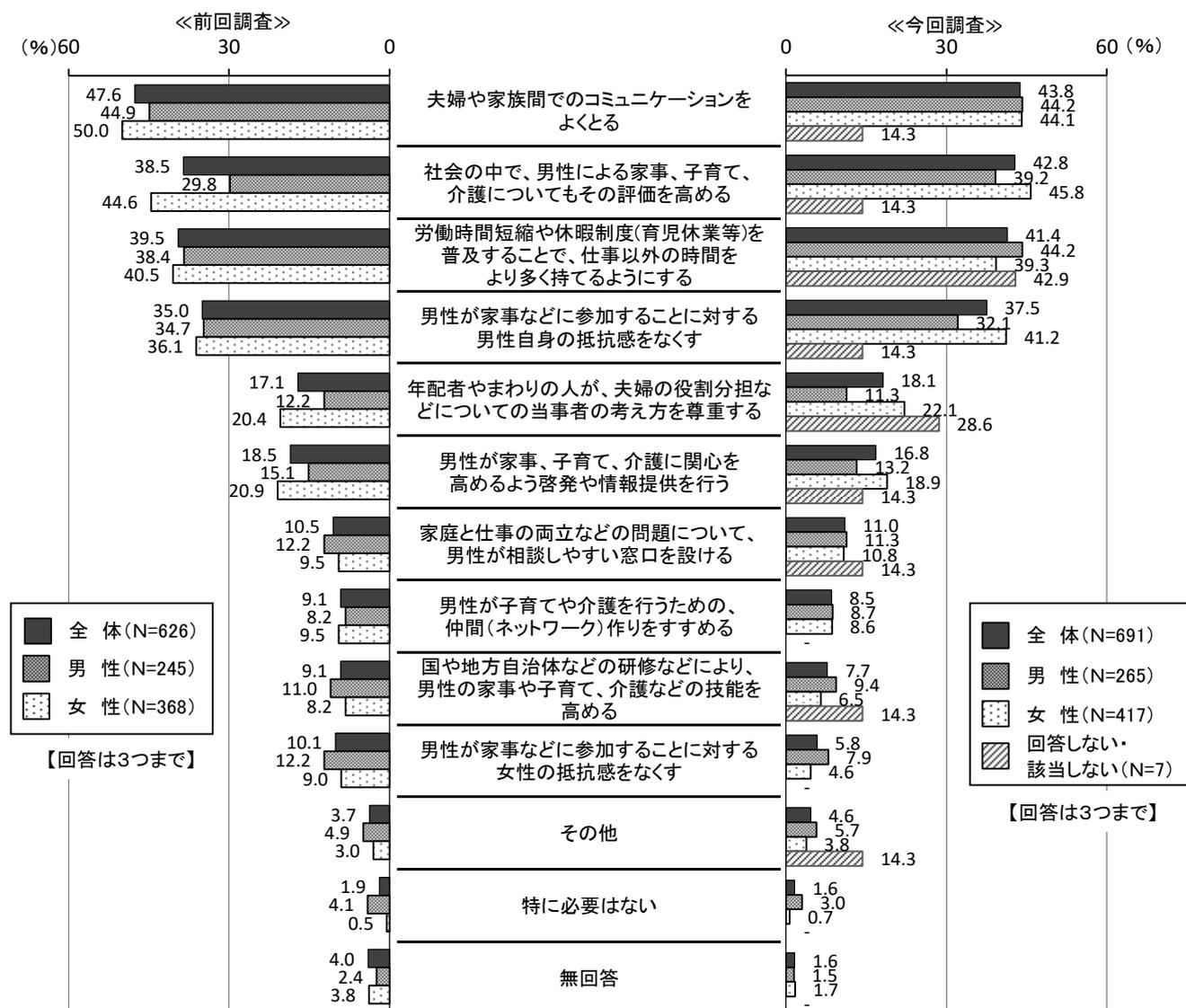
図表4-16 男性が育児休業などを取得しない（できない）理由〔全体、年齢別、職業別〕

		標本数	な い 周 圍 に 取 得 し た 男 性 が い	気 場 が な い 取 得 し や す い 雰 圍	仕 事 が 忙 し い か ら	迷 惑 が か か る 上 周 圍 の 人 に	悪 取 り の 影 響 が あ る か ら	取 得 し や す い 雰 圍 に 困 る か ら	取 得 す る の 必 要 は な い か ら	担 う 児 ・ 介 護 の は 女 性 の か ら	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		691 100.0	95 13.7	372 53.8	116 16.8	306 44.3	107 15.5	176 25.5	11 1.6	29 4.2	23 3.3	8 1.2	
年 齢 別	男性:10・20歳代	22	4.5	54.5	22.7	36.4	13.6	18.2	-	-	9.1	-	
	男性:30歳代	26	11.5	23.1	42.3	46.2	15.4	50.0	-	3.8	-	-	
	男性:40歳代	43	16.3	39.5	20.9	41.9	14.0	34.9	-	7.0	2.3	-	
	男性:50歳代	67	28.4	47.8	17.9	46.3	11.9	20.9	1.5	7.5	3.0	-	
	男性:60歳代	69	15.9	52.2	20.3	46.4	7.2	14.5	-	4.3	7.2	1.4	
	男性:70歳代以上	38	5.3	50.0	18.4	52.6	10.5	13.2	2.6	-	15.8	2.6	
	女性:10・20歳代	32	15.6	62.5	9.4	25.0	21.9	34.4	-	3.1	3.1	3.1	
	女性:30歳代	52	15.4	57.7	15.4	34.6	25.0	28.8	-	3.8	-	1.9	
	女性:40歳代	82	13.4	62.2	12.2	32.9	17.1	39.0	2.4	3.7	-	-	
	女性:50歳代	105	10.5	54.3	16.2	45.7	17.1	28.6	3.8	3.8	1.0	1.9	
	女性:60歳代	97	13.4	62.9	11.3	55.7	17.5	15.5	3.1	3.1	2.1	1.0	
	女性:70歳代以上	49	8.2	57.1	12.2	53.1	14.3	20.4	-	4.1	6.1	2.0	
回答しない・該当しない		7	-	14.3	42.9	42.9	14.3	14.3	-	28.6	-	-	
無回答		2	-	100.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	
職 業 別	男性:会社員	128	22.7	42.2	23.4	46.9	10.2	27.3	0.8	4.7	3.9	-	
	男性:公務員	28	14.3	39.3	32.1	35.7	7.1	28.6	-	10.7	3.6	-	
	男性:自営業	24	8.3	45.8	25.0	33.3	16.7	29.2	-	8.3	8.3	4.2	
	男性:家族従事者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	男性:パート・アルバイト・派遣社員	30	6.7	56.7	13.3	50.0	13.3	16.7	-	3.3	10.0	-	
	男性:学生	6	-	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	
	男性:専業主夫	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	
	男性:無職	47	10.6	51.1	12.8	53.2	10.6	12.8	2.1	-	10.6	2.1	
	女性:会社員	107	18.7	65.4	9.3	43.9	20.6	22.4	2.8	2.8	0.9	-	
	女性:公務員	16	-	31.3	12.5	62.5	12.5	37.5	-	12.5	-	-	
	女性:自営業	13	7.7	38.5	15.4	30.8	7.7	61.5	-	-	-	7.7	
	女性:家族従事者	6	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	50.0	-	16.7	-	-	
	女性:パート・アルバイト・派遣社員	131	11.5	63.4	16.8	38.2	16.0	31.3	1.5	3.8	0.8	0.8	
	女性:学生	10	20.0	60.0	10.0	40.0	10.0	20.0	-	-	10.0	-	
	女性:専業主婦	96	8.3	59.4	13.5	52.1	17.7	25.0	2.1	3.1	2.1	1.0	
	女性:無職	37	13.5	54.1	8.1	40.5	27.0	13.5	5.4	2.7	5.4	5.4	
回答しない・該当しない		7	-	14.3	42.9	42.9	14.3	14.3	-	28.6	-	-	
無回答		3	-	66.7	-	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	

7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問9. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表4-17 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと  
[全体、性別] (前回調査比較)



今後、男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとる」(43.8%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」(42.8%)、「労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(41.4%)などが4割を超えて上位にあげられ、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(37.5%)が約4割である。

性別にみると、男性は「労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が44.2%で女性(39.3%)より4.9ポイント高い。その他の項目は女性の方が割合が高いものが多く、特に「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」(男性11.3%、女性22.1%)が10.8ポイント、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(同32.1%、41.2%)は9.1ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」(同39.2%、45.8%)は6.6ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」が9.4ポイント増、「労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が5.8ポイント増、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が5.1ポイント増である。

年齢別にみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとる」は、男性の10・20歳代と女性の30歳代で5割を超えて高い。男性の30歳代から50歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が4割台半ばからや約6割と高い。「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」や「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」などは男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

図表4-18 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

[全体、年齢別]

		(%)																
		標本数	男性が家事などの抵抗感をなくすことに対する	男性が家事などの抵抗感をなくすことに対する	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとる	負担などについて、当事者の考えを尊重する	年配者やまわりの人が、その評価を高める	社会の中で、男性による家事、子育て	労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することによる	労働時間短縮や情報提供を行う	男性が家事、子育て、介護に関する	技能を高める	国や地方自治体などの研修などによる	男性が子育てや介護を行うための、仲間(ネットワーク)作り	家庭や仕事の両立などの問題について	その他	特に必要はない	無回答
全体		691 100.0	259 37.5	40 5.8	303 43.8	125 18.1	296 42.8	286 41.4	116 16.8	53 7.7	59 8.5	76 11.0	32 4.6	11 1.6	11 1.6			
年齢別	男性:10・20歳代	22	22.7	13.6	63.6	9.1	40.9	31.8	4.5	4.5	27.3	4.5	-	13.6	-			
	男性:30歳代	26	26.9	3.8	42.3	11.5	26.9	57.7	3.8	15.4	19.2	23.1	7.7	3.8	-			
	男性:40歳代	43	30.2	7.0	32.6	7.0	41.9	46.5	14.0	11.6	7.0	14.0	9.3	2.3	-			
	男性:50歳代	67	29.9	4.5	40.3	13.4	35.8	50.7	14.9	4.5	6.0	9.0	10.4	1.5	-			
	男性:60歳代	69	33.3	14.5	49.3	13.0	42.0	40.6	15.9	8.7	4.3	8.7	2.9	2.9	1.4			
	男性:70歳代以上	38	44.7	2.6	44.7	10.5	44.7	34.2	15.8	15.8	5.3	13.2	-	-	7.9			
	女性:10・20歳代	32	34.4	3.1	46.9	15.6	46.9	34.4	15.6	3.1	12.5	12.5	9.4	3.1	-			
	女性:30歳代	52	38.5	5.8	53.8	25.0	44.2	34.6	9.6	7.7	11.5	7.7	7.7	-	3.8			
	女性:40歳代	82	45.1	8.5	43.9	26.8	41.5	45.1	20.7	7.3	4.9	8.5	4.9	-	-			
	女性:50歳代	105	36.2	1.0	44.8	24.8	46.7	43.8	16.2	1.0	9.5	10.5	3.8	1.9	1.9			
	女性:60歳代	97	46.4	3.1	38.1	18.6	45.4	37.1	25.8	10.3	7.2	13.4	1.0	-	1.0			
	女性:70歳代以上	49	42.9	8.2	42.9	16.3	53.1	32.7	20.4	10.2	10.2	12.2	-	-	4.1			
回答しない・該当しない		7	14.3	-	14.3	28.6	14.3	42.9	14.3	14.3	-	14.3	14.3	-	-			
無回答		2	50.0	-	50.0	50.0	-	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-			

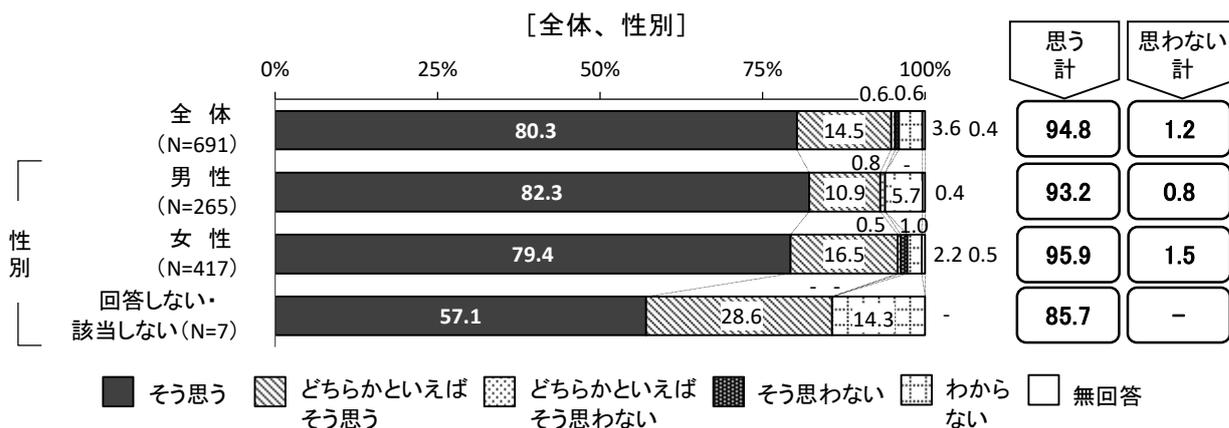
## 第5章 暴力などの人権侵害について

### 1. 妊娠や性に関する考え方

問 10. 次の（ア）、（イ）の考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（〇はそれぞれ1つだけ）

（ア）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである

図表 5-1 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方に対して、「そう思う」が80.3%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(14.5%)をあわせた『思う』は94.8%である。

性別にみると、男女とも『思う』は9割台半ばあるが、その内訳をみると、女性は「どちらかといえばそう思う」の割合が男性よりも5.6ポイント高い。

年齢別にみると、女性の10・20歳代で『思う』が84.4%で他の年齢に比べて低く、「わからない」が12.5%で比較的高い。

図表 5-2 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである

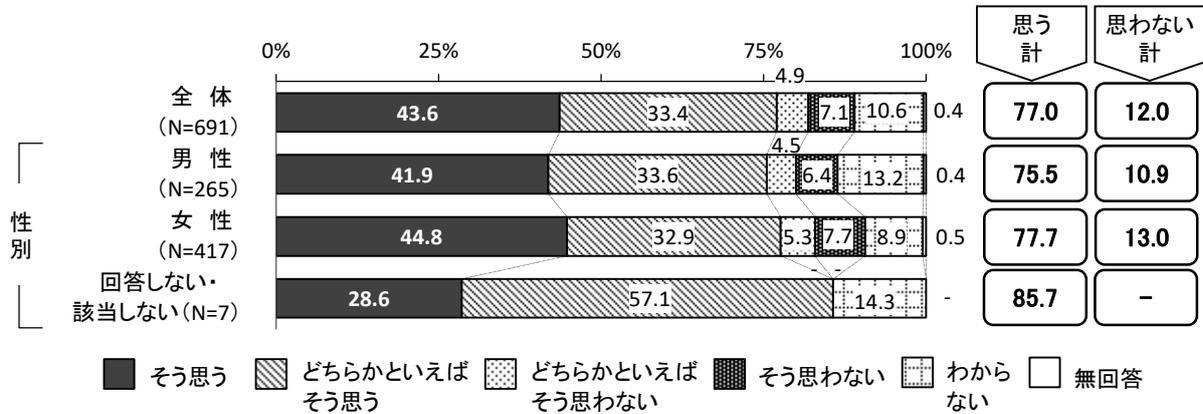
[全体、年齢別]

(%)

	標本数	そう思う	思いど うえち ばら そか うと	思いど えち らな いそ かと	いそ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	思 う 計	思 わ な い 計	
全体	691	555	100	4	4	25	3	655	8	
	100.0	80.3	14.5	0.6	0.6	3.6	0.4	94.8	1.2	
年齢別	男性:10・20歳代	22	86.4	4.5	-	-	9.1	-	90.9	-
	男性:30歳代	26	96.2	-	-	-	3.8	-	96.2	-
	男性:40歳代	43	79.1	14.0	-	-	7.0	-	93.1	-
	男性:50歳代	67	82.1	14.9	-	-	3.0	-	97.0	-
	男性:60歳代	69	82.6	10.1	1.4	-	5.8	-	92.7	1.4
	男性:70歳代以上	38	73.7	13.2	2.6	-	7.9	2.6	86.9	2.6
	女性:10・20歳代	32	75.0	9.4	3.1	-	12.5	-	84.4	3.1
	女性:30歳代	52	88.5	7.7	-	1.9	-	1.9	96.2	1.9
	女性:40歳代	82	81.7	17.1	-	1.2	-	-	98.8	1.2
	女性:50歳代	105	74.3	22.9	-	1.0	1.9	-	97.2	1.0
	女性:60歳代	97	78.4	18.6	-	-	2.1	1.0	97.0	-
	女性:70歳代以上	49	81.6	12.2	2.0	2.0	2.0	-	93.8	4.0
	回答しない・該当しない	7	57.1	28.6	-	-	14.3	-	85.7	-
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	

(イ) 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである

図表5-3 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである [全体、性別]



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」という考え方に対して、「そう思う」が43.6%、「どちらかといえばそう思う」が33.4%でこれらをあわせた『思う』は77.0%と、「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方より割合が17.8ポイント低い。「そう思わない」は7.1%、「どちらかといえばそう思わない」は4.9%でこれらをあわせた『思わない』は12.0%である。

性別にみると、「そう思う」は女性の方がやや高いが、男性とあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、男性の10・20歳代と30歳代では「わからない」が約2割と他の年齢に比べて高い。また「そう思う」は3割台半ばで同年代の女性が5割から約6割に対して低い。

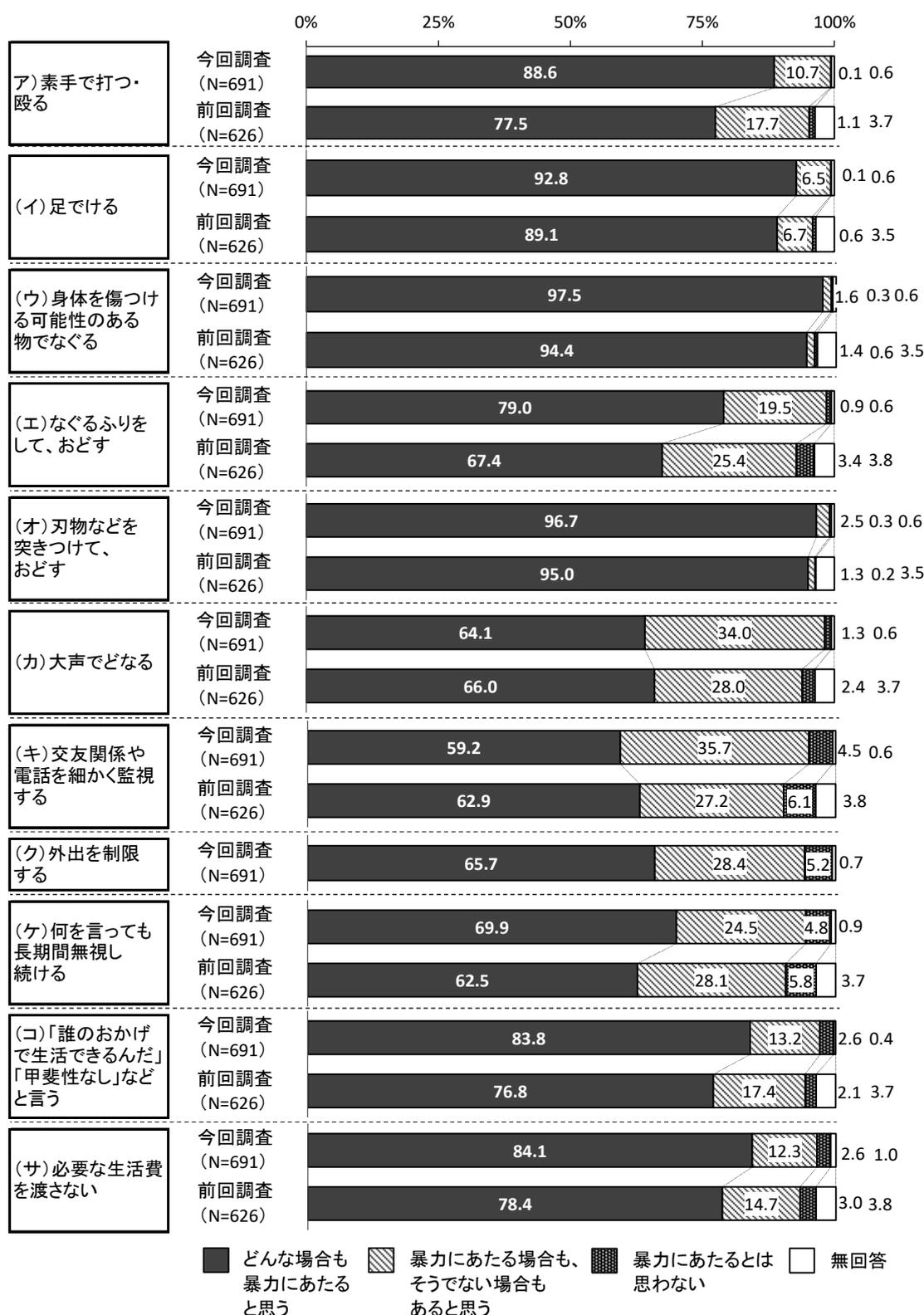
図表5-4 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである [全体、年齢別]

		標本数	そう思う	思いど うえち ばら そか うと	思いど わえち なばら いそか うと	いそ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	思 う 計	思 わ な い 計
全体		691	301	231	34	49	73	3	532	83
		100.0	43.6	33.4	4.9	7.1	10.6	0.4	77.0	12.0
年齢別	男性:10・20歳代	22	36.4	40.9	-	4.5	18.2	-	77.3	4.5
	男性:30歳代	26	34.6	34.6	7.7	3.8	19.2	-	69.2	11.5
	男性:40歳代	43	41.9	37.2	4.7	4.7	11.6	-	79.1	9.4
	男性:50歳代	67	46.3	31.3	7.5	6.0	9.0	-	77.6	13.5
	男性:60歳代	69	44.9	29.0	2.9	11.6	11.6	-	73.9	14.5
	男性:70歳代以上	38	36.8	36.8	2.6	2.6	18.4	2.6	73.6	5.2
	女性:10・20歳代	32	50.0	28.1	3.1	6.3	12.5	-	78.1	9.4
	女性:30歳代	52	57.7	21.2	5.8	5.8	7.7	1.9	78.9	11.6
	女性:40歳代	82	43.9	36.6	4.9	8.5	6.1	-	80.5	13.4
	女性:50歳代	105	44.8	33.3	4.8	8.6	8.6	-	78.1	13.4
	女性:60歳代	97	39.2	35.1	8.2	5.2	11.3	1.0	74.3	13.4
	女性:70歳代以上	49	40.8	36.7	2.0	12.2	8.2	-	77.5	14.2
回答しない・該当しない		7	28.6	57.1	-	-	14.3	-	85.7	-
無回答		2	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0	-

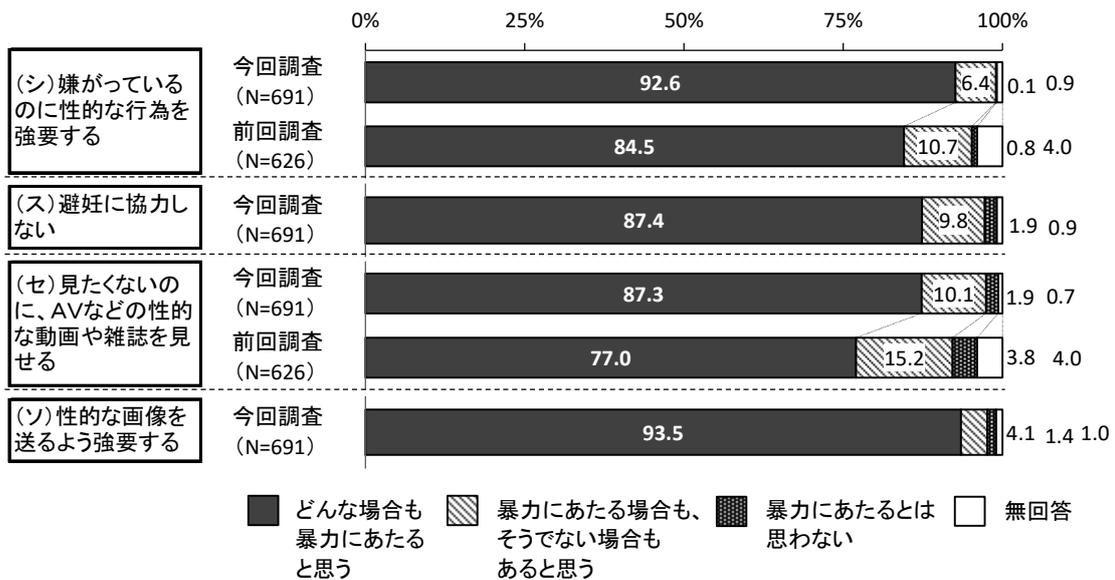
2. 暴力だと思ふもの

問 11. あなたは、次にあげるようなことが配偶者・パートナー・恋人間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。次の(ア)から(ソ)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

図表5-5 (1) 暴力だと思ふもの [全体] (前回調査比較)



図表 5-5 (2) 暴力だと思うもの [全体] (前回調査比較)

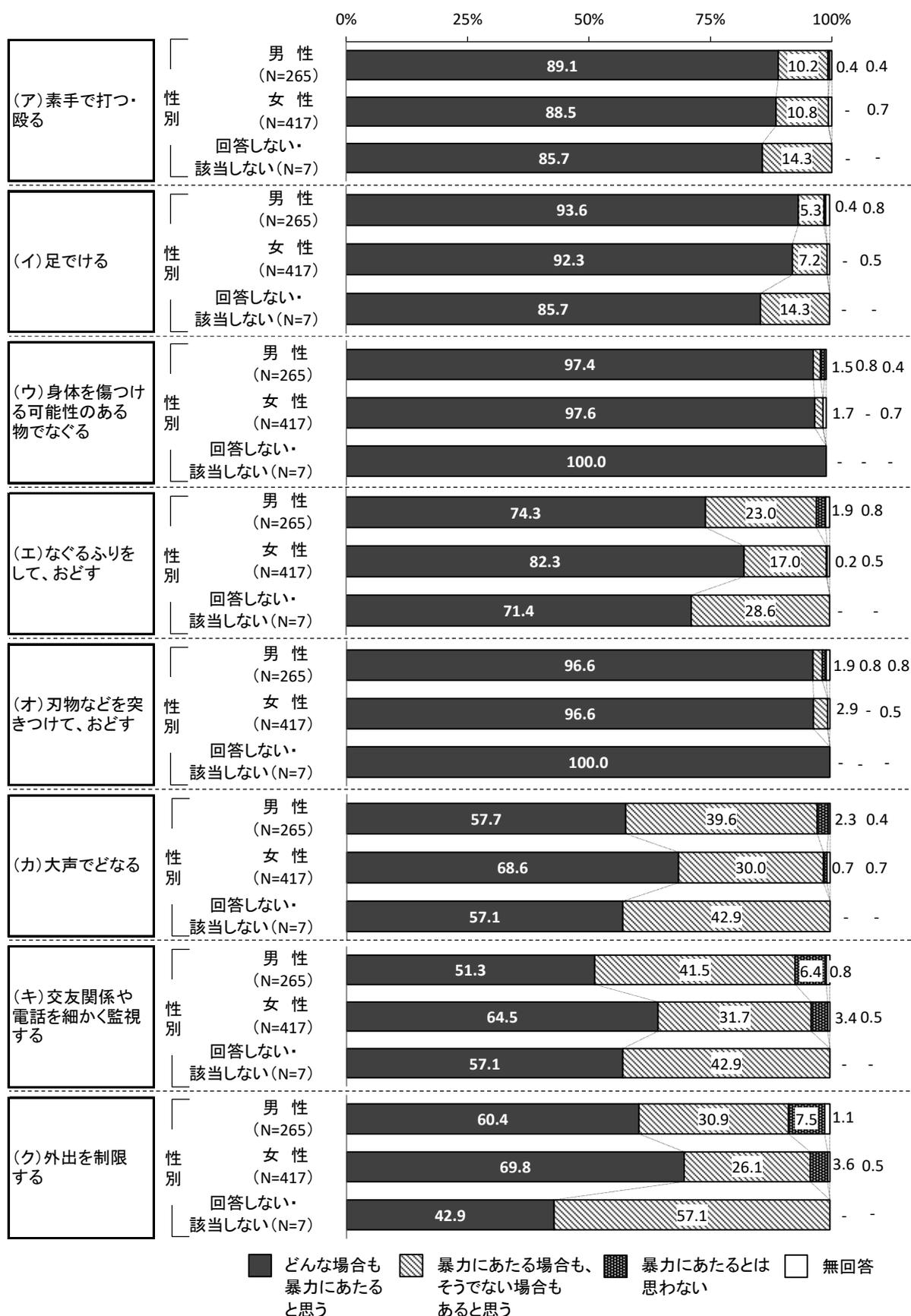


様々な行為について、それが配偶者や恋人の間で行われた場合に暴力だと思うかどうかたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いは「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」が97.5%、「刃物などを突きつけて、おどす」が96.7%と100%近くである。その他「性的な画像を送るよう強要する」(93.5%)、「足でける」(92.8%)、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(92.6%)なども約9割と高い。また、「平手で打つ・殴る」(88.6%)や「避妊に協力しない」(87.4%)、「見たくないのに、AVなどの性的な動画や雑誌を見せる」(87.3%)、「必要な生活費を渡さない」(84.1%)、「『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などと言う」(83.8%)なども8割台と高いが、その他は8割を下回り、特に「交友関係や電話を細かく監視する」(59.2%)、「大声でどなる」(64.1%)、「外出を制限する」(65.7%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(69.9%)など精神的に傷つける行為が暴力であるとの認識が低い傾向がみられる。

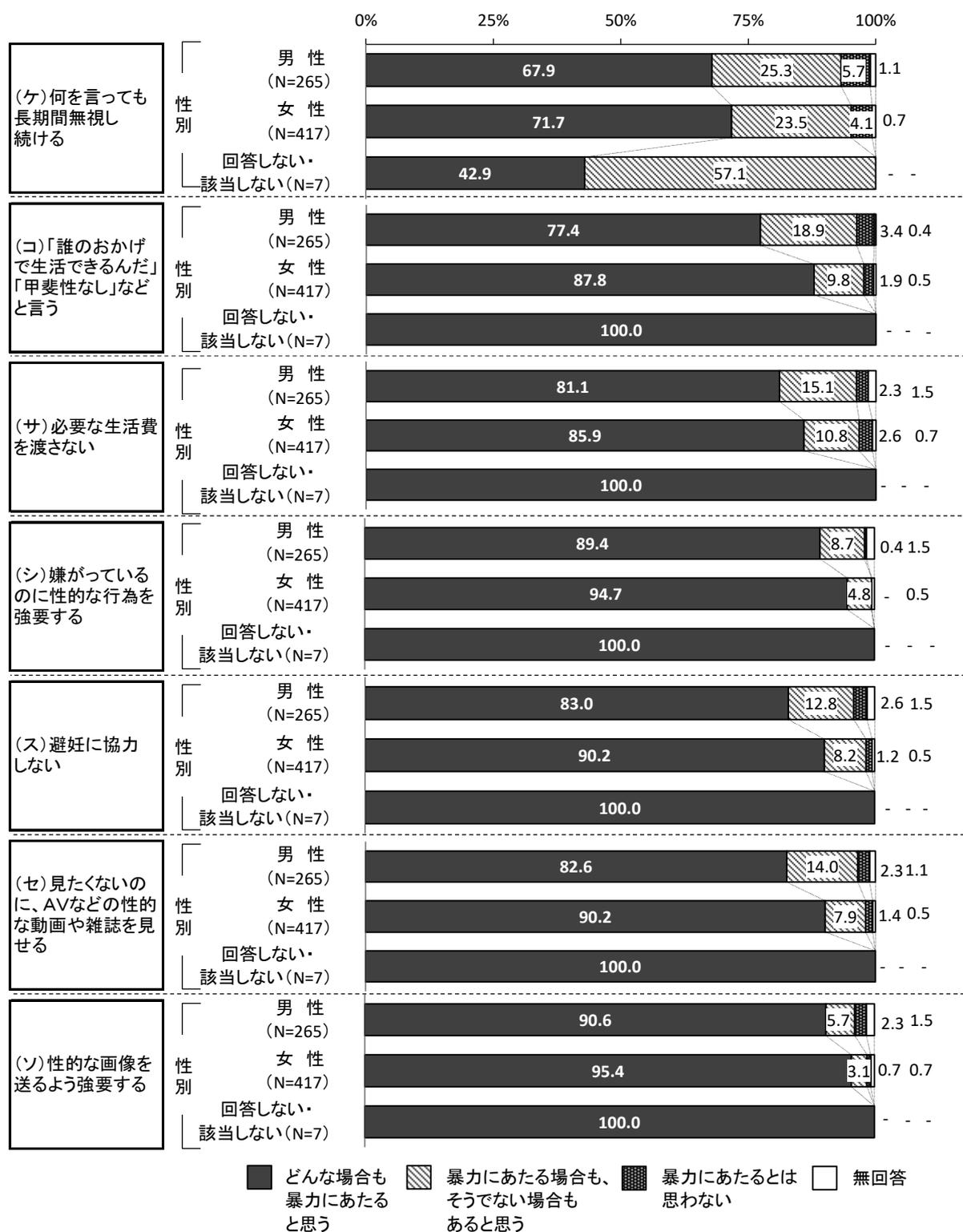
前回調査と比べると、身体的暴力、経済的暴力、性的暴力などほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は増えている。しかし、「大声でどなる」「交友関係や電話を細かく監視する」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合はやや減り、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が6~8.5ポイント増えている。

性別にみると、「素手で打つ・殴る」や「足でける」「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」「刃物などを突きつけて、おどす」などの「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は男女の差は小さいが、その他の項目については女性の割合の方が高い。特に「交友関係や電話を細かく監視する」(男性51.3%、女性64.5%)や「大声でどなる」(同57.7%、68.6%)、「『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などと言う」(同77.4%、87.8%)、「外出を制限する」(同60.4%、69.8%)などで9.4~13.2ポイント高く、男女で認識の差が大きい。

図表5-6(1) 暴力だと思うもの〔性別〕



図表5-6(2) 暴力だと思うもの〔性別〕



年齢別にみると、「足でける」や「大声でどなる」などは男性の10・20歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が他の年齢に比べて低く、「必要な生活費を渡さない」は男性の50歳代、「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などと言う」は男性の50歳代と60歳代、「外出を制限する」や「何を言っても長期間無視し続ける」は男性の60歳代、「交友関係や電

話を細かく監視する」や「見たくないのに、AVなどの性的な動画や雑誌を見せる」は男性の60歳代と70歳代以上、「素手で打つ・殴る」「なぐるふりをして、おどす」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しない」「性的な画像を送るよう強要する」などは男性の70歳代以上で低い。女性では10・20歳代で「素手で打つ・殴る」「足でける」「外出を制限する」「交友関係や電話を細かく監視する」「何を言っても長期間無視し続ける」「必要な生活費を渡さない」などの「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が女性の中で低い。

図表5-7(1) 暴力だと思うもの〔全体、年齢別〕

(%)

	標本数	(ア)素手で打つ・殴る				(イ)足でける				(ウ)身体を傷つける可能性のある物でなぐる						
		力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答
		全体	691 100.0	612 88.6	74 10.7	1 0.1	4 0.6	641 92.8	45 6.5	1 0.1	4 0.6	674 97.5	11 1.6	2 0.3	4 0.6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	86.4	9.1	4.5	-	81.8	13.6	4.5	-	95.5	-	4.5	-		
	男性:30歳代	26	96.2	3.8	-	-	96.2	3.8	-	-	100.0	-	-	-		
	男性:40歳代	43	90.7	9.3	-	-	95.3	4.7	-	-	97.7	-	2.3	-		
	男性:50歳代	67	89.6	10.4	-	-	94.0	4.5	-	1.5	98.5	1.5	-	-		
	男性:60歳代	69	89.9	10.1	-	-	94.2	5.8	-	-	97.1	2.9	-	-		
	男性:70歳代以上	38	81.6	15.8	-	2.6	94.7	2.6	-	2.6	94.7	2.6	-	2.6		
	女性:10・20歳代	32	81.3	18.8	-	-	81.3	18.8	-	-	90.6	6.3	-	3.1		
	女性:30歳代	52	84.6	15.4	-	-	86.5	13.5	-	-	98.1	1.9	-	-		
	女性:40歳代	82	89.0	11.0	-	-	95.1	4.9	-	-	97.6	2.4	-	-		
	女性:50歳代	105	89.5	10.5	-	-	95.2	4.8	-	-	99.0	1.0	-	-		
	女性:60歳代	97	89.7	7.2	-	3.1	92.8	5.2	-	2.1	97.9	-	-	2.1		
	女性:70歳代以上	49	91.8	8.2	-	-	93.9	6.1	-	-	98.0	2.0	-	-		
	回答しない・該当しない	7	85.7	14.3	-	-	85.7	14.3	-	-	100.0	-	-	-		
無回答	2	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-			
	標本数	(エ)なぐるふりをして、おどす				(オ)刃物などを突きつけて、おどす				(カ)大声でどなる						
		力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど に ん な あ た る と も 思 う 暴	合 も あ そ う と 思 う 場 合	暴 力 に あ た る と は	思 わ な い と は	無 回 答
		全体	691 100.0	546 79.0	135 19.5	6 0.9	4 0.6	668 96.7	17 2.5	2 0.3	4 0.6	443 64.1	235 34.0	9 1.3	4 0.6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	77.3	13.6	9.1	-	95.5	-	4.5	-	54.5	40.9	4.5	-		
	男性:30歳代	26	84.6	15.4	-	-	100.0	-	-	-	73.1	26.9	-	-		
	男性:40歳代	43	76.7	20.9	2.3	-	95.3	2.3	2.3	-	58.1	39.5	2.3	-		
	男性:50歳代	67	79.1	19.4	1.5	-	97.0	3.0	-	-	62.7	34.3	3.0	-		
	男性:60歳代	69	71.0	29.0	-	-	97.1	1.4	-	1.4	52.2	47.8	-	-		
	男性:70歳代以上	38	60.5	31.6	2.6	5.3	94.7	2.6	-	2.6	50.0	42.1	5.3	2.6		
	女性:10・20歳代	32	84.4	15.6	-	-	96.9	3.1	-	-	65.6	31.3	3.1	-		
	女性:30歳代	52	88.5	11.5	-	-	98.1	1.9	-	-	55.8	44.2	-	-		
	女性:40歳代	82	84.1	15.9	-	-	97.6	2.4	-	-	69.5	29.3	1.2	-		
	女性:50歳代	105	88.6	11.4	-	-	97.1	2.9	-	-	76.2	23.8	-	-		
	女性:60歳代	97	71.1	25.8	1.0	2.1	93.8	4.1	-	2.1	68.0	28.9	-	3.1		
	女性:70歳代以上	49	79.6	20.4	-	-	98.0	2.0	-	-	67.3	30.6	2.0	-		
	回答しない・該当しない	7	71.4	28.6	-	-	100.0	-	-	-	57.1	42.9	-	-		
無回答	2	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-			

図表5-7(2) 暴力だと思ふもの [全体、年齢別]

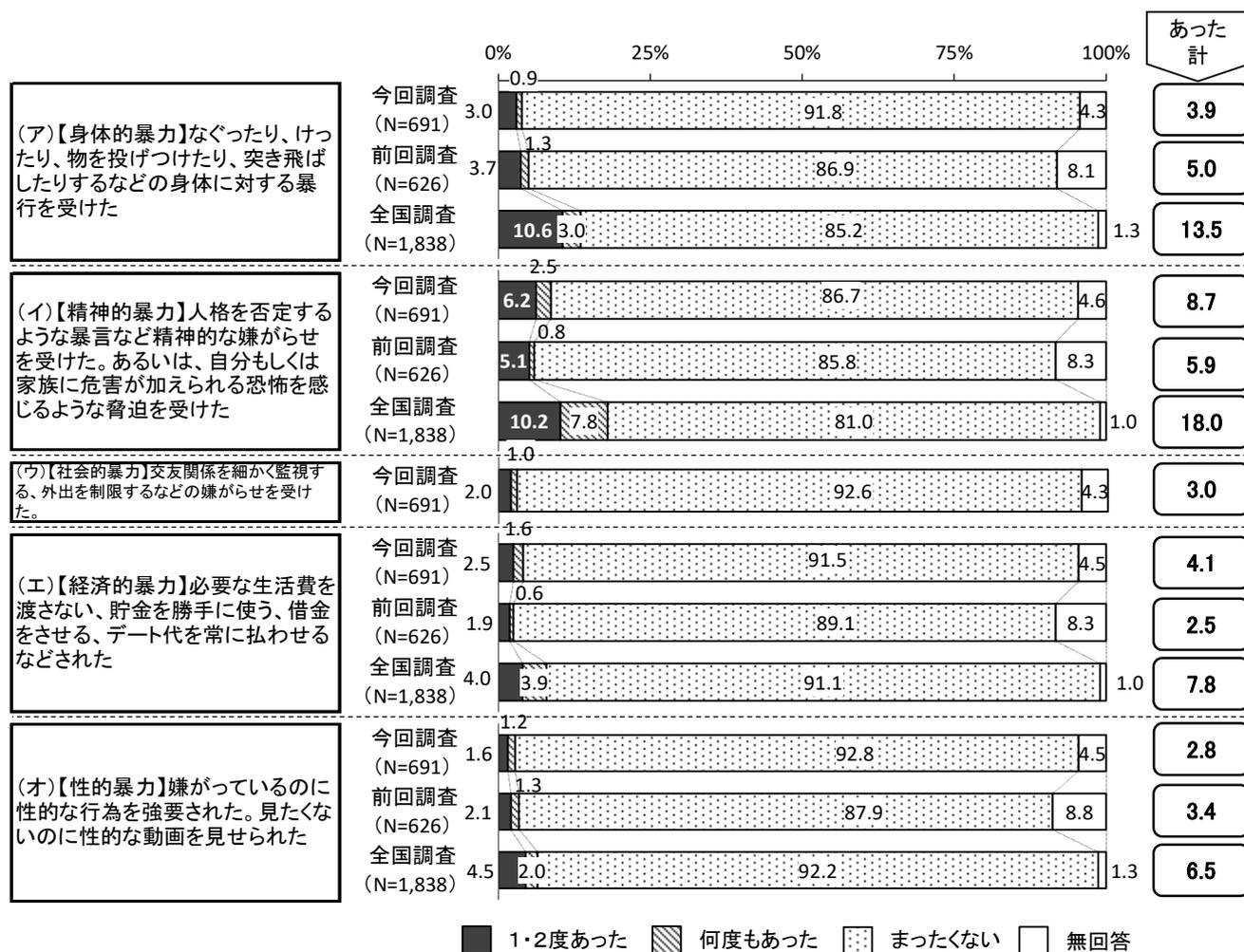
(%)

	標本数	(キ)交友関係や電話を細かく監視する					(ク)外出を制限する					(ケ)何を言っても長期間無視し続ける				
		力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答
		59.2	24.7	31	4.5	0.6	45.4	19.6	36	5.2	0.7	48.3	16.9	33	4.8	0.9
全体	691 100.0	409	247	31	4.5	0.6	454	196	36	5.2	0.7	483	169	33	4.8	0.9
年齢別	男性:10・20歳代	22	59.1	27.3	13.6	-	63.6	27.3	9.1	-	-	72.7	18.2	9.1	-	-
	男性:30歳代	26	65.4	30.8	3.8	-	65.4	34.6	-	-	-	76.9	19.2	3.8	-	-
	男性:40歳代	43	51.2	39.5	7.0	2.3	60.5	32.6	7.0	-	-	72.1	20.9	4.7	2.3	-
	男性:50歳代	67	49.3	47.8	3.0	-	61.2	32.8	6.0	-	-	68.7	26.9	4.5	-	-
	男性:60歳代	69	47.8	46.4	5.8	-	56.5	33.3	10.1	-	-	60.9	31.9	7.2	-	-
	男性:70歳代以上	38	47.4	39.5	10.5	2.6	60.5	21.1	10.5	7.9	-	65.8	23.7	5.3	5.3	-
	女性:10・20歳代	32	56.3	40.6	3.1	-	62.5	31.3	6.3	-	-	62.5	25.0	12.5	-	-
	女性:30歳代	52	63.5	36.5	-	-	78.8	21.2	-	-	-	69.2	30.8	-	-	-
	女性:40歳代	82	57.3	39.0	3.7	-	64.6	32.9	2.4	-	-	68.3	28.0	3.7	-	-
	女性:50歳代	105	66.7	28.6	4.8	-	72.4	22.9	4.8	-	-	78.1	18.1	3.8	-	-
	女性:60歳代	97	72.2	23.7	2.1	2.1	71.1	22.7	4.1	2.1	-	72.2	21.6	3.1	3.1	-
	女性:70歳代以上	49	63.3	30.6	6.1	-	65.3	30.6	4.1	-	-	71.4	22.4	6.1	-	-
	回答しない・該当しない 無回答	7 2	57.1 -	42.9 100.0	- -	- -	42.9 -	57.1 50.0	- 50.0	- -	- -	42.9 50.0	57.1 -	- 50.0	- -	- -
	標本数	(コ)「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などと言う					(サ)必要な生活費を渡さない					(シ)嫌がっているのに性的な行為を強要する				
		力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答
		57.9	91	18	3	0.4	58.1	85	18	7	1.0	64.0	44	1	6	
全体	691 100.0	579	91	18	3	0.4	581	85	18	7	1.0	640	44	1	6	
年齢別	男性:10・20歳代	22	81.8	9.1	9.1	-	81.8	13.6	4.5	-	-	90.9	4.5	4.5	-	-
	男性:30歳代	26	80.8	15.4	3.8	-	80.8	19.2	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	男性:40歳代	43	79.1	18.6	2.3	-	81.4	16.3	2.3	-	-	86.0	14.0	-	-	-
	男性:50歳代	67	74.6	22.4	3.0	-	77.6	20.9	-	1.5	-	92.5	6.0	-	1.5	-
	男性:60歳代	69	75.4	21.7	2.9	-	84.1	11.6	2.9	1.4	-	87.0	13.0	-	-	-
	男性:70歳代以上	38	78.9	15.8	2.6	2.6	81.6	7.9	5.3	5.3	-	84.2	7.9	-	7.9	-
	女性:10・20歳代	32	84.4	12.5	3.1	-	78.1	15.6	6.3	-	-	93.8	6.3	-	-	-
	女性:30歳代	52	92.3	7.7	-	-	92.3	7.7	-	-	-	98.1	1.9	-	-	-
	女性:40歳代	82	85.4	11.0	3.7	-	81.7	14.6	3.7	-	-	96.3	3.7	-	-	-
	女性:50歳代	105	87.6	10.5	1.9	-	87.6	9.5	2.9	-	-	95.2	4.8	-	-	-
	女性:60歳代	97	88.7	8.2	1.0	2.1	84.5	11.3	1.0	3.1	-	91.8	6.2	-	2.1	-
	女性:70歳代以上	49	87.8	10.2	2.0	-	89.8	6.1	4.1	-	-	93.9	6.1	-	-	-
	回答しない・該当しない 無回答	7 2	100.0 50.0	- -	- 50.0	- -	100.0 50.0	- -	- 50.0	- -	- -	100.0 50.0	- 50.0	- -	- -	- -
	標本数	(ス)避妊に協力しない					(セ)見たくないのに、AVなどの性的な動画や雑誌を見せる					(ソ)性的な画像を送るよう強要する				
		力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答	力ど に あ な 場 合 と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う 暴	暴 力 に あ た る と 思 う 暴	思 わ な い に あ た る と 思 う 暴	無 回 答
		60.4	68	13	6	0.9	60.3	70	13	5	0.7	64.6	28	10	7	
全体	691 100.0	604	68	13	6	0.9	603	70	13	5	0.7	646	28	10	7	
年齢別	男性:10・20歳代	22	90.9	4.5	4.5	-	86.4	9.1	4.5	-	-	86.4	9.1	4.5	-	-
	男性:30歳代	26	96.2	3.8	-	-	96.2	3.8	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	男性:40歳代	43	83.7	14.0	2.3	-	83.7	14.0	2.3	-	-	93.0	4.7	2.3	-	-
	男性:50歳代	67	88.1	10.4	-	1.5	85.1	10.4	3.0	1.5	-	94.0	3.0	1.5	1.5	-
	男性:60歳代	69	79.7	15.9	4.3	-	78.3	20.3	1.4	-	-	88.4	8.7	2.9	-	-
	男性:70歳代以上	38	65.8	21.1	5.3	7.9	73.7	18.4	2.6	5.3	-	81.6	7.9	2.6	7.9	-
	女性:10・20歳代	32	90.6	6.3	3.1	-	84.4	9.4	6.3	-	-	93.8	6.3	-	-	-
	女性:30歳代	52	94.2	5.8	-	-	98.1	1.9	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	女性:40歳代	82	93.9	6.1	-	-	89.0	9.8	1.2	-	-	95.1	3.7	1.2	-	-
	女性:50歳代	105	93.3	5.7	1.0	-	92.4	6.7	1.0	-	-	94.3	4.8	-	1.0	-
	女性:60歳代	97	85.6	11.3	1.0	2.1	86.6	10.3	1.0	2.1	-	94.8	2.1	1.0	2.1	-
	女性:70歳代以上	49	81.6	14.3	4.1	-	89.8	8.2	2.0	-	-	95.9	2.0	2.0	-	-
	回答しない・該当しない 無回答	7 2	100.0 50.0	- -	- 50.0	- -	100.0 50.0	- -	- 50.0	- -	- -	100.0 50.0	- -	- 50.0	- -	- -

3. パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無

問 12. この3年間くらいのうちに、あなたは配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（オ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

図表5-8 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の経験〔全体〕（前回・全国調査比較）



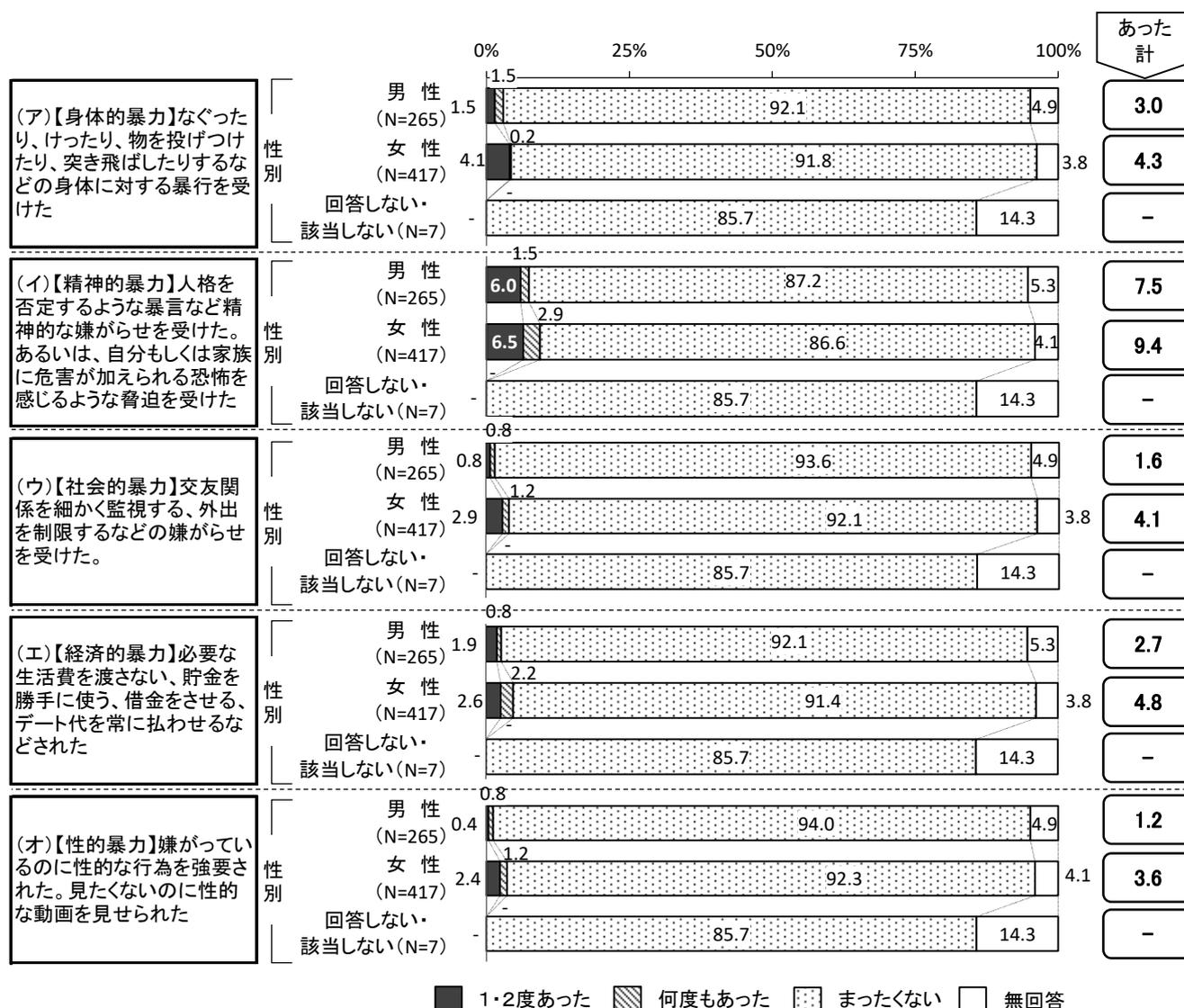
この3年くらいの間での配偶者・パートナー・恋人からのDV被害の経験についてたずねた。「1・2度あった」と「何度もあった」をあわせた『あった』の割合が高いのは「精神的暴力」で8.7%、次いで「経済的暴力」が4.1%、「身体的暴力」が3.9%、「社会的暴力」が3.0%、「性的暴力」が2.8%である。

前回調査と比べると、「精神的暴力」と「経済的暴力」がわずかであるが高い。

令和5年11月に実施された内閣府「男女間における暴力に関する調査」（以下、全国調査という）と比べると、いずれの暴力でも今回調査の方が経験は低い。

性別にみると、いずれの暴力も女性の方が男性よりも『あった』の割合が高い。

図表 5-9 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の経験 [全体、性別]

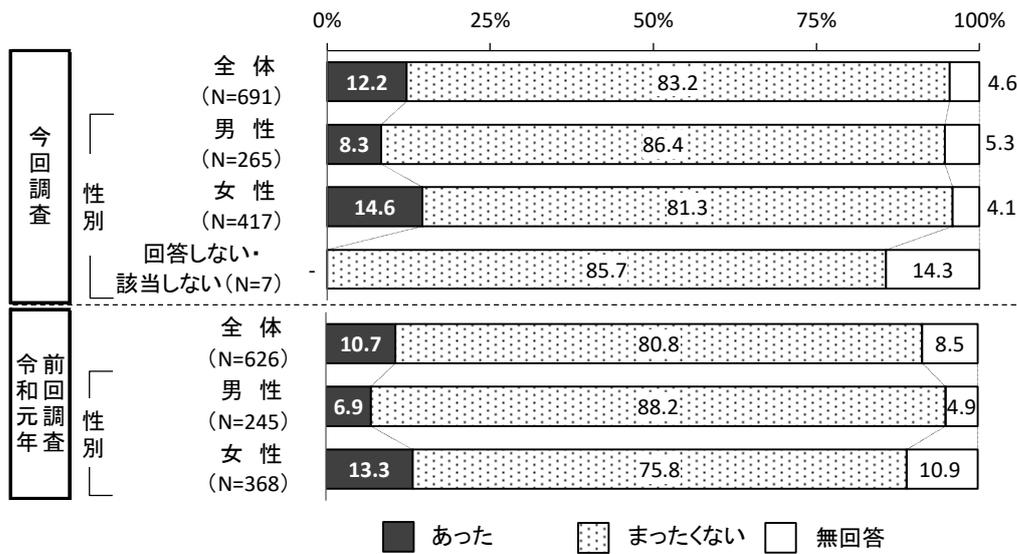


年齢別にみると、「身体的暴力」や「精神的暴力」「社会的暴力」「経済的暴力」などは女性の年齢が高い層で『あった』割合が高い傾向がみられる。また、「精神的暴力」は男性の30歳代から50歳代、女性の40歳代と50歳代でも割合が1割を超えている。「性的暴力」は女性の40歳代と50歳代で比較的高い。

図表5-10 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の経験〔全体、年齢別〕

		標本数	(ア)【身体的暴力】なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた					(イ)【精神的暴力】人格を否定するような暴言など精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、自分もしくは家族に危害が加えられる恐怖を感じるような脅迫を受けた				
			あ1つ・た2度	あ何度たも	なまいったく	無回答	あつた計	あ1つ・た2度	あ何度たも	なまいったく	無回答	あつた計
全体		691 100.0	21 3.0	6 0.9	634 91.8	30 4.3	27 3.9	43 6.2	17 2.5	599 86.7	32 4.6	60 8.7
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	-	86.4	13.6	-	-	-	86.4	13.6	-
	男性:30歳代	26	-	3.8	92.3	3.8	3.8	15.4	-	80.8	3.8	15.4
	男性:40歳代	43	4.7	2.3	86.0	7.0	7.0	4.7	7.0	79.1	9.3	11.7
	男性:50歳代	67	1.5	1.5	94.0	3.0	3.0	10.4	-	86.6	3.0	10.4
	男性:60歳代	69	1.4	1.4	97.1	-	2.8	4.3	1.4	94.2	-	5.7
	男性:70歳代以上	38	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	-
	女性:10・20歳代	32	-	-	100.0	-	-	3.1	-	96.9	-	3.1
	女性:30歳代	52	1.9	-	96.2	1.9	1.9	7.7	-	90.4	1.9	7.7
	女性:40歳代	82	1.2	-	96.3	2.4	1.2	8.5	2.4	86.6	2.4	10.9
	女性:50歳代	105	3.8	-	93.3	2.9	3.8	5.7	4.8	86.7	2.9	10.5
	女性:60歳代	97	6.2	-	87.6	6.2	6.2	7.2	2.1	84.5	6.2	9.3
	女性:70歳代以上	49	10.2	2.0	79.6	8.2	12.2	4.1	6.1	79.6	10.2	10.2
回答しない・該当しない 無回答		7 2	- -	- 50.0	85.7 50.0	14.3 -	- 50.0	- -	- 50.0	85.7 50.0	14.3 -	- 50.0
		標本数	(ウ)【社会的暴力】交友関係を細かく監視する、外出を制限するなどの嫌がらせを受けた。					(エ)【経済的暴力】必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、借金をさせる、デート代を常に払わせるなどされた				
全体		691 100.0	14 2.0	7 1.0	640 92.6	30 4.3	21 3.0	17 2.5	11 1.6	632 91.5	31 4.5	28 4.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	-	90.9	9.1	-	-	-	90.9	9.1	-
	男性:30歳代	26	-	-	96.2	3.8	-	3.8	-	92.3	3.8	3.8
	男性:40歳代	43	2.3	2.3	86.0	9.3	4.6	2.3	2.3	86.0	9.3	4.6
	男性:50歳代	67	1.5	1.5	94.0	3.0	3.0	4.5	1.5	89.6	4.5	6.0
	男性:60歳代	69	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
	男性:70歳代以上	38	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	-
	女性:10・20歳代	32	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
	女性:30歳代	52	1.9	-	96.2	1.9	1.9	-	1.9	96.2	1.9	1.9
	女性:40歳代	82	2.4	1.2	93.9	2.4	3.6	1.2	1.2	95.1	2.4	2.4
	女性:50歳代	105	1.9	1.9	93.3	2.9	3.8	3.8	3.8	89.5	2.9	7.6
	女性:60歳代	97	5.2	-	88.7	6.2	5.2	3.1	2.1	88.7	6.2	5.2
	女性:70歳代以上	49	4.1	4.1	83.7	8.2	8.2	6.1	2.0	83.7	8.2	8.1
回答しない・該当しない 無回答		7 2	- -	- 100.0	85.7 50.0	14.3 -	- 50.0	- -	- 50.0	85.7 50.0	14.3 -	- 50.0
		標本数	(オ)【性的暴力】嫌がっているのに性的な行為を強要された。見たくないのに性的な動画を見せられた									
全体		691 100.0	11 1.6	8 1.2	641 92.8	31 4.5	19 2.8					
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	-	90.9	9.1	-					
	男性:30歳代	26	3.8	-	92.3	3.8	3.8					
	男性:40歳代	43	-	2.3	88.4	9.3	2.3					
	男性:50歳代	67	-	1.5	95.5	3.0	1.5					
	男性:60歳代	69	-	-	100.0	-	-					
	男性:70歳代以上	38	-	-	89.5	10.5	-					
	女性:10・20歳代	32	-	-	100.0	-	-					
	女性:30歳代	52	-	1.9	96.2	1.9	1.9					
	女性:40歳代	82	3.7	1.2	92.7	2.4	4.9					
	女性:50歳代	105	3.8	1.9	91.4	2.9	5.7					
	女性:60歳代	97	2.1	1.0	90.7	6.2	3.1					
	女性:70歳代以上	49	2.0	-	87.8	10.2	2.0					
回答しない・該当しない 無回答		7 2	- -	- 50.0	85.7 50.0	14.3 -	- 50.0					

図表5-11 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の経験・まとめ〔全体、性別〕（前回調査比較）



この3年くらいの間での配偶者・パートナー・恋人からのDV被害の経験についてたずねたところ、身体的暴力、精神的暴力、社会的、経済的暴力、性的暴力のいずれか一つでも「あった」割合は12.2%である。

性別にみると、女性は「あった」が14.6%と男性（8.3%）より高い。

前回調査と比べると、男女とも「あった」がわずかであるが増えている。

年齢別にみると、女性は年齢が高い層で「あった」割合が高い傾向がみられ、男性は30歳代から50歳代で1割を超えている。

配偶状況別にみると、パートナーがいる人で「あった」割合が高く、パートナーがいない人では女性の離別で高い。

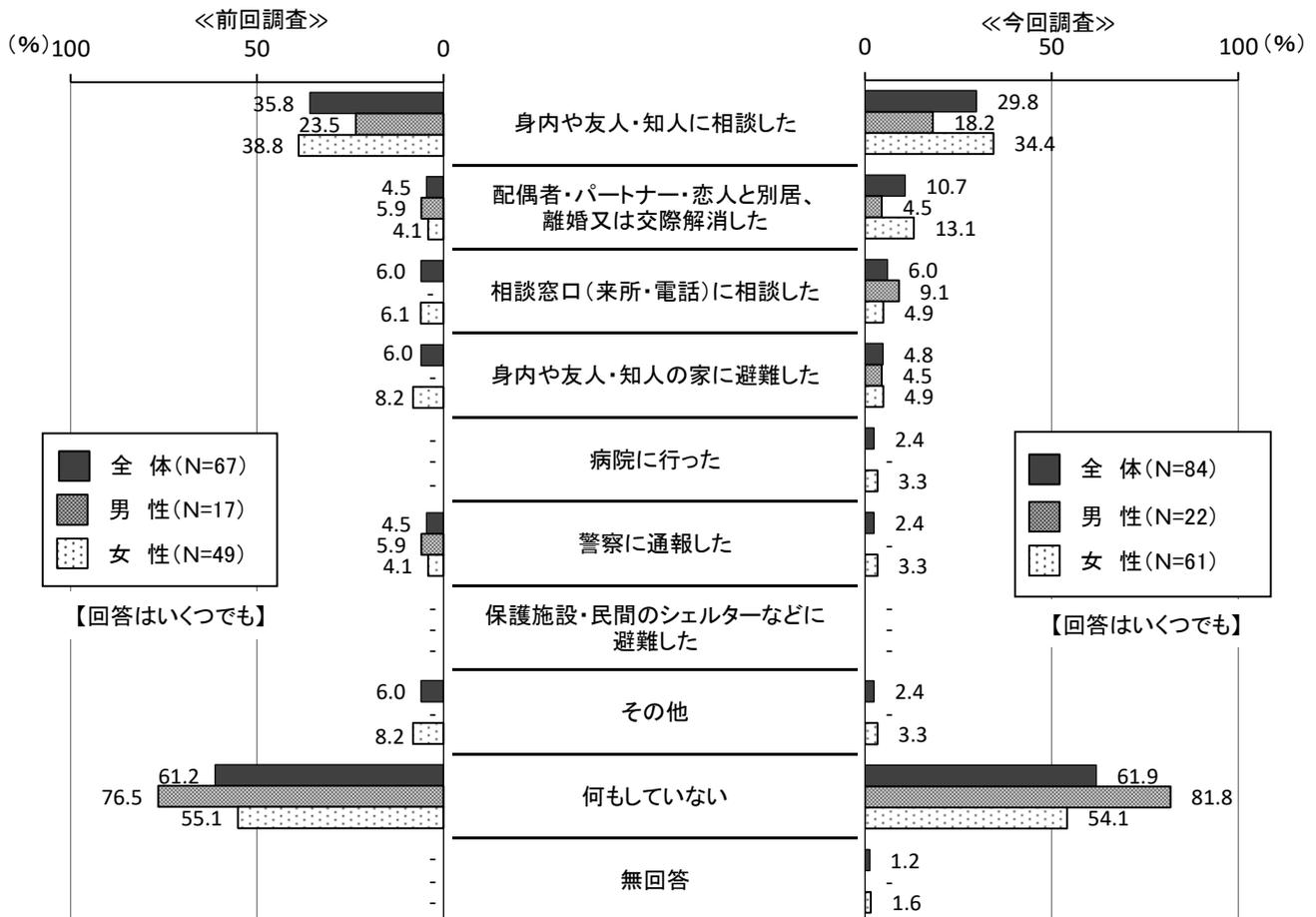
図表5-12 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の経験・まとめ [全体、性別、年齢別]  
(%)

		標本数	あった	なま い った く	無 回 答
全体		691 100.0	84 12.2	575 83.2	32 4.6
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	86.4	13.6
	男性:30歳代	26	15.4	80.8	3.8
	男性:40歳代	43	11.6	79.1	9.3
	男性:50歳代	67	13.4	83.6	3.0
	男性:60歳代	69	5.8	94.2	-
	男性:70歳代以上	38	-	89.5	10.5
	女性:10・20歳代	32	3.1	96.9	-
	女性:30歳代	52	11.5	86.5	1.9
	女性:40歳代	82	15.9	81.7	2.4
	女性:50歳代	105	15.2	81.9	2.9
	女性:60歳代	97	15.5	78.4	6.2
	女性:70歳代以上	49	20.4	69.4	10.2
回答しない・該当しない		7	-	85.7	14.3
無回答		2	50.0	50.0	-
配偶状況別	男性:パートナーがいる(共働きである)	111	13.5	86.5	-
	男性:パートナー がいる(共働きでない)	95	5.3	92.6	2.1
	男性:パートナー はいない(離別)	13	7.7	84.6	7.7
	男性:パートナー はいない(死別)	2	-	50.0	50.0
	男性:結婚していない	44	2.3	75.0	22.7
	女性:パートナーがいる(共働きである)	193	16.6	83.4	-
	女性:パートナー がいる(共働きでない)	116	18.1	81.0	0.9
	女性:パートナー はいない(離別)	36	16.7	58.3	25.0
	女性:パートナー はいない(死別)	16	-	75.0	25.0
	女性:結婚していない	56	3.6	91.1	5.4
回答しない・該当しない		7	-	85.7	14.3
無回答		2	50.0	50.0	-

#### 4. 暴力を受けた後の対応

【問12で(ア)から(オ)のうち、ひとつでも「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方に】付問12-1. そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。  
(〇はいくつでも)

図表5-13 暴力を受けた後の対応 [全体、性別] (前回調査比較)



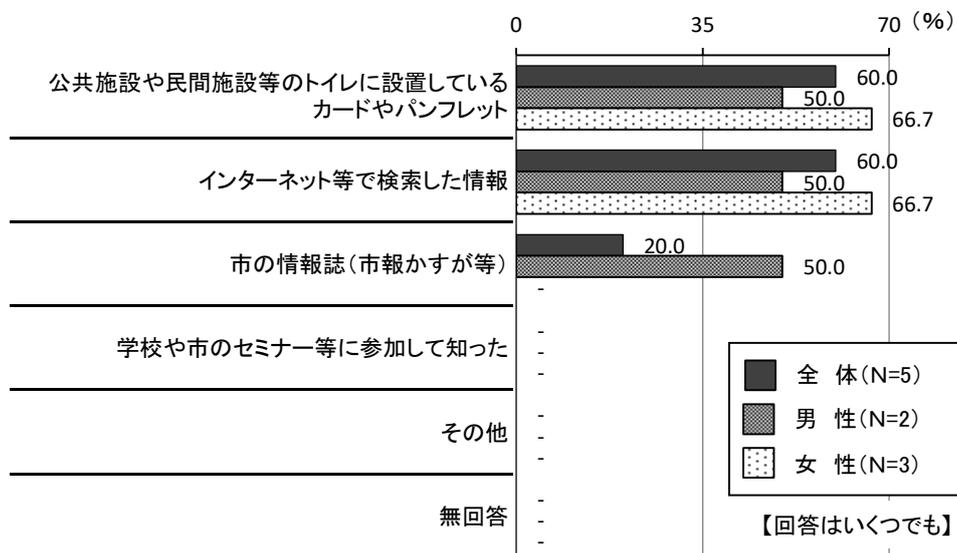
暴力の被害経験がある人に、その後の対応をたずねたところ、「何もしていない」が最も高く61.9%である。何かしらの対応をした人の中では、「身内や友人・知人に相談した」が29.8%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー・恋人と別居、離婚又は交際解消した」が10.7%、「相談窓口(来所・電話)に相談した」が6.0%である。

性別にみると、男女で対応の方法が異なっており、男性では「相談窓口(来所・電話)に相談した」が9.1%で女性(4.9%)より4.2ポイント高い。女性は「身内や友人・知人に相談した」(男性18.2%、女性34.4%)や「配偶者・パートナー・恋人と別居、離婚又は交際解消した」(同4.5%、13.1%)が8.6~16.2ポイント高い。男性は「何もしていない」が81.8%で女性(54.1%)を27.7ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男性は「相談窓口(来所・電話)に相談した」が前回調査では該当がなかったが、今回調査では女性よりも割合が高い。女性は「配偶者・パートナー・恋人と別居、離婚又は交際解消した」が9ポイント、男性は「何もしていない」が5.3ポイント増えている。

【付問 12-1 で「2. 相談窓口（来所・電話）に相談した」と答えた方に】  
 付問 12-2. 相談窓口は、どのようにして知りましたか。（〇はいくつでも）

図表 5-14 相談窓口を知った媒体 [全体、性別]



暴力を受けた時に「相談窓口（来所・電話）に相談した」人（5人）が相談窓口を知った媒体は、「公共施設や民間施設等のトイレに設置しているカードやパンフレット」（3人）、「インターネット等で検索した情報」（3人）、「市の情報誌（市報かすが等）」（1人）などである。

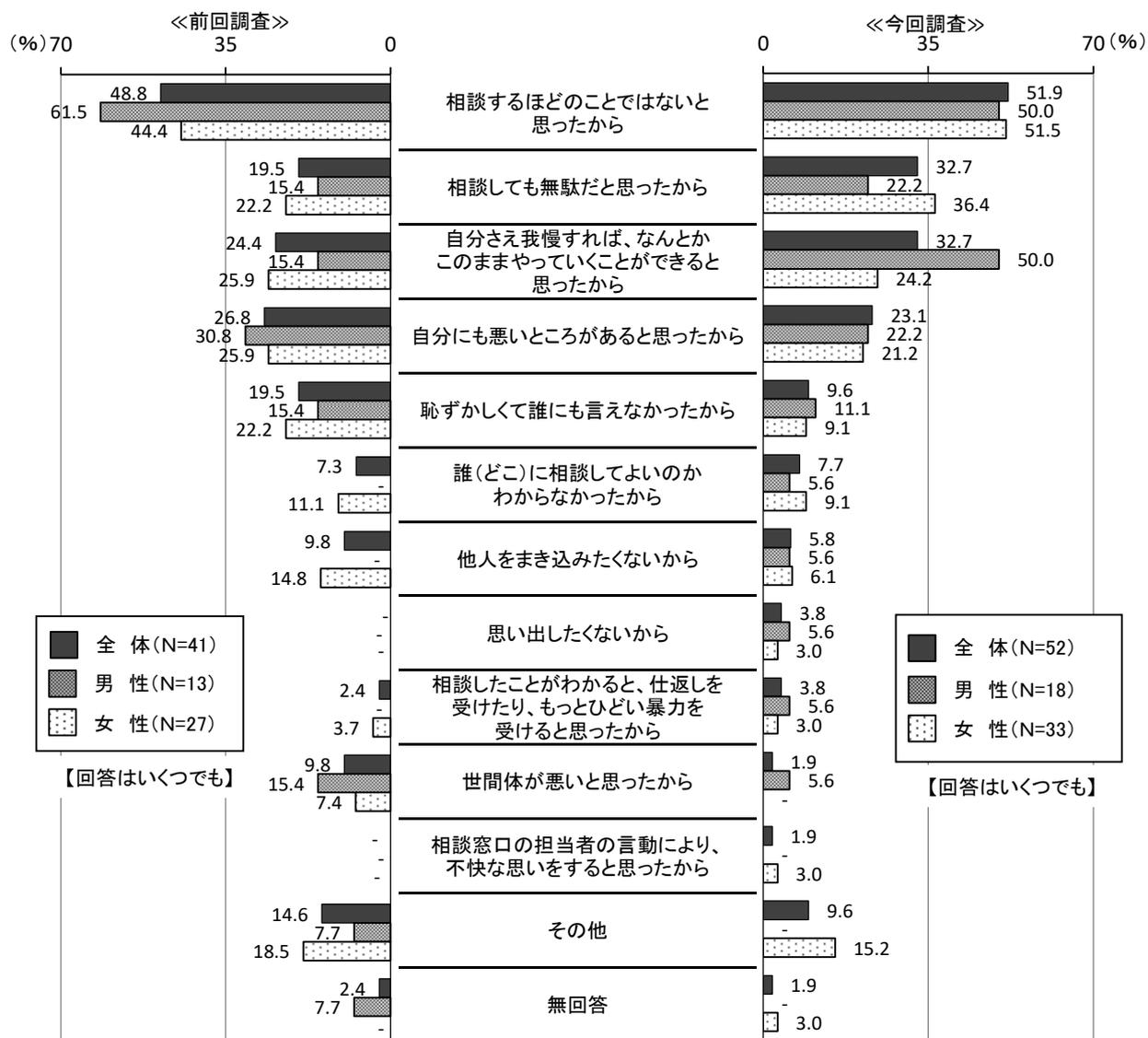
性別にみると、女性は「公共施設や民間施設等のトイレに設置しているカードやパンフレット」や「インターネット等で検索した情報」、男性はそれらと「市の情報誌（市報かすが等）」で相談窓口を知っている。

## 5. 対応で「何もしていない」理由

【付問 12-1 で「何もしていない」と答えた方に】

付問 12-3. あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図表 5-15 何もしなかった理由 [全体、性別] (前回調査比較)



暴力の被害を受けたときに「何もしていない」理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」(51.9%)が約半数を占めている。次いで、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」(同率 32.7%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(23.1%)である。

性別にみると、男性は、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」が 50.0%で女性 (24.2%) より 25.8 ポイント高い。女性は「相談しても無駄だと思ったから」が 36.4%で男性 (22.2%) より 14.2 ポイント高い。

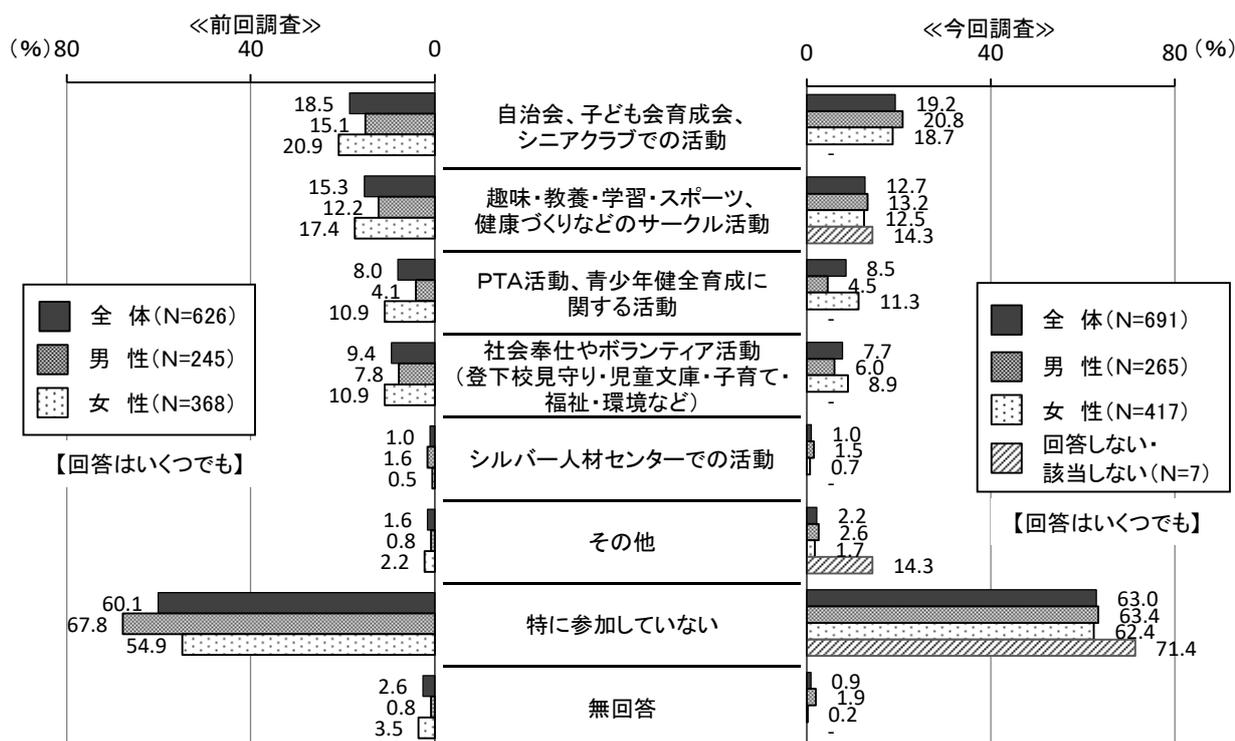
前回調査と比べると、男性は「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」が 34.6 ポイント、女性は「相談しても無駄だと思ったから」が 14.2 ポイント増えている。

## 第6章 地域活動について

### 1. 地域社会で参加している実践活動

問 13. あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。  
(〇はいくつでも)

図表 6-1 地域社会で参加している実践活動〔全体、性別〕(前回調査比較)



現在参加している地域活動についてたずねたところ、「特に参加していない」が約6割を占めている。参加している活動としては「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」が19.2%、「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が12.7%と比較的高い。

性別にみると、「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」(男性4.5%、女性11.3%)や「社会奉仕やボランティア活動(登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など)」(同6.0%、8.9%)などは女性の方が参加している割合が男性より2.9~6.8ポイント高いが、その他の活動や「特に参加していない」の割合に大きな差はみられない。

前回調査と比べると、男性の「特に参加していない」は4.4ポイント減り、女性は7.5ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の40歳代で「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」が35.4%、30歳代で19.2%と高いのが目立つ。「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」は男女とも40歳代で約3割と高く、次いで男性の70歳代以上で26.3%である。「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」は男性の30歳代と女性の70歳代以上で約2割、「社会奉仕やボランティア活動（登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など）」は男性の30歳代、女性の40歳代で1割台半ばと高い。

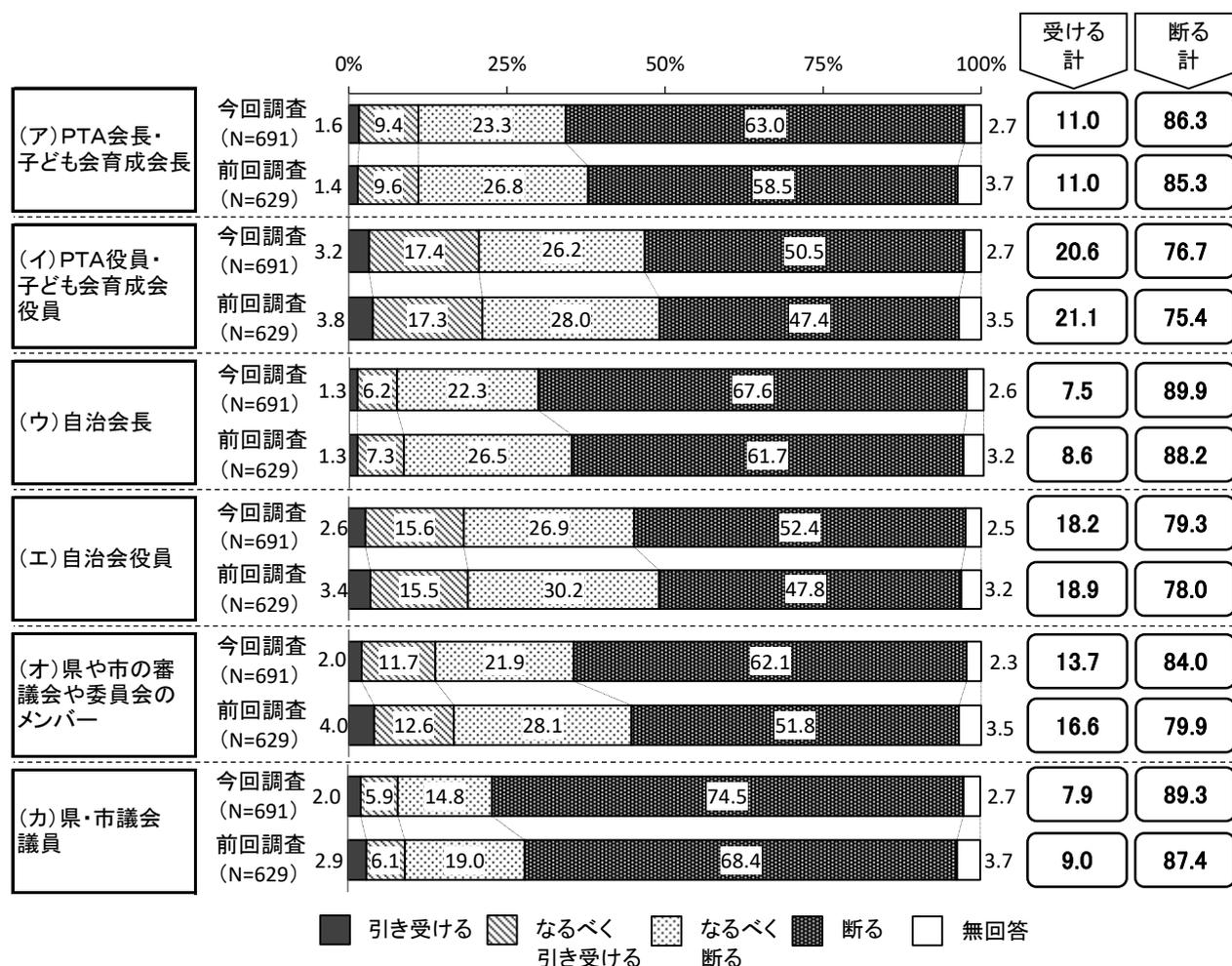
図表6-2 地域社会で参加している実践活動 [全体、年齢別]

		(%)								
		標本数	自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動	PTA活動、青少年健全育成に関する活動	趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動	社会奉仕やボランティア活動（登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など）	シルバー人材センターでの活動	その他	特に参加していない	無回答
全体		691 100.0	133 19.2	59 8.5	88 12.7	53 7.7	7 1.0	15 2.2	435 63.0	6 0.9
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	-	9.1	-	-	4.5	86.4	-
	男性:30歳代	26	15.4	7.7	23.1	15.4	-	-	50.0	7.7
	男性:40歳代	43	30.2	9.3	2.3	4.7	-	2.3	60.5	2.3
	男性:50歳代	67	20.9	4.5	16.4	7.5	-	1.5	65.7	-
	男性:60歳代	69	20.3	4.3	11.6	5.8	2.9	4.3	63.8	2.9
	男性:70歳代以上	38	26.3	-	18.4	2.6	5.3	2.6	57.9	-
	女性:10・20歳代	32	6.3	-	9.4	6.3	-	-	78.1	-
	女性:30歳代	52	23.1	19.2	3.8	9.6	-	1.9	63.5	-
	女性:40歳代	82	29.3	35.4	12.2	14.6	-	1.2	46.3	-
	女性:50歳代	105	16.2	5.7	11.4	7.6	-	3.8	64.8	1.0
女性:60歳代	97	17.5	1.0	14.4	6.2	2.1	1.0	67.0	-	
女性:70歳代以上	49	12.2	2.0	22.4	8.2	2.0	-	63.3	-	
回答しない・該当しない		7	-	-	14.3	-	-	14.3	71.4	-
無回答		2	-	-	-	-	-	-	100.0	-

2. 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応

問 14. 仮にあなたが、次の（ア）から（カ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

図表 6-3 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応 [全体] (前回調査比較)

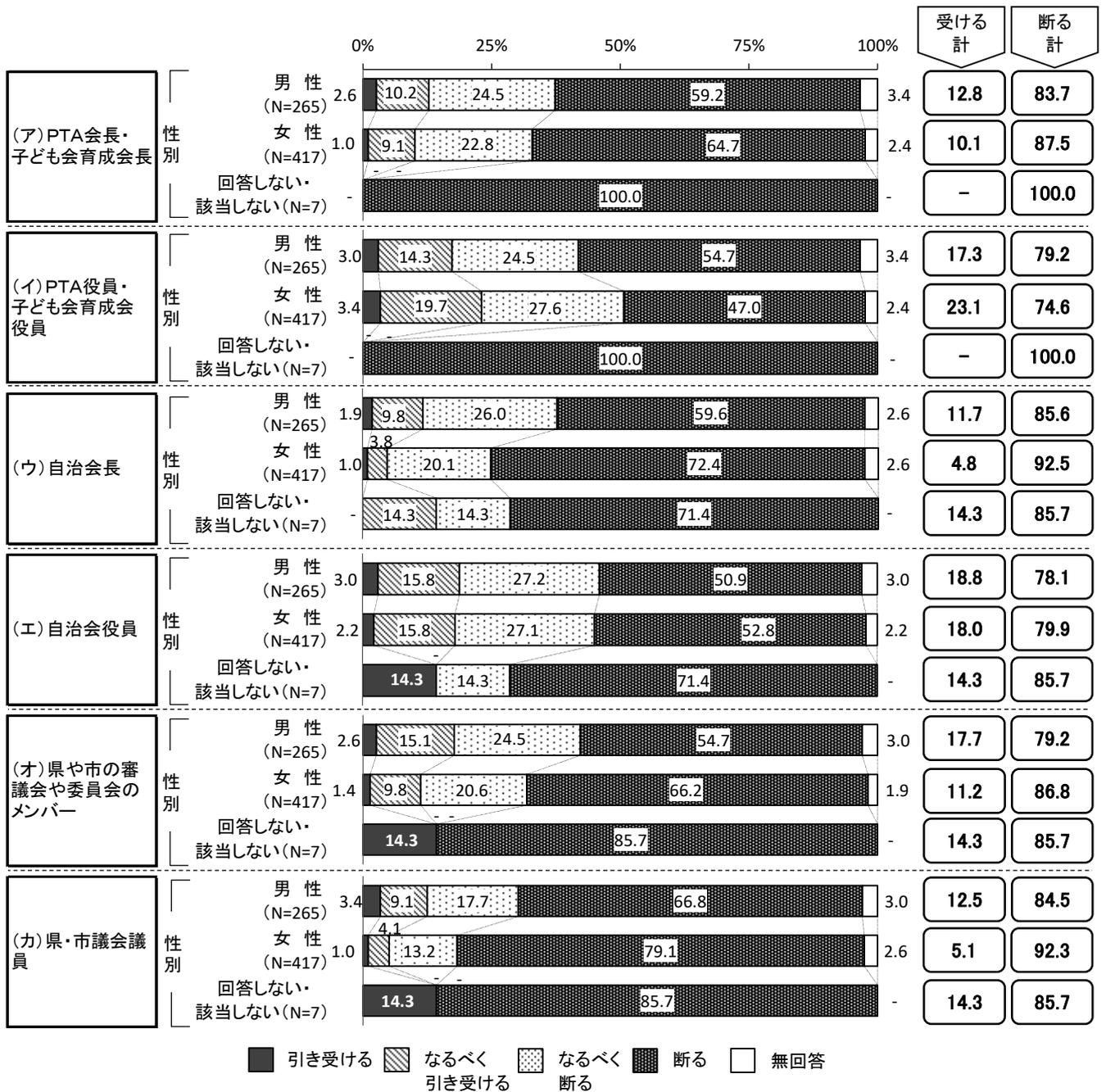


様々な役職や公職に就任や立候補を依頼された場合の対応として、「引き受ける」と「なるべく引き受ける」を合わせた『受ける』の割合が最も高いのは「PTA役員・子ども会育成会役員」で20.6%、「自治会役員」が18.2%、「県や市の審議会や委員会のメンバー」が13.7%の順である。一方で、「自治会長」や「県・市議会議員」は『引き受ける』が1割に満たない。

前回調査と比べると、いずれの役職や公職も「断る」の割合が増えている。『受ける』の割合にはあまり大きな差はみられないが、「県や市の審議会や委員会のメンバー」や「県・市議会議員」では『受ける』割合はやや減少している。

性別に『受ける』割合をみると、「県や市の審議会や委員会のメンバー」（男性 17.7%、女性 11.2%）や「県・市議会議員」（同 12.5%、5.1%）、「自治会長」（同 11.7%、4.8%）などは男性の方が 6.5～7.4 ポイント高い。「PTA会長・子ども会育成会長」（同 12.8%、10.1%）や「自治会役員」（同 18.8%、18.0%）などは男女とも同程度の割合である。「PTA役員・子ども会育成会役員」（同 17.3%、23.1%）のみは女性の方が男性を 5.8 ポイント上回る。

図表 6-4 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応〔性別〕



年齢別にみると、男性はいずれの役職や公職も年齢の低い層で『受ける』割合が高い傾向がみられる。女性もその傾向はみられるが、「自治会役員」や「県や市の審議会や委員会のメンバー」は50歳代や60歳代でも『受ける』割合が比較的高い。

図表6-5 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応〔全体、年齢別〕

(%)

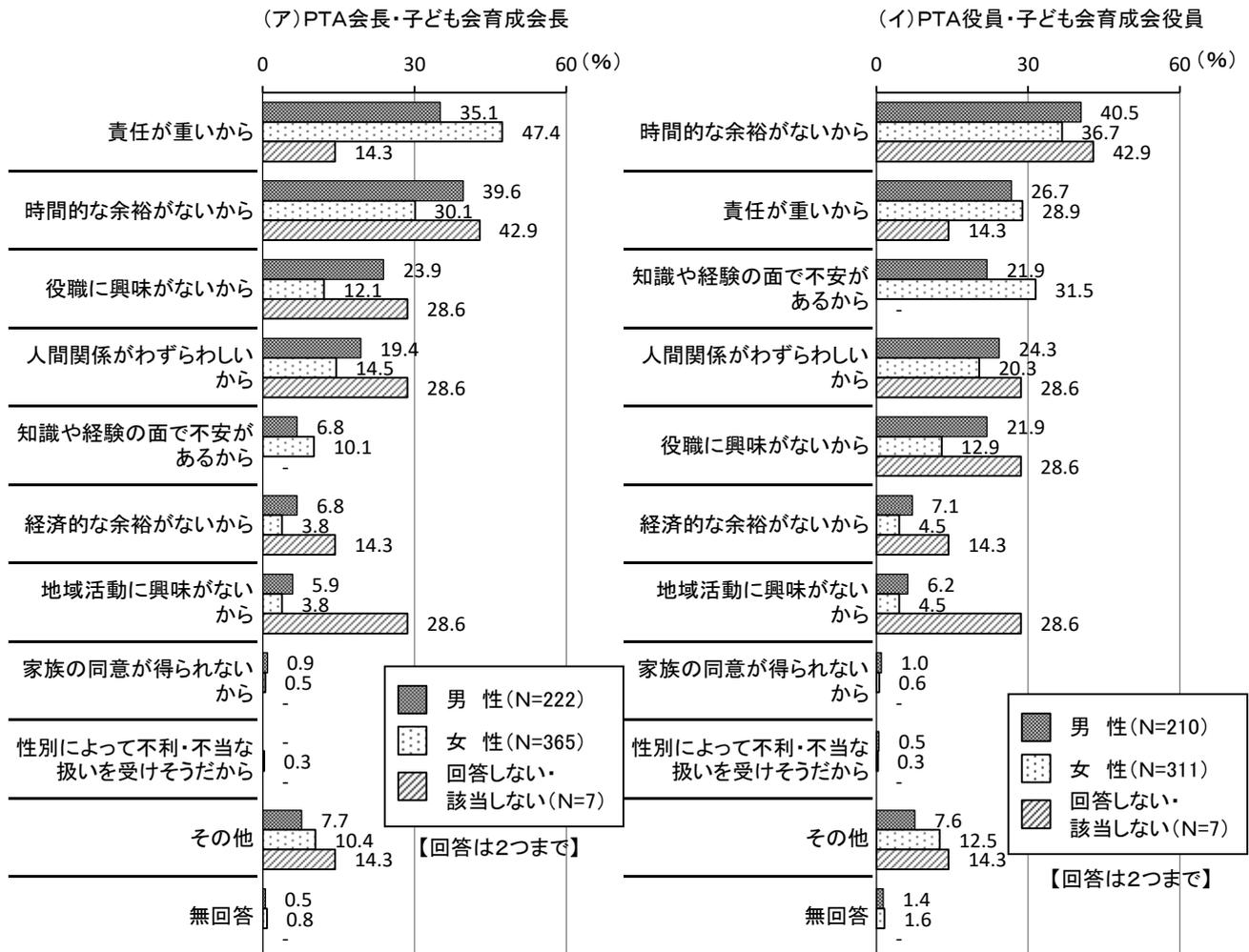
	標本数	(ア)PTA会長・子ども会育成会長							(イ)PTA役員・子ども会育成会役員							
		る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	
全体	691 100.0	11 1.6	65 9.4	161 23.3	435 63.0	19 2.7	76 11.0	596 86.3	22 3.2	120 17.4	181 26.2	349 50.5	19 2.7	142 20.6	530 76.7	
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	9.1	22.7	63.6	-	13.6	86.3	4.5	22.7	9.1	63.6	-	27.2	72.7
	男性:30歳代	26	3.8	19.2	26.9	50.0	-	23.0	76.9	7.7	23.1	19.2	50.0	-	30.8	69.2
	男性:40歳代	43	2.3	14.0	23.3	55.8	4.7	16.3	79.1	2.3	16.3	25.6	51.2	4.7	18.6	76.8
	男性:50歳代	67	4.5	9.0	25.4	61.2	-	13.5	86.6	4.5	11.9	31.3	52.2	-	16.4	83.5
	男性:60歳代	69	1.4	8.7	20.3	65.2	4.3	10.1	85.5	1.4	11.6	23.2	59.4	4.3	13.0	82.6
	男性:70歳代以上	38	-	5.3	31.6	52.6	10.5	5.3	84.2	-	10.5	26.3	52.6	10.5	10.5	78.9
	女性:10・20歳代	32	3.1	18.8	12.5	62.5	3.1	21.9	75.0	3.1	25.0	18.8	50.0	3.1	28.1	68.8
	女性:30歳代	52	-	11.5	28.8	59.6	-	11.5	88.4	-	26.9	38.5	34.6	-	26.9	73.1
	女性:40歳代	82	1.2	9.8	19.5	69.5	-	11.0	89.0	6.1	18.3	30.5	45.1	-	24.4	75.6
	女性:50歳代	105	1.0	7.6	28.6	61.9	1.0	8.6	90.5	2.9	20.0	30.5	45.7	1.0	22.9	76.2
	女性:60歳代	97	-	9.3	19.6	67.0	4.1	9.3	86.6	2.1	19.6	23.7	50.5	4.1	21.7	74.2
	女性:70歳代以上	49	2.0	2.0	22.4	65.3	8.2	4.0	87.7	6.1	10.2	18.4	57.1	8.2	16.3	75.5
	回答しない・該当しない	7	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	100.0
無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	
	標本数	(ウ)自治会長							(エ)自治会役員							
		る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	
全体	691 100.0	9 1.3	43 6.2	154 22.3	467 67.6	18 2.6	52 7.5	621 89.9	18 2.6	108 15.6	186 26.9	362 52.4	17 2.5	126 18.2	548 79.3	
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	9.1	18.2	68.2	-	13.6	86.4	4.5	18.2	13.6	63.6	-	22.7	77.2
	男性:30歳代	26	3.8	15.4	30.8	50.0	-	19.2	80.8	7.7	15.4	23.1	53.8	-	23.1	76.9
	男性:40歳代	43	-	16.3	23.3	55.8	4.7	16.3	79.1	2.3	18.6	30.2	44.2	4.7	20.9	74.4
	男性:50歳代	67	3.0	10.4	26.9	59.7	-	13.4	86.6	3.0	16.4	29.9	50.7	-	19.4	80.6
	男性:60歳代	69	1.4	7.2	26.1	60.9	4.3	8.6	87.0	2.9	15.9	24.6	52.2	4.3	18.8	76.8
	男性:70歳代以上	38	-	2.6	28.9	63.2	5.3	2.6	92.1	-	10.5	34.2	47.4	7.9	10.5	81.6
	女性:10・20歳代	32	3.1	6.3	25.0	62.5	3.1	9.4	87.5	6.3	12.5	28.1	50.0	3.1	18.8	78.1
	女性:30歳代	52	1.9	5.8	21.2	71.2	-	7.7	92.4	1.9	19.2	26.9	51.9	-	21.1	78.8
	女性:40歳代	82	1.2	3.7	15.9	79.3	-	4.9	95.2	1.2	12.2	31.7	54.9	-	13.4	86.6
	女性:50歳代	105	-	2.9	24.8	71.4	1.0	2.9	96.2	1.9	16.2	33.3	47.6	1.0	18.1	80.9
	女性:60歳代	97	1.0	5.2	19.6	70.1	4.1	6.2	89.7	2.1	18.6	20.6	54.6	4.1	20.7	75.2
	女性:70歳代以上	49	-	-	14.3	75.5	10.2	-	89.8	2.0	14.3	18.4	59.2	6.1	16.3	77.6
	回答しない・該当しない	7	-	14.3	14.3	71.4	-	14.3	85.7	14.3	-	14.3	71.4	-	14.3	85.7
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	100.0	
	標本数	(オ)県や市の審議会や委員会のメンバー							(カ)県・市議会議員							
		る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	る引き受け	る引なきる受け	断なるべく	断る	無回答	受ける計	断る計	
全体	691 100.0	14 2.0	81 11.7	151 21.9	429 62.1	16 2.3	95 13.7	580 84.0	14 2.0	41 5.9	102 14.8	515 74.5	19 2.7	55 7.9	617 89.3	
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	18.2	13.6	63.6	-	22.7	77.2	4.5	9.1	27.3	59.1	-	13.6	86.4
	男性:30歳代	26	7.7	23.1	15.4	53.8	-	30.8	69.2	11.5	19.2	11.5	57.7	-	30.7	69.2
	男性:40歳代	43	-	14.0	25.6	55.8	4.7	14.0	81.4	2.3	16.3	18.6	58.1	4.7	18.6	76.7
	男性:50歳代	67	4.5	14.9	29.9	50.7	-	19.4	80.6	6.0	7.5	23.9	62.7	-	13.5	86.6
	男性:60歳代	69	1.4	15.9	24.6	53.6	4.3	17.3	78.2	-	5.8	14.5	75.4	4.3	5.8	89.9
	男性:70歳代以上	38	-	7.9	26.3	57.9	7.9	7.9	84.2	-	2.6	10.5	78.9	7.9	2.6	89.4
	女性:10・20歳代	32	-	6.3	18.8	71.9	3.1	6.3	90.7	-	9.4	9.4	78.1	3.1	9.4	87.5
	女性:30歳代	52	1.9	13.5	11.5	73.1	-	15.4	84.6	1.9	7.7	15.4	75.0	-	9.6	90.4
	女性:40歳代	82	1.2	8.5	24.4	65.9	-	9.7	90.3	2.4	4.9	14.6	78.0	-	7.3	92.6
	女性:50歳代	105	1.9	14.3	24.8	59.0	-	16.2	83.8	1.0	1.9	15.2	81.0	1.0	2.9	96.2
	女性:60歳代	97	1.0	9.3	17.5	68.0	4.1	10.3	85.5	-	4.1	11.3	80.4	4.1	4.1	91.7
	女性:70歳代以上	49	2.0	2.0	22.4	67.3	6.1	4.0	89.7	-	-	10.2	79.6	10.2	-	89.8
	回答しない・該当しない	7	14.3	-	-	85.7	-	14.3	85.7	14.3	-	-	85.7	-	14.3	85.7
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	100.0	

### 3. 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由

【問 14 で (ア) から (カ) のうち、「なるべく断る」、「断る」と答えた方に】

付問 14-1. 断る理由は何ですか。(ア) から (カ) について、それぞれあてはまる項目の番号を2つまで記入してください。(〇は2つまで)

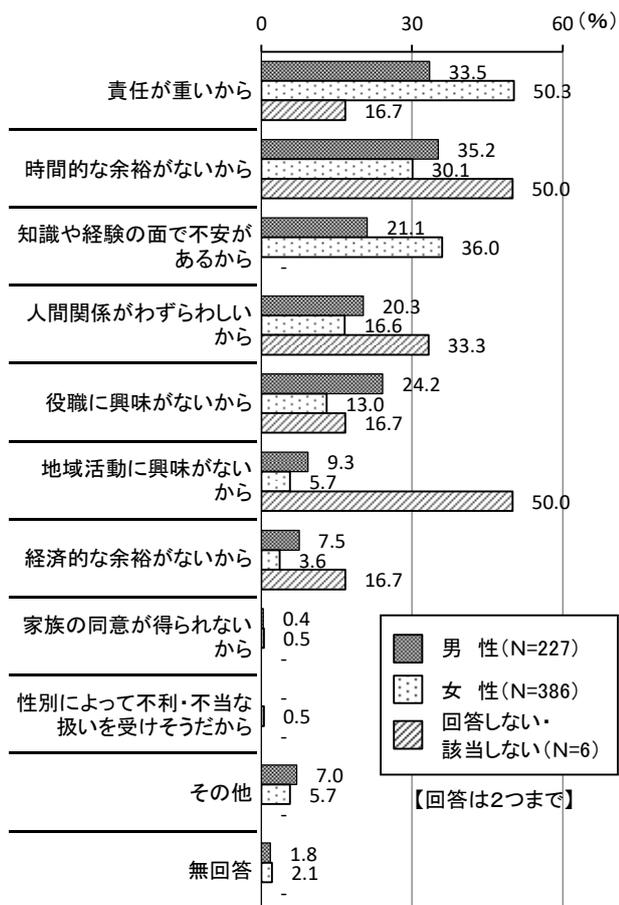
図表 6-6 (1) 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由 [性別]



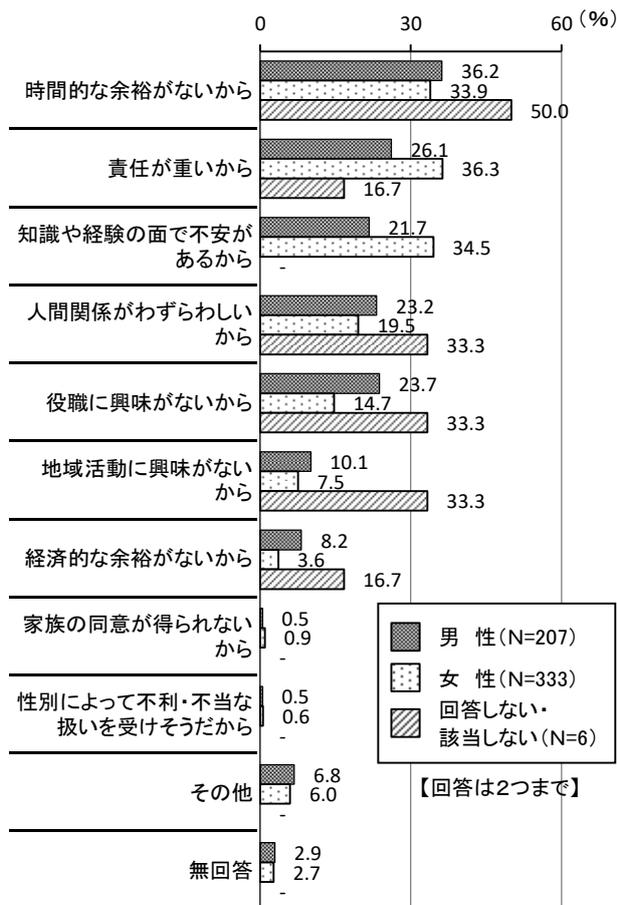
役職や公職への就任や立候補を『断る』理由を性別にみると、女性は「PTA役員・子ども会育成会役員」は「時間的な余裕がないから」(36.7%)、「県や市の審議会や委員会のメンバー」は「知識や経験の面で不安があるから」(45.3%)の理由が最も高く、その他の役職や公職は「責任が重いから」の理由が最も高い。男性は「県・市議会議員」は「責任が重いから」(35.7%)、その他役職や公職は「時間的な余裕がないから」の理由が最も高い。また、「知識や経験の面で不安があるから」の理由は、いずれの役職や公職でも女性の方が男性よりも割合が高く、「役職に興味がないから」や「人間関係がわずらわしいから」などの理由は男性の方が女性よりも割合が高い。

図表6-6(2) 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由〔性別〕

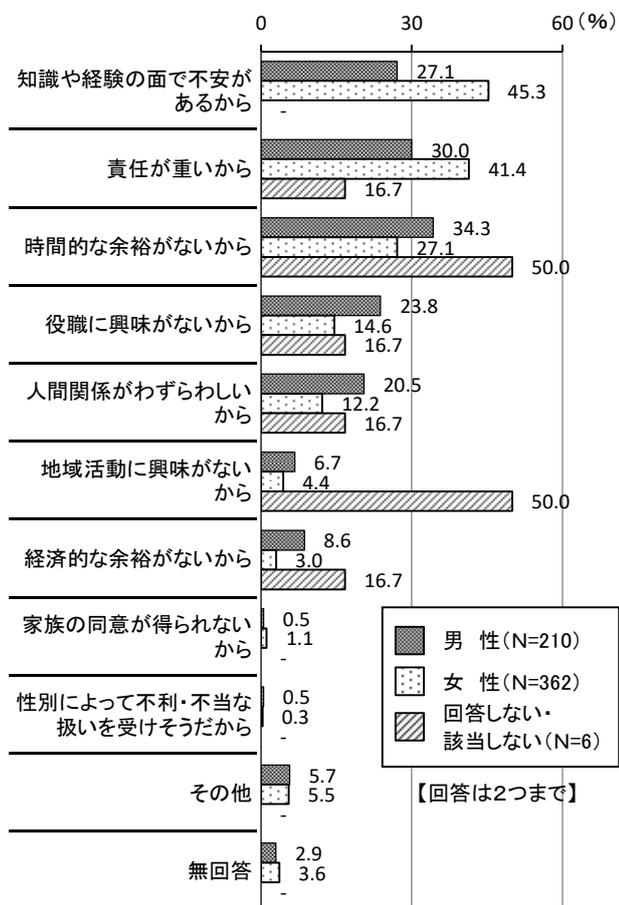
(ウ)自治会長



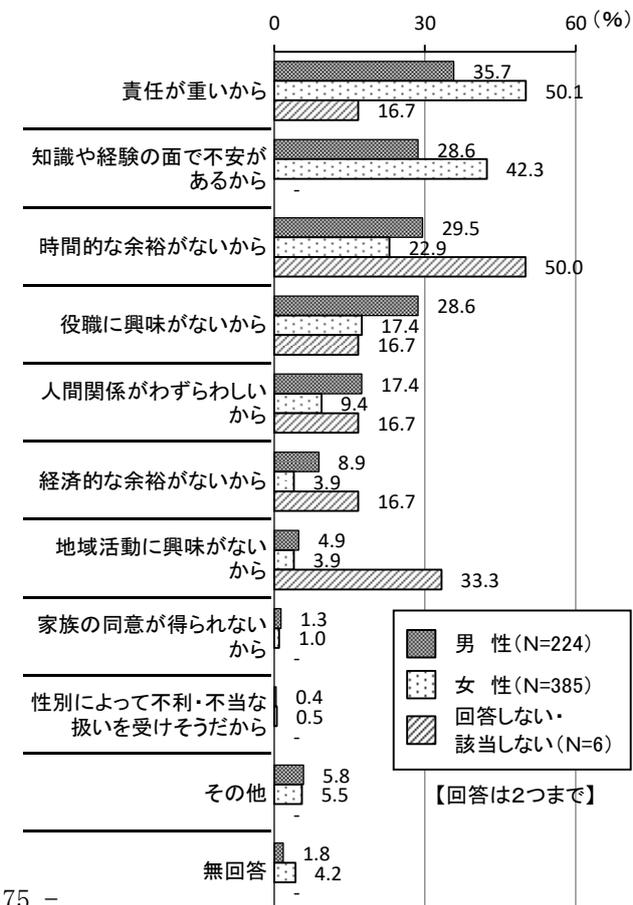
(エ)自治会役員



(オ)県や市の審議会や委員会のメンバー



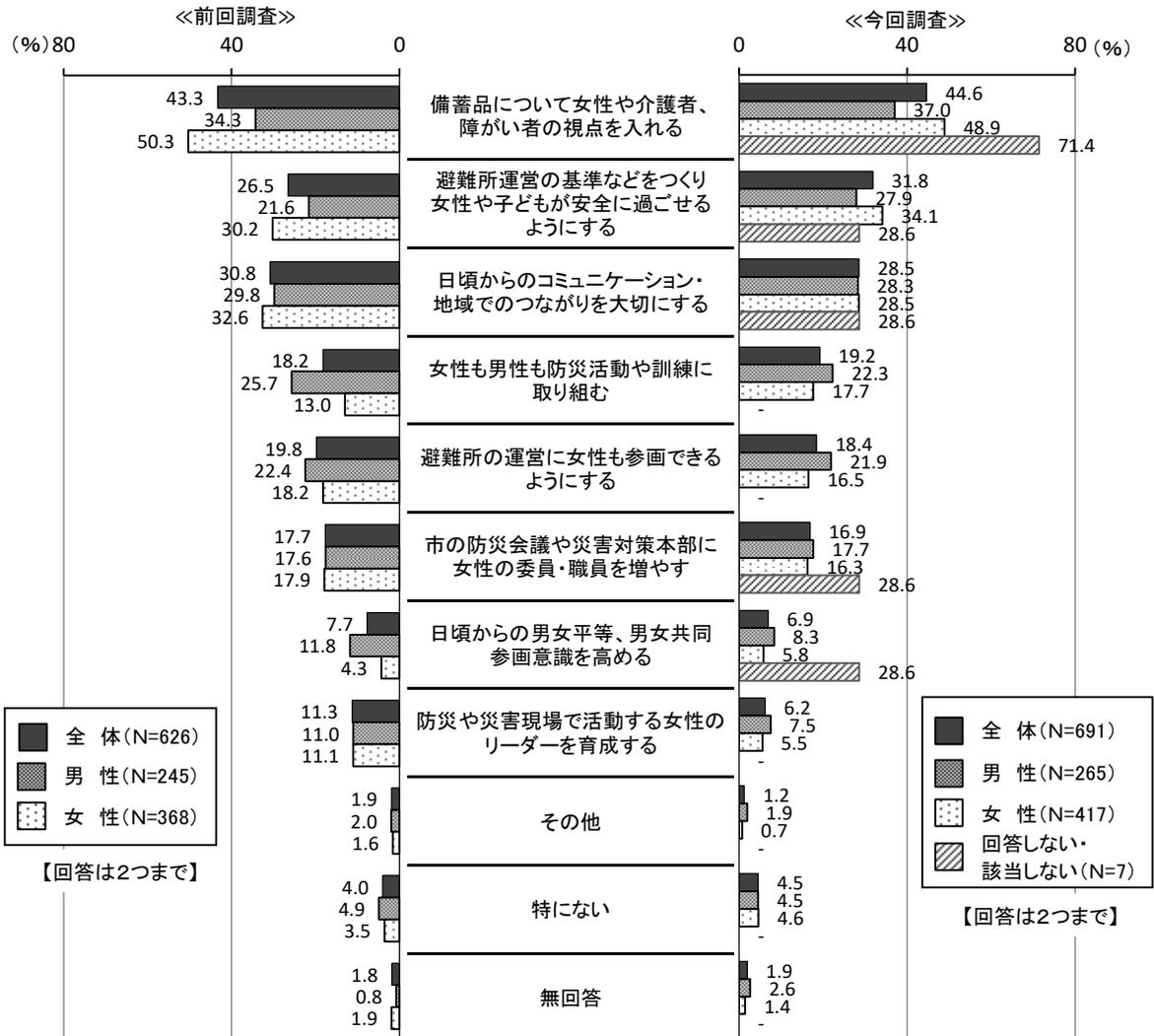
(カ)県・市議会議員



#### 4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

問 15. 九州でも多くの地震や豪雨などの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図表 6-7 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別] (前回調査比較)



災害への備えとして男女共同参画の視点で必要だと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が44.6%で最も高く、次いで「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が31.8%、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が28.5%である。

性別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性が48.9%で男性(37.0%)より11.9ポイント高い。男性は「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(男性22.3%、女性17.7%)や「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(同21.9%、16.5%)などが女性よりも4.6~5.4ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が3.9~6.3ポイント増え、また女性では「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」も4.7ポイント増加している。

年齢別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性の60歳代以下と男性の30歳代で4割台半ばから約5割と高い。また、男性の30歳代では「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も46.2%と高い。「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男性の70歳代以上と女性の60歳代以上で3割台半ばから4割台半ば、「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」は女性の10・20歳代で21.9%、男性の50歳代で25.4%、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」は男性の10・20歳代で40.9%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は男性の10・20歳代と60歳代、女性の30歳代で2割台半ばから約3割と他の年代に比べて高い。

図表6-8 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別]

(%)

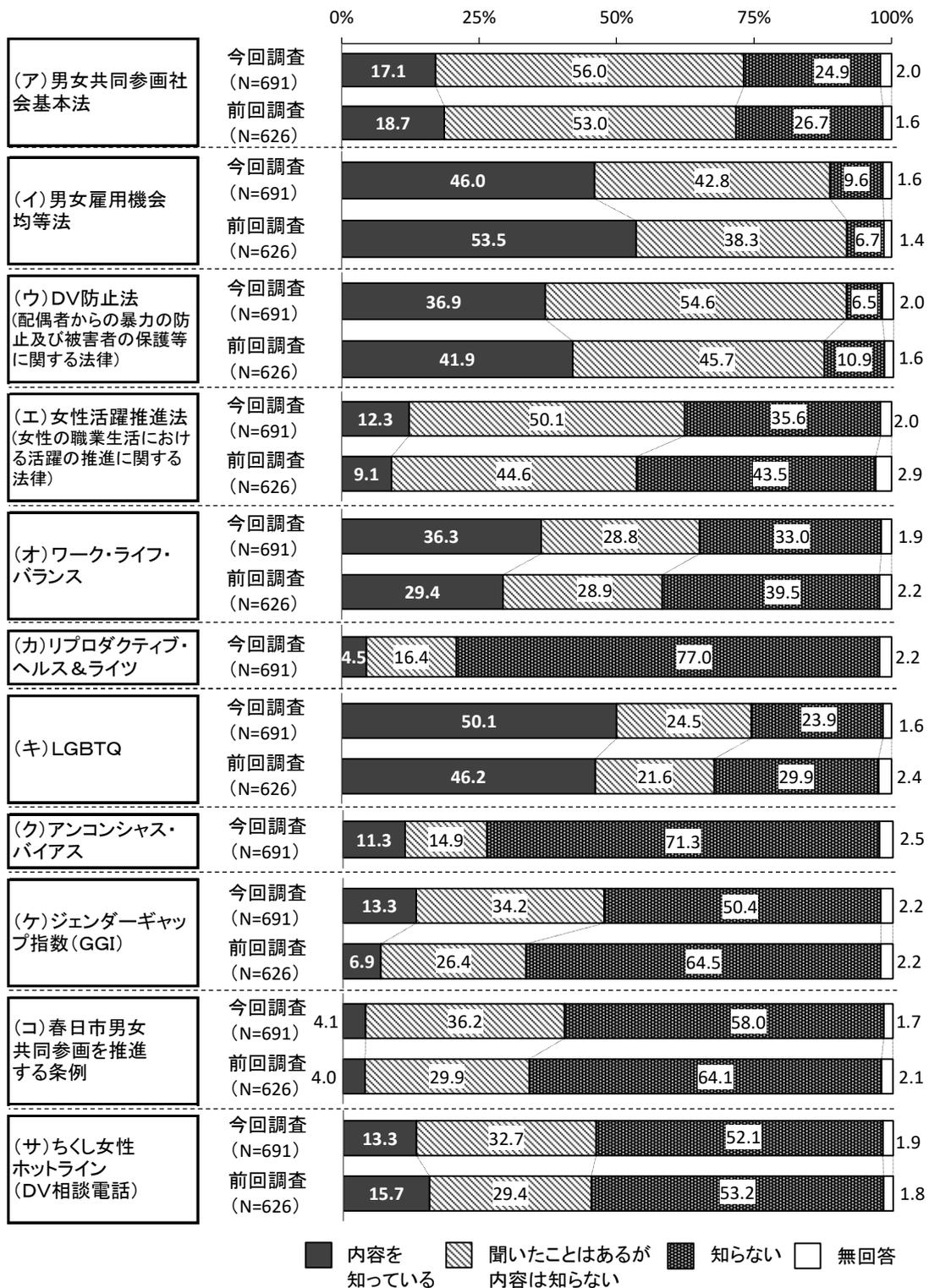
	標本数	や部にす の女性 の委員 ・職員 を増本	市にの 防災会 議や災 害対策 本	で避難 所の運 営に女 性も参 画	練女性 にも男 性も防 災活動 や訓	る者備 蓄品に ついて の視点 を介入 れ護	過ごり 女性や 子ども が安全 につ	避難所 運営の 基準な どを	女性や 災害現 場を育 成動す る	をシヨ ンから の地域 でのつ ながり	日頃か らのコ ミュニ ケーション	共日頃 からの 男女平 等、男 女	その他	特 に な い	無 回 答
全体	691 100.0	117 16.9	127 18.4	133 19.2	308 44.6	220 31.8	43 6.2	197 28.5	48 6.9	8 1.2	31 4.5	13 1.9			
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	40.9	27.3	27.3	22.7	4.5	22.7	4.5	4.5	13.6	-		
	男性:30歳代	26	19.2	19.2	15.4	46.2	46.2	7.7	19.2	3.8	-	3.8	-		
	男性:40歳代	43	14.0	16.3	23.3	37.2	30.2	9.3	20.9	4.7	4.7	4.7	7.0		
	男性:50歳代	67	25.4	22.4	19.4	40.3	28.4	7.5	28.4	4.5	-	6.0	-		
	男性:60歳代	69	15.9	17.4	26.1	37.7	24.6	7.2	29.0	15.9	2.9	2.9	4.3		
	男性:70歳代以上	38	18.4	26.3	21.1	28.9	21.1	7.9	44.7	10.5	-	-	2.6		
	女性:10・20歳代	32	21.9	12.5	12.5	50.0	34.4	3.1	15.6	6.3	3.1	9.4	3.1		
	女性:30歳代	52	17.3	13.5	28.8	48.1	38.5	7.7	23.1	3.8	-	5.8	-		
	女性:40歳代	82	19.5	17.1	18.3	47.6	31.7	7.3	31.7	8.5	-	2.4	-		
	女性:50歳代	105	14.3	16.2	16.2	50.5	36.2	7.6	23.8	6.7	1.0	5.7	1.0		
	女性:60歳代	97	14.4	14.4	14.4	51.5	34.0	2.1	35.1	6.2	1.0	1.0	3.1		
女性:70歳代以上	49	14.3	26.5	18.4	42.9	28.6	4.1	34.7	-	-	8.2	2.0			
回答しない・該当しない	7	28.6	-	-	-	71.4	28.6	-	28.6	28.6	-	-	-		
無回答	2	-	-	-	-	50.0	100.0	-	50.0	-	-	-	-		

# 第7章 男女共同参画に関する施策について

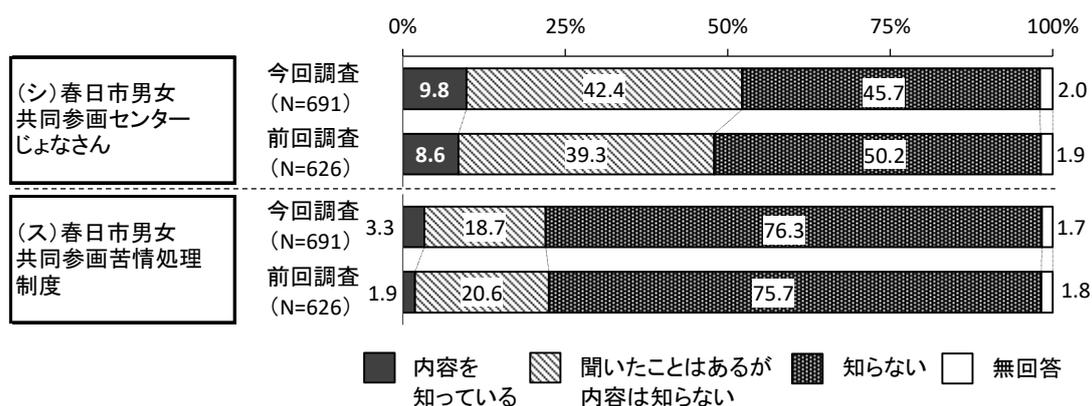
## 1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 16. あなたは、次にあげる（ア）から（ス）の法令や言葉について、どの程度知っていますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

図表 7-1 (1) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体] (前回調査比較)



図表7-1 (2) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体] (前回調査比較)

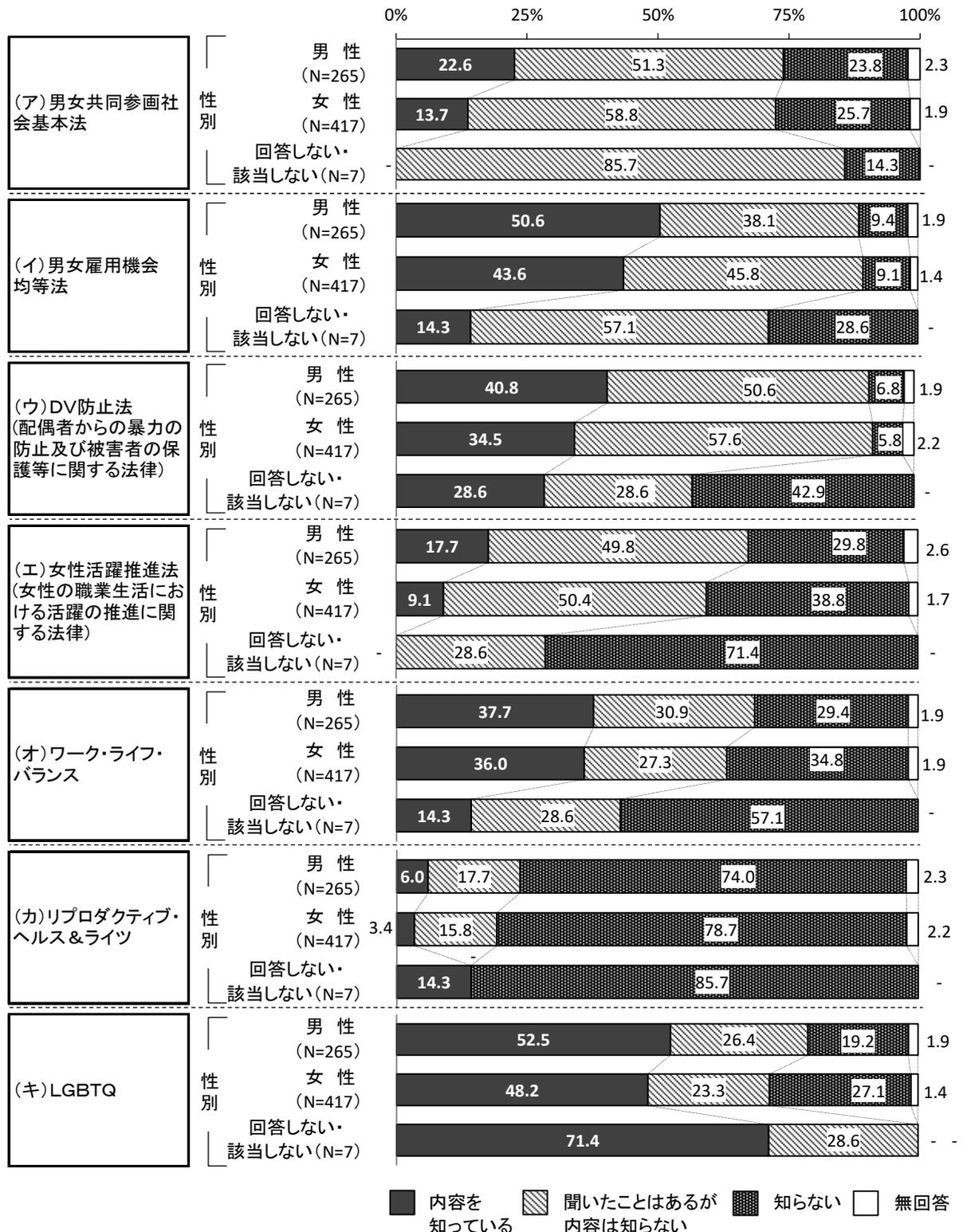


男女共同参画に関する法令や制度、用語についてたずねたところ、「内容を知っている」の割合が高いのは「LGBTQ」(50.1%)と「男女雇用機会均等法」(46.0%)で4割台半ばから約5割である。次いで「DV防止法」(36.9%)、「ワーク・ライフ・バランス」(36.3%)で3割台半ばである。その他の項目に関しては内容まで知っている人は2割に満たず、春日市の施策である「春日市男女共同参画を推進する条例」(4.1%)や「春日市男女共同参画センターじよなさん」(9.8%)、「春日市男女共同参画苦情処理制度」(3.3%)を内容まで知っている人は1割に満たない。

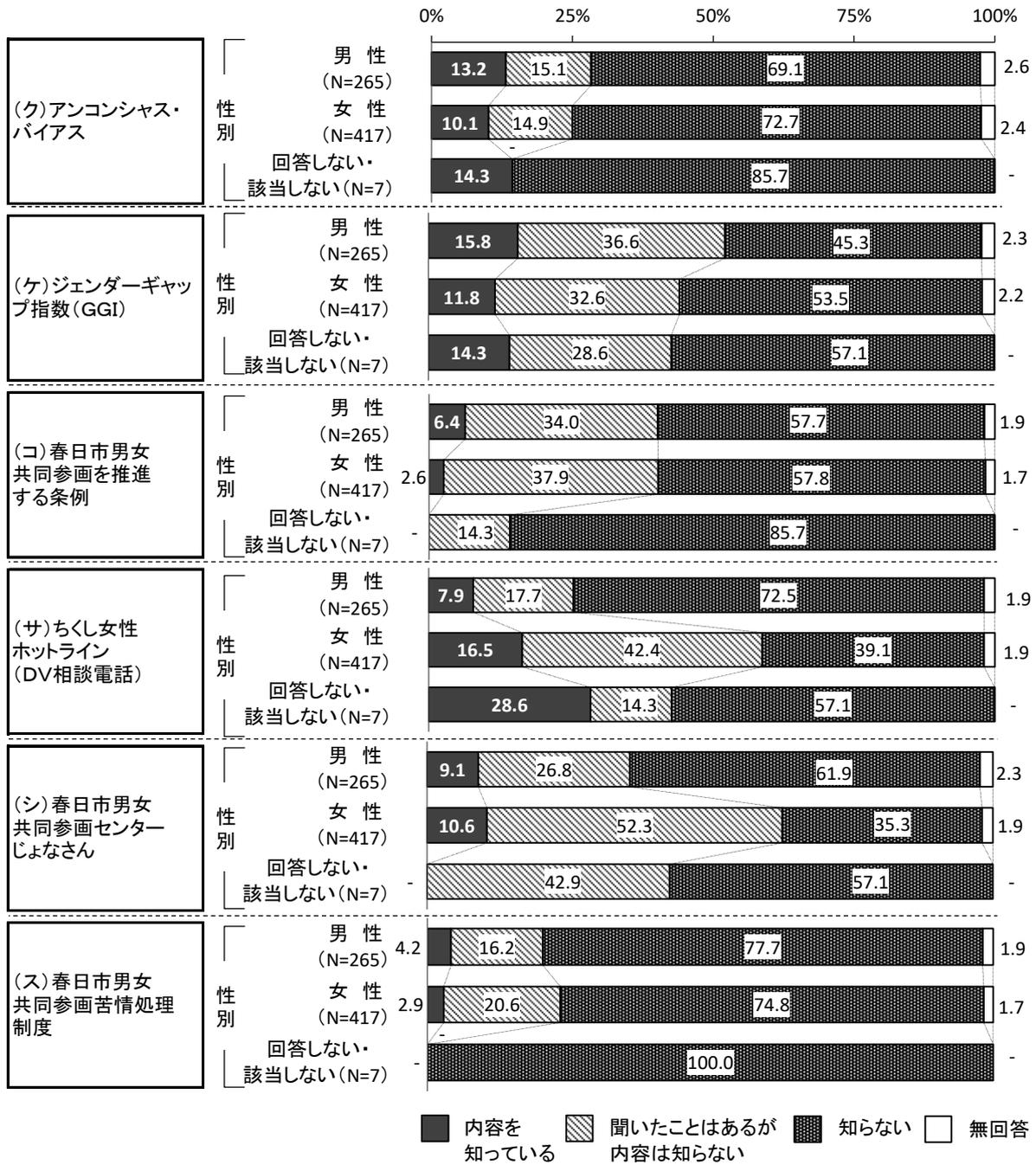
前回調査と比べると、「知らない」の割合が減っている項目が多く、特に「LGBTQ」や「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダーギャップ指数 (GGI)」「女性活躍推進法」などは6~14.1ポイント減少し、「内容を知っている」は3.2~6.9ポイント増加している。その中で「男女雇用機会均等法」や「DV防止法」「ちくし女性ホットライン」などは「内容を知っている」の割合が2.4~7.5ポイント減少し、「聞いたことがあるが内容は知らない」の割合は3.3~8.9ポイント増加している。

性別にみると、ほとんどの項目で男性の方が「内容を知っている」の割合が女性よりも高いが、「ちくし女性ホットライン」や「春日市男女共同参画センターじょなさん」などは女性の方が男性よりも高い。

図表7-2 (1) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体、性別]



図表7-2 (2) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体、性別]



年齢別にみると、「LGBTQ」は男女とも10・20歳代で「内容を知っている」の割合が高く、「男女共同参画社会基本法」「雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」などは女性の10・20歳代の割合が高い。「DV防止法」は男性の30歳代から50歳代と女性の40歳代と50歳代、「女性活躍推進法」は男性の30歳代、「アンコンシャス・バイアス」や「ジェンダーギャップ指数」などは男性の50歳代で「内容を知っている」の割合が他の年齢に比べて高い。「ちくし女性ホットライン」は女性の40歳代で「内容を知っている」が24.4%と比較的高い。

図表7-3(1) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体、年齢別]

		(%)													
		(ア) 男女共同参画社会基本法					(イ) 男女雇用機会均等法					(ウ) DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)			
		標本数	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い こ と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い こ と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	
全 体		691 100.0	118 17.1	387 56.0	172 24.9	14 2.0	318 46.0	296 42.8	66 9.6	11 1.6	255 36.9	377 54.6	45 6.5	14 2.0	
年 齢 別	男性:10・20歳代	22	18.2	59.1	22.7	-	27.3	50.0	22.7	-	18.2	59.1	22.7	-	
	男性:30歳代	26	38.5	42.3	19.2	-	57.7	42.3	-	-	46.2	46.2	7.7	-	
	男性:40歳代	43	11.6	53.5	30.2	4.7	44.2	37.2	14.0	4.7	41.9	44.2	9.3	4.7	
	男性:50歳代	67	28.4	47.8	23.9	-	64.2	29.9	6.0	-	47.8	49.3	3.0	-	
	男性:60歳代	69	20.3	49.3	27.5	2.9	44.9	40.6	11.6	2.9	39.1	50.7	7.2	2.9	
	男性:70歳代以上	38	21.1	60.5	13.2	5.3	52.6	39.5	5.3	2.6	39.5	57.9	-	2.6	
	女性:10・20歳代	32	31.3	53.1	15.6	-	53.1	34.4	12.5	-	34.4	53.1	12.5	-	
	女性:30歳代	52	21.2	53.8	25.0	-	44.2	42.3	13.5	-	34.6	61.5	3.8	-	
	女性:40歳代	82	13.4	58.5	28.0	-	51.2	43.9	4.9	-	42.7	54.9	2.4	-	
	女性:50歳代	105	12.4	62.9	23.8	1.0	49.5	42.9	6.7	1.0	40.0	51.4	6.7	1.9	
女性:60歳代	97	7.2	63.9	24.7	4.1	30.9	56.7	9.3	3.1	23.7	66.0	7.2	3.1		
女性:70歳代以上	49	10.2	49.0	34.7	6.1	36.7	44.9	14.3	4.1	30.6	57.1	4.1	8.2		
回答しない・該当しない	7	-	85.7	14.3	-	14.3	57.1	28.6	-	28.6	28.6	42.9	-		
無回答	2	50.0	-	50.0	-	50.0	-	50.0	-	50.0	50.0	-	-		
		(エ) 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)					(オ) ワーク・ライフ・バランス				(カ) リプロダクティブ・ヘルス&ライツ				
		標本数	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い こ と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い こ と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	
全 体		691 100.0	85 12.3	346 50.1	246 35.6	14 2.0	251 36.3	199 28.8	228 33.0	13 1.9	31 4.5	113 16.4	532 77.0	15 2.2	
年 齢 別	男性:10・20歳代	22	9.1	50.0	40.9	-	45.5	31.8	22.7	-	-	27.3	72.7	-	
	男性:30歳代	26	30.8	46.2	23.1	-	57.7	38.5	3.8	-	15.4	19.2	65.4	-	
	男性:40歳代	43	16.3	51.2	27.9	4.7	48.8	23.3	23.3	4.7	9.3	25.6	60.5	4.7	
	男性:50歳代	67	26.9	49.3	22.4	1.5	41.8	31.3	26.9	-	10.4	14.9	74.6	-	
	男性:60歳代	69	13.0	42.0	40.6	4.3	27.5	27.5	42.0	2.9	1.4	14.5	79.7	4.3	
	男性:70歳代以上	38	7.9	65.8	23.7	2.6	18.4	39.5	39.5	2.6	-	13.2	84.2	2.6	
	女性:10・20歳代	32	12.5	59.4	28.1	-	68.8	12.5	15.6	3.1	9.4	18.8	71.9	-	
	女性:30歳代	52	9.6	53.8	36.5	-	42.3	23.1	34.6	-	5.8	17.3	76.9	-	
	女性:40歳代	82	14.6	48.8	36.6	-	52.4	28.0	19.5	-	2.4	22.0	75.6	-	
	女性:50歳代	105	10.5	51.4	37.1	1.0	41.9	33.3	23.8	1.0	4.8	17.1	76.2	1.9	
女性:60歳代	97	3.1	44.3	49.5	3.1	13.4	26.8	56.7	3.1	1.0	10.3	85.6	3.1		
女性:70歳代以上	49	6.1	53.1	34.7	6.1	12.2	28.6	53.1	6.1	-	10.2	81.6	8.2		
回答しない・該当しない	7	-	28.6	71.4	-	14.3	28.6	57.1	-	14.3	-	85.7	-		
無回答	2	-	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-		

Ⅱ 調査結果 第7章 男女共同参画に関する施策について

図表7-3(2) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知〔全体、年齢別〕

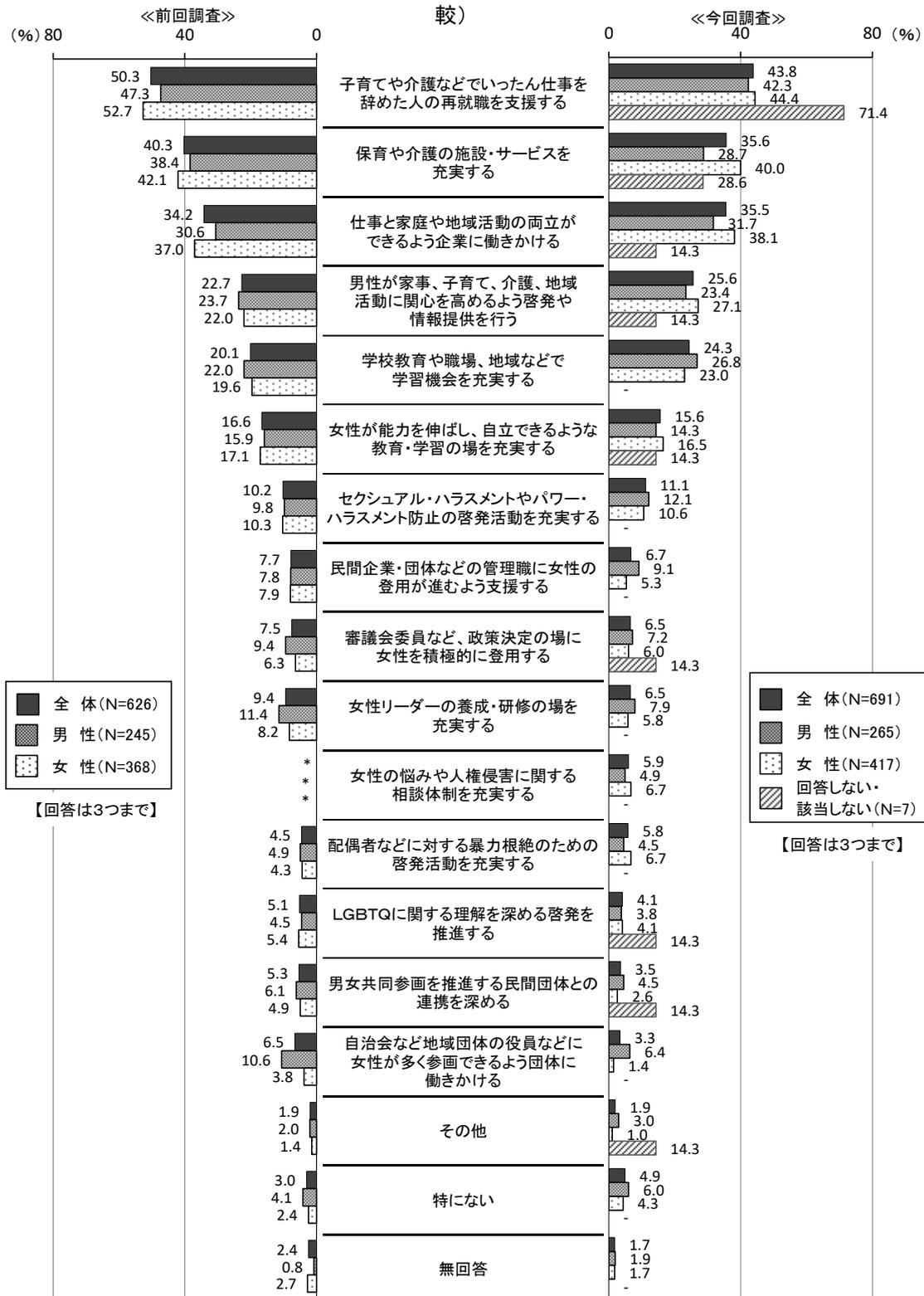
(%)

	標本数	(キ)LGBTQ				(ク)アンコンシャス・バイアス				(ケ)ジェンダーギャップ指数(GGI)				
		い る 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 と は	あ ら な い 内 容 と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	い る 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 と は	あ ら な い 内 容 と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	
全体	691 100.0	346 50.1	169 24.5	165 23.9	11 1.6	78 11.3	103 14.9	493 71.3	17 2.5	92 13.3	236 34.2	348 50.4	15 2.2	
年齢別	男性:10・20歳代	22	63.6	22.7	13.6	-	-	27.3	72.7	-	13.6	31.8	50.0	4.5
	男性:30歳代	26	61.5	23.1	15.4	-	23.1	19.2	57.7	-	23.1	26.9	50.0	-
	男性:40歳代	43	53.5	27.9	14.0	4.7	16.3	18.6	60.5	4.7	20.9	30.2	44.2	4.7
	男性:50歳代	67	58.2	25.4	16.4	-	26.9	7.5	65.7	-	28.4	28.4	43.3	-
	男性:60歳代	69	47.8	26.1	23.2	2.9	4.3	14.5	78.3	2.9	4.3	44.9	47.8	2.9
	男性:70歳代以上	38	36.8	31.6	28.9	2.6	2.6	15.8	73.7	7.9	5.3	52.6	39.5	2.6
	女性:10・20歳代	32	84.4	6.3	9.4	-	12.5	12.5	75.0	-	12.5	18.8	65.6	3.1
	女性:30歳代	52	59.6	25.0	15.4	-	11.5	19.2	69.2	-	9.6	32.7	57.7	-
	女性:40歳代	82	59.8	24.4	15.9	-	9.8	20.7	69.5	-	17.1	24.4	58.5	-
	女性:50歳代	105	54.3	21.9	22.9	1.0	17.1	15.2	66.7	1.0	11.4	45.7	41.0	1.9
女性:60歳代	97	26.8	25.8	44.3	3.1	6.2	12.4	77.3	4.1	6.2	34.0	56.7	3.1	
女性:70歳代以上	49	22.4	28.6	44.9	4.1	-	6.1	83.7	10.2	16.3	24.5	53.1	6.1	
回答しない・該当しない	7	71.4	28.6	-	-	14.3	-	85.7	-	14.3	28.6	57.1	-	
無回答	2	50.0	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	
	標本数	(コ)春日市男女共同参画を推進する条例				(サ)ちくし女性ホットライン(DV相談電話)				(シ)春日市男女共同参画センター じよなさん				
		い る 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 と は	あ ら な い 内 容 と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	い る 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 と は	あ ら な い 内 容 と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答	
全体	691 100.0	28 4.1	250 36.2	401 58.0	12 1.7	92 13.3	226 32.7	360 52.1	13 1.9	68 9.8	293 42.4	316 45.7	14 2.0	
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	22.7	77.3	-	13.6	13.6	72.7	-	-	27.3	72.7	-
	男性:30歳代	26	11.5	38.5	50.0	-	11.5	19.2	69.2	-	15.4	19.2	65.4	-
	男性:40歳代	43	4.7	34.9	55.8	4.7	4.7	27.9	62.8	4.7	7.0	32.6	55.8	4.7
	男性:50歳代	67	9.0	38.8	52.2	-	11.9	16.4	71.6	-	11.9	22.4	64.2	1.5
	男性:60歳代	69	4.3	30.4	62.3	2.9	2.9	15.9	78.3	2.9	7.2	30.4	59.4	2.9
	男性:70歳代以上	38	7.9	34.2	55.3	2.6	7.9	13.2	76.3	2.6	10.5	26.3	60.5	2.6
	女性:10・20歳代	32	-	28.1	71.9	-	3.1	46.9	50.0	-	-	40.6	59.4	-
	女性:30歳代	52	3.8	32.7	63.5	-	17.3	36.5	46.2	-	5.8	53.8	38.5	1.9
	女性:40歳代	82	3.7	31.7	64.6	-	24.4	46.3	29.3	-	12.2	58.5	29.3	-
	女性:50歳代	105	3.8	43.8	51.4	1.0	19.0	43.8	36.2	1.0	16.2	52.4	30.5	1.0
女性:60歳代	97	1.0	40.2	55.7	3.1	10.3	45.4	41.2	3.1	7.2	57.7	32.0	3.1	
女性:70歳代以上	49	2.0	42.9	49.0	6.1	18.4	30.6	42.9	8.2	14.3	36.7	42.9	6.1	
回答しない・該当しない	7	-	14.3	85.7	-	28.6	14.3	57.1	-	-	42.9	57.1	-	
無回答	2	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	
	標本数	(ス)春日市男女共同参画苦情処理制度												
		い る 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 と は	あ ら な い 内 容 と は	聞 か れ た こ と は	知 ら な い	無 回 答							
全体	691 100.0	23 3.3	129 18.7	527 76.3	12 1.7									
年齢別	男性:10・20歳代	22	-	9.1	90.9	-								
	男性:30歳代	26	3.8	19.2	76.9	-								
	男性:40歳代	43	4.7	20.9	69.8	4.7								
	男性:50歳代	67	6.0	13.4	80.6	-								
	男性:60歳代	69	2.9	15.9	78.3	2.9								
	男性:70歳代以上	38	5.3	18.4	73.7	2.6								
	女性:10・20歳代	32	-	18.8	81.3	-								
	女性:30歳代	52	3.8	11.5	84.6	-								
	女性:40歳代	82	3.7	20.7	75.6	-								
	女性:50歳代	105	2.9	21.0	75.2	1.0								
女性:60歳代	97	1.0	27.8	68.0	3.1									
女性:70歳代以上	49	6.1	16.3	71.4	6.1									
回答しない・該当しない	7	-	-	100.0	-									
無回答	2	-	-	100.0	-									

## 2. 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ

問 17. 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図表 7-4 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ [全体、性別] (前回調査比)



\*前回調査ではなかった項目

男女共同参画社会を実現するために力を入れるべきと思うことをたずねたところ、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が43.8%で最も高い。次いで「保育や介護の施設・サービスを充実する」(35.6%)と「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(35.5%)が3割台半ば、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」(25.6%)と「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」(24.3%)が2割台半ばである。

性別にみると、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(男性42.3%、女性44.4%)は男女とも同程度の割合である。女性は「保育や介護の施設・サービスを充実する」(同28.7%、40.0%)、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(同31.7%、38.1%)、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」(同23.4%、27.1%)などが男性よりも3.7~11.3ポイント高い。

前回調査と比べると、全体に割合が減っている項目が多いが、あまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、男性の30歳代で「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」で57.7%と最も高い。また、「保育や介護の施設・サービスを充実する」は男性の30歳代と女性の60歳代で5割台、「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」は男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代と40歳代で約3割と高い。「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」は男性の60歳代、女性の30歳代と40歳代で約4割、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」は男性の10・20歳代と40歳代、女性の40歳代と60歳代以上、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」は女性の40歳代で26.8%と他の年齢に比べて高い。

図表7-5 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ [全体、年齢別]

																			(%)	
		標本数	学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	保育や介護の施設・サービスを充実する	仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	自治会など地域団体の役員などに女性が多く参画できるように働きかける	審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	女性リーダーの養成・研修の場を充実する	配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する	女性の悩みや人権侵害に関する相談体制を充実する	ハラスメント防止の啓発活動を充実する	男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める	LGBTQに関する理解を深める啓発を推進する	その他	特になし	無回答
全体		691 100.0	168 24.3	108 15.6	177 25.6	303 43.8	246 35.6	245 35.5	46 6.7	23 3.3	45 6.5	45 6.5	40 5.8	41 5.9	77 11.1	24 3.5	28 4.1	13 1.9	34 4.9	12 1.7
年齢別	男性:10・20歳代	22	22.7	9.1	31.8	36.4	22.7	31.8	-	-	4.5	4.5	9.1	-	-	4.5	4.5	-	27.3	-
	男性:30歳代	26	30.8	19.2	23.1	57.7	50.0	38.5	15.4	-	3.8	-	-	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	-
	男性:40歳代	43	25.6	20.9	32.6	37.2	20.9	23.3	9.3	2.3	2.3	4.7	7.0	4.7	2.3	4.7	7.0	7.0	4.7	4.7
	男性:50歳代	67	29.9	19.4	25.4	41.8	23.9	23.9	11.9	6.0	11.9	10.4	6.0	7.5	16.4	4.5	1.5	4.5	1.5	-
	男性:60歳代	69	27.5	7.2	17.4	39.1	24.6	42.0	10.1	5.8	4.3	11.6	4.3	4.3	20.3	4.3	4.3	1.4	5.8	2.9
	男性:70歳代以上	38	21.1	10.5	15.8	47.4	42.1	31.6	2.6	21.1	13.2	7.9	-	5.3	13.2	2.6	2.6	-	5.3	2.6
	女性:10・20歳代	32	15.6	21.9	15.6	46.9	21.9	34.4	6.3	-	9.4	12.5	6.3	6.3	6.3	3.1	15.6	3.1	9.4	-
	女性:30歳代	52	30.8	17.3	21.2	48.1	36.5	40.4	-	1.9	9.6	5.8	3.8	7.7	11.5	-	3.8	3.8	5.8	-
	女性:40歳代	82	28.0	26.8	31.7	42.7	35.4	41.5	9.8	1.2	1.2	12.2	4.9	3.7	8.5	2.4	3.7	1.2	2.4	-
	女性:50歳代	105	23.8	13.3	21.9	49.5	40.0	39.0	6.7	1.9	8.6	3.8	8.6	6.7	12.4	2.9	2.9	-	3.8	1.9
	女性:60歳代	97	18.6	10.3	30.9	40.2	54.6	39.2	-	1.0	3.1	1.0	6.2	9.3	8.2	3.1	4.1	-	3.1	3.1
女性:70歳代以上	49	18.4	14.3	36.7	38.8	34.7	28.6	10.2	2.0	8.2	4.1	10.2	6.1	16.3	4.1	-	-	6.1	4.1	
回答しない・該当しない	7	-	14.3	14.3	71.4	28.6	14.3	-	-	14.3	-	-	-	-	14.3	14.3	14.3	-	-	
無回答	2	50.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	

## 調査結果のまとめ

### はじめに

本調査は、「第4次春日市男女共同参画プラン」に基づき実施されてきた春日市の取り組みについてその成果を検証し、また現状を把握することで次のプランの策定に反映させることを目的として実施した。春日市においては、これまでも同様の調査を継続しており、直近では令和元年に実施している。

よって、前回の調査と比較することで、この5年間の市民の意識の変化を把握し、さらに国による同様の調査との比較も行うことで、春日市の現状を多角的に検証することとした。

ここでは、総括として各章の結果の要点を整理し、男女共同参画社会の実現に向けての今後の課題を提案する。

### 1. 男女平等に関する意識について

「男は仕事、女は家庭」といういわゆる性別役割分担については、『同感しない』は女性では約8割、男性は約7割に上った。前回調査に比べて『同感しない』の割合が増加しており、特に女性では約13ポイント増加した。性別役割分担を支持しない割合は、男女共同参画の進捗状況を検証するための主要な指標である。国の調査結果より、本調査の方が『同感しない』割合は高く、春日市の男女共同参画は全国的には進んでいると言える。ただし、年齢別にみると30歳代では、男性は『同感しない』が9割を超えて最も高いが、女性は6割台と最も低く、『同感』するが3割台半ばと女性の中では高いなど、子育て世代において対照的な結果をみせている。

社会における様々な分野での男女の地位の平等感についてたずねた。「学校教育」では「平等である」が約5割あったが、他の分野では平等は『男性優遇』を大きく下回っている。特に、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」では『男性優遇』が約8割と高く、「社会全体」でも『男性優遇』が7割を超え、他の分野でも5割を超えていた。また、すべての分野で女性は男性よりも『男性優遇』の割合が高い。女性が男性よりも各分野の『男性優遇』を認識している傾向は、前回調査と同様である。特に、「家庭生活」を既婚者だけでみると、女性の『男性優遇』は男性を約30ポイント上回っており、結婚している場合、家庭における平等への認識は男女で大きく違っている。また、「地域活動・社会活動」では、女性の40歳代以上で『男性優遇』が約6割から7割と高く、同じ年代の男性より10ポイント以上上回っており、地域活動に関わる年代で男女の認識の違いが大きい。

春日市においては固定的性別役割分担意識の解消は進んできているが、そのため現状をみる目は厳しくなっており、家庭や地域などの生活の場では不平等がより認識されているとも考えられる。

### 2. 子どもの育て方・教育について

男女共同参画を進めるために学校教育で必要な取り組みとして、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず無く能力を活かせるよう配慮すること」が上位3項目であった。女性では前回調査から項目の順位に大きな変化はないが、比率は減少しているか同程度の項目が多い。その中で、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」がやや増加し、性教育の重要性の認識は女性において高まってきていることがうかがえる。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は男性の30歳代で約6割と高いが、女性の30

歳代以下では3割台と低く、職業教育の必要性は年齢の低い層では男性の方が強く認識している。

### 3. 家庭生活について

配偶者・パートナーと同居している人の家庭内での役割分担についてみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は約7割から7割台半ばの男性が担い、「炊事、洗濯、食事の支度などの家事をする」は約7割から8割の女性が担っている。前回調査と比較しても大きな違いはなく、依然として家計維持は夫中心、家事は妻中心という性別役割分担が残っていることがうかがえる。共働き家庭でみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」の「自分・パートナー同程度」は男女とも3割前後だが、「炊事、洗濯、食事の支度などの家事をする」は男女とも2割前後で、女性の家計維持負担よりも男性の家事負担は低い。共働きでも家事が女性に偏る傾向がうかがえる。パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしいこと」として、女性では「炊事、洗濯、食事の支度などの家事をする」が最も高く約5割に上った。

「育児、子どものしつけをする」の「自分・パートナー同程度」を未就学児から中学生までの子どもを持つ場合でみると、「自分・パートナー同程度」は男性では4割台半ばから5割台半ばと高いが、女性は約10ポイント前後下回り、子育てに男性が関わっているという認識は男性では高いが、女性はそれほど高くなく認識に違いがある。

1節では性別役割分担意識がかなり解消されてきた状況が確認されたが、行動としての家計維持と家事や育児の性別役割分担は大きく変化していない。また、既婚者では「家庭生活」での『男性優遇』の割合は女性が男性を大きく上回っていたが、その大きな要因は家事分担が女性に偏っている現状にあると推測される。今後は意識面の変化を行動面での変化に、いかにつなげていくかが課題であるが、そのためには、男性の労働時間の縮減も求められよう。

### 4. 職業や仕事について

女性が職業をもつことについて、「ずっと職業をもっている方がよい」という「就労継続」の支持が6割台半ばで最も高く、「子どもができたなら職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」という「就労中断・再就職」を支持する人が2割台半ばであり、女性が職業をもつことが望ましいと考えている人が大半となっていた。前回調査と比べて、「就労継続」が約20ポイント増加しており、「就労中断・再就職」は男性では約20ポイント、女性では約15ポイント減少し、結婚や出産を経ても女性は就労を中断しない方がよいと考える人が男女ともにこの5年間で増加していた。しかし、「就労中断・再就職」への支持は30歳代以下では女性の方が男性よりやや高く、子育て期の女性では、「就労継続」は難しいと考えられていることがうかがえる。

女性の「就労継続」を支持しない人の理由としては、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」という回答割合が高い。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は女性では3割を超え男性よりも約12ポイント高く、「保育や介護などの施設が整ってないから」は前回調査よりも約9ポイント低い。就労中断を支持する女性にとっては、現状の両立制度だけでは女性の就労継続が難しい点や職場の雰囲気が課題であることがうかがえる。一方で、両立支援のための施設については整備が進んでいるという認識もあり、この5年間の一つの成果といえる。

女性の「就労継続」を支持する人に、その場合どのような働き方がよいかをたずねた。男性では「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が5割を超えて高く、女性より約18ポイント高い。女性は「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が約4割と最も高く、男性を約21ポイント上回る。男性ではフルタイム継続志向が、女性ではフルタイム中断志向がそれぞれに高く、この傾向は今回調査の方が前回調査よりも高い。また、フルタイム中断志向は、未婚者で高く、未婚者の想定では結婚や出産後もフルタイムで就労継続することは困難と考える傾向がうかがえる。

以上、両立支援制度だけでは不十分と考えて就労中断を望む女性も多く、3節でみたように共働き家庭では家事、子育ての役割が女性に偏る傾向がうかがえた。これらのことから、女性のフルタイムでの就労継続を支持する男性が多いとしても、家事分担の女性への偏りが改善されなければ、フルタイムで夫とともに家計を担えるような働き方は困難であると感じる女性が多い状況は続くといえる。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望と現実をたずねた。希望では『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性が約4割で女性よりも約9ポイント高い。女性の30歳代では『家庭生活』を優先の希望が約4割と他の年齢より高い。子育て世代の女性では、家庭生活優先を望む人は多い。共働きでない女性では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先の希望は高く『家庭生活』を優先を約10ポイント上回っており、働いていないとしても仕事と家庭が両立した生活を望む女性が多い。現実の生活での優先度については、男性では『仕事』を優先が50歳代までは約4割から5割を占め、希望との違いが大きい。希望では、仕事と家庭が両立できた生活、現実では、女性は家庭中心、男性は仕事中心の割合が高くなっており、バランスの取れた生活が求められていることがわかる。

男性が育児休業や介護休業をとることについては、育児休業、介護休業のいずれも『賛成』が男女とも8割台半ばから9割と高い。年齢別にみると、いずれの年齢も『賛成』が多数を占めているものの、男性の40歳代と60歳代で育児休業取得の『賛成』が他の年齢より低い。この年代の男性には職場において管理的立場にある人も多いと思われ、課題といえる。

全国的には男性の約7割が育児休業を取得していない状況にあり、その理由についてたずねた。「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は、男女とも最も高いが、女性は約6割で男性を約13ポイント上回っており、特に女性の会社員の場合は6割台半ばと高い。女性の就労継続が困難な理由でも女性では職場の雰囲気を上げる人は多かった。女性にとっては職場の雰囲気が課題と考える傾向がうかがえる。「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」も男女とも高く、男性では70歳代以上、会社員で高くなっていた。また、「仕事が忙しいから」は男性で約2割と女性を8ポイント上回り、特にパートナーが出産を迎えるであろうと思われる30歳代では42.3%と他の年齢よりも高くなっていた。

今後、男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が男女とも最も高いが、女性では「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」など意識上の性別役割分担解消を求める項目で男性の割合を上回っていた。男性は「労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が女性よりも高い。

性別に関わらず仕事と家庭のバランスの取れた生活が求められている。そのためには、意識を醸成

する一般的な啓発や情報提供とともに、育児休業や介護休業の取得促進や労働時間縮減に向けて管理職や経営者対象の意識啓発が重要である。

## 5. 暴力などの人権侵害について

妊娠や性についての考え方として、「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」については、『思う』が男女とも9割台半ばと高くなっていた。一方、「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」については、『思う』は7割台半ばであった。妊娠や出産の可能性は女性しかなく、女性の性的自己決定権は、人権として尊重されなければならない。「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」は、男性の10・20歳代、30歳代で「わからない」が他の年齢より高く、若い世代に向けた「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖による健康/権利）」についての啓発の必要性が示唆された。

ドメスティック・バイオレンス（DV）にあたる行為を暴力と認識しているかをたずねた。「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高かったのは、身体暴力である「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」「刃物などを突きつけて、おどす」は100%近くあり、その他の身体暴力も9割前後と高かった。また、性暴力である「性的な画像を送るよう強要する」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は9割を超え、その他の性的暴力も約9割と高かった。「必要な生活費を渡さない」などの経済的暴力は8割台半ばあった。これらの暴力は前回調査よりも、暴力であるという認識は高まっている。一方で、精神的暴力の「大声でどなる」、社会的暴力の「外出を制限する」は6割台半ばで、全体的に前回調査よりもやや低く、さらに、社会的暴力では男性の割合は女性を下回っていた。精神的暴力や社会的暴力がDVであるという認識が低いことは課題である。身体暴力や性暴力でなくてもDVにあたる行為があることを正しく認識できるよう、年齢の低い層への教育とともに市民対象の啓発をより推進する必要がある。

この3年ぐらいの間の実際の被害経験をたずねた。配偶者・パートナー、恋人から身体的暴力、性的暴力、身体的暴力のいずれかについて、女性の14.6%、男性の8.3%が受けていた。精神的暴力は男性の30歳から50歳代で、経済的暴力は女性の50歳代以上で、性的暴力は女性の30歳代と40歳代でやや高く、性や年齢で暴力の種類は異なる傾向がうかがえる。DVを受けた際の対応としては、女性では「友人・知人に相談した」が約3割、次いで「配偶者・パートナー・恋人と別居、離婚又は交際解消した」が高く、男性では「何もしていない」は約8割と高くなっていた。何もしていない理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が約半数を占め、男性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」も半数と女性よりも高い。女性では「相談してもむだだと思ったから」が3割台半ばで男性よりも高く、相談することをあきらめてしまっている女性が多い状況がうかがえる。また、「相談窓口（来所・電話）に相談した」の実数は少ないが、その人たちが相談窓口を知った媒体については、「カードやパンフレット」と「インターネット」であった。大声でどなるなどの精神的暴力や束縛などの社会的暴力に対してはDVという認識が低かったことから、身近な人から相談を受けた場合に適切に対応できるよう市民全体にDVについての啓発を進める必要がある。また、被害を受けた際に相談する重要性についての啓発も求められ、これらとともに、行政の相談窓口のさらなる周知が望まれる。

## 6. 地域活動について

地域づくりに関わる活動への参加状況については、「特に参加していない」が男女とも6割を超え、前回調査と比べ女性はやや高く、反対に男性はやや低くなっているが、女性は「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」や「社会奉仕やボランティア活動（登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など）」への参加が男性より多く、女性の方が地域活動参加は進んでいる状況がうかがえる。「自治会や町内会での活動」への参加が最も高く、男性では40歳代と70歳代以上で高くなっていた。「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」は女性の40歳代で約3割半ばと高く、30歳代でも約2割あり、小中学校の子どもを持つ年代の女性ではPTA活動等への参加率が高い。

PTA及び自治会長など地域の役職、県・市町村の審議会委員及び議員など政策に関わる役職について、立候補を依頼された場合の対応をたずねた。『引き受ける』は、ほとんどの役職で男性が女性を上回った。しかし、「PTA役員・子ども会育成会役員」では女性が男性を上回り、「自治会役員」では男女の差は小さく、特に、女性の30歳代を中心に年齢の低い層で地域の役員への参画意識は高い傾向があった。とはいえ、女性は「自治会長」が約5ポイントにとどまり最も低い項目であった。女性では、地域の役員は引き受けても会長となると困難度が上がることがわかる。また、男性では30歳代を中心に年齢の低い層で、地域の会長及び役員、審議会メンバーや議員において『引き受ける』が高い。男女とも年齢の低い層では決定の場への参画意欲は高いといえる。

役職を断る理由については、女性は「PTA役員・子ども会育成会役員」について「時間的余裕がないから」が約6割と高い。女性では「知識や経験の面で不安があるから」が、いずれの役職や公職でも女性の方が男性よりも割合が高かった。地域や職場の活性化や課題解決のためには、性別や年齢に関わらず多様な人が活動や意思決定に参画することが重要である。知識や経験に不安を覚える女性の積極的な参画を促進するためには、役員から段階的に経験を積み上げて会長へ推薦という道筋をつけていくことが求められ、中長期的な取り組みが求められる。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なことについて、男女とも1位は「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」で、女性は男性を約12ポイント上回り、女性では多様な立場の人への配慮を重視している。女性では「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が2位で男性を上回っていた。その他の上位の項目は「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」で、男女とも約3割あった。また、男性では「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」「避難所の運営に女性も参画できるようにする」などが女性より高く、男性は防災の場での女性の参画促進を求める傾向がうかがえる。

男女共同参画の視点からの地域の災害対応については、いざ災害が発生したときに性別に関わらず意思決定に関わることができるよう、平時からの男女共同参画の重要性について、特に決定の場の女性参画促進について啓発を行うことが必要である。

## 7. 男女共同参画に関する施策について

男女共同参画に関する法令や言葉については、「LGBTQ」「男女雇用機会均等法」「DV防止法」「ワーク・ライフ・バランス」の順に「内容を知っている」が高かった。前回調査に比べ、「知らない」の割合が減っている項目が多く、特に「ジェンダーギャップ指数（GGI）」「女性活躍推進法」などは減っており、全体的に男女共同参画に関わる法令や言葉の認知度は高まっている。この5年の啓発

の成果といえよう。一方で、春日市の施策である「春日市男女共同参画を推進する条例」「春日市男女共同参画苦情処理制度」「春日市男女共同参画センターじよなさん」「ちくし女性ホットライン」などは言葉の認知度は前回よりも高いものの伸び率は低い。条例の理念や市の施策については市民の理解をいっそう深めるために、市報やSNSなどの媒体を活用して周知を図る必要がある。

男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきこととしては、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が男女とも4割を超え最も高く、特に男性の30歳代では6割近くあった。次いで「保育や介護の施設・サービスを充実する」は男性の30歳代と女性の60歳代で5割台と高く、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」は男性の60歳代、女性の30歳代と40歳代で約4割、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」は男性の10・20歳代と40歳代、女性の40歳代と60歳代以上で約3割から3割台半ば、「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」は男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代と40歳代で約3割と高い。

以上、男性の30歳代は、1節や2節でみたように性別役割分担に『同感しない』人が多く、学校教育に職業教育を行うことを求めるとともに、行政の施策に対しても女性の再就労支援策を求めており、女性の就労促進への志向が高いことがうかがえる。一方で、女性の30歳代では性別役割分担に『同感』する人が多く、子育て世代の女性には、就労促進を負担に感じている場合もあることが推測される。また、男女とも両立支援施設・サービスの充実や仕事と家庭との両立のための企業への働きかけが60歳代以上の年齢の高い層で求められており、これまでの経験から両立支援の重要性への認識があると思われる。今後は、男女が共に仕事にも家事や育児にも関わられるような環境整備がいっそう重要となり、両立支援を企業に働きかけつつ、男性の家庭参画や地域参画を促進するさらなる意識啓発が企業や家庭、地域、学校など広く求められる。

# 男女共同参画に関する市民意識調査のお願い

## 調査主体：春日市

市民の皆様には、日ごろから市政へのご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、春日市では「男女共同参画社会を実現させ、全ての人が性別に関わりなく個人として尊重され、住みよさを実感できるまち」を基本理念とした「第4次春日市男女共同参画推進プラン（計画期間：令和3年度から令和7年度）」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けてさまざまな施策に取り組んでいるところです。

令和7年度は計画の最終年度であり、その見直しに当たり、市民の皆様のご意見を施策に活かすために、このたび「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することといたしました。

つきましては、お忙しい中、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 回答にあたってのお願い

1. 必ずご本人（あて名の方）がお答えください。ただし、ご本人による記入が困難な場合は、代筆でも結構です。
2. お答えはあなたの考えに最も近い番号を、設問ごとに指定の数に合わせて○をつけてください。（[例]「○は3つまで」といった場合、○印は1つでも2つでも結構です。）
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、（具体的に： ）内に内容をご記入ください。
4. ご記入済の調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**11月8日（金）**までに投函してください。（あなたのお名前やご住所の記入は不要です。）
5. インターネットで回答される方は、横のQRコードまたはURLにアクセスし、回答をお願いいたします。  
<https://questant.jp/q/kasuga24>
6. 調査票の郵送もしくはインターネットでのオンライン回答のどちらかで回答してください。



※ この調査は、住民基本台帳から無作為に抽出させていただいた市内にお住まいの18歳以上の市民2,000人を対象に実施するものです。

※ お答えいただいた内容は、集計結果として公表することはありますが、すべて数値に置き換え、統計的に処理しますので、個人が特定されるなどによりご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。また、ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には一切使用いたしません。

### ◆問い合わせ先◆

春日市 地域共生部 人権男女共同参画課

〒816-0806 春日市光町1丁目73番地 春日市男女共同参画センター じよなさん

電話：092-584-1201 FAX：092-584-1181 E-mail：[jyonasan@city.kasuga.fukuoka.jp](mailto:jyonasan@city.kasuga.fukuoka.jp)

あなたやあなたの家族について

F 1. あなたの性別をお知らせください。(〇は1つだけ)

1. 男性                      2. 女性                      3. 回答しない・該当しない

F 2. あなたの年齢をお知らせください。(〇は1つだけ)

1. 18・19歳                      5. 50歳代  
2. 20歳代                      6. 60歳代  
3. 30歳代                      7. 70歳代以上  
4. 40歳代

F 3. あなたは結婚されていますか (〇は1つだけ)

※パートナーとは、事実婚を含む

1. 配偶者・パートナーがいる (共働きである)  
2. 配偶者・パートナーがいる (共働きでない)  
3. 配偶者・パートナーはいない (離別)  
4. 配偶者・パートナーはいない (死別)  
5. 結婚したことがない

F 4. あなたにお子さんはいいますか。(〇は1つだけ)

1. いる                      2. いない

↓  
【F 4で「お子さんがいる」と回答した方におたずねします。】

付問 一番下のお子さんの年齢は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 未就学児                      3. 高校生以上の生徒・学生  
2. 小学生・中学生                      4. 社会人・その他

F 5. あなたの職業をお知らせください。※出産休暇、育児休業中の方も働いているものとみなします。  
(〇は1つだけ)

1. 会社員                      6. 学生  
2. 公務員                      7. 専業主婦・主夫  
3. 自営業(個人事業主含む)                      8. 無職  
4. 家族従事者 ※                      9. その他(具体的に )  
5. パート・アルバイト・派遣社員

※家族従事者……個人事業主の家族で、その事業を手伝っている方

## 男女平等に関する意識について

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたは、この考え方にどの程度同感しますか。  
 (〇は1つだけ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問2. 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
 次の(ア)から(ク)のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。  
 (〇はそれぞれ1つだけ)

※項目ごとに横に見てお答えください	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活で ⇒	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で ⇒	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度のうえで ⇒	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念、慣習、しきたりなどで ⇒	1	2	3	4	5	6
(キ) 地域活動・社会活動の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体で ⇒	1	2	3	4	5	6

## 子どもの育て方・教育について

問3. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたいと思いますか。(○は3つまで)

1. 一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
2. 発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
3. 家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
4. 生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること
5. PTAなどと連携して、男女平等な教育の理解と協力を深めること
6. 働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
7. 管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
8. 教職員に対する男女平等に関する研修を行うこと
9. その他（具体的に

## 家庭生活について

【現在、配偶者・パートナーと同居している方におたずねします。】

問4. あなたの家庭では、次のことを、主にどなたが行っていますか。次の（ア）から（ク）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

また、配偶者・パートナーがいない方、または、配偶者・パートナーと同居していない方は、問5へ進んでください。

※項目ごとに横に見てお答えください	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	わが家からしない・該当しない
(ア) 家計を支える（生活費を稼ぐ） ⇒	1	2	3	4	5
(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする ⇒	1	2	3	4	5
(ウ) 日々の家計を管理をする ⇒	1	2	3	4	5
(エ) 育児、子どものしつけをする ⇒	1	2	3	4	5
(オ) 親の世話（介護）をする ⇒	1	2	3	4	5
(カ) 自治会などの地域活動を行う ⇒	1	2	3	4	5
(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める ⇒	1	2	3	4	5
(ク) 高額の商品や土地、家屋の購入を決める ⇒	1	2	3	4	5

付問4-1. 問4で(ア)から(ク)のうち、配偶者・パートナーに「もっとしてほしい」と思う項目があれば、下の欄にご記入ください。(記入は3つまで)

--	--	--

### 職業や仕事について

問5. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つだけ)

1. ずっと職業をもっている方がよい → 付問5-2へお進みください。
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他(具体的に )

→【問5で「2」～「6」のいずれかに答えた方に】

付問5-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(○は2つまで)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正當に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整ってないから
8. その他(具体的に )

【問5で「1. ずっと職業をもっている方がよい」と答えた方に】

付問5-2. ずっと職業をもっている場合、どのような働き方がよいと思いますか。

(○は1つだけ)

1. 結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい
2. 結婚するまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい
3. 子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい
4. 結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとパート等短時間勤務がよい
5. その他(具体的に )

問6. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見て お答えください	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先
（ア）あなたの希望 ⇒	1	2	3	4	5	6	7
（イ）あなたの現実（現状） ⇒	1	2	3	4	5	6	7

問7. あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	とる方がよい	どちらかといえばとる方がよい	どちらかといえばとらない方がよい	とらない方がよい	わからない
（ア）男性の育児休業（*1） ⇒	1	2	3	4	5
（イ）男性の介護休業（*2） ⇒	1	2	3	4	5

（\*1）育児休業・・・原則1歳未満の子を養育する労働者が法律に基づいて取得できる休業のことです。両親がともに育児休業を取得するなど一定の要件を満たす場合、取得可能期間を1歳2か月まで延長できます。

（\*2）介護休業・・・家族が病気や怪我、精神的な疾患などによって介護が必要な状態になった時、介護を行う労働者が比較的長く取得できる休業のことです。

問8. 女性の育児休業取得率は84.1%であるのに対し、男性の育児休業取得率は30.1%（厚生労働省：令和5年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の約7割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いませんか。（〇は2つまで）

- |                         |                                      |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 周囲に取得した男性がいないから      | 6. 経済的に困るから                          |
| 2. 職場に取得しやすい雰囲気がないから    | 7. 育児・介護は女性の方が担うものなので、男性が取得する必要はないから |
| 3. 仕事が忙しいから             | 8. その他（具体的に                          |
| 4. 取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから  | 9. わからない                             |
| 5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから |                                      |

問9. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いませんか。（〇は3つまで）

- |  |
|--|
| 1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす                  |
| 2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす                    |
| 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る                          |
| 4. 年配者やまわりの方が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する           |
| 5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める               |
| 6. 労働時間短縮や休暇制度（育児休業等）を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする |
| 7. 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う                 |
| 8. 国や地方自治体などの研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める         |
| 9. 男性が子育てや介護を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめる               |
| 10. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける              |
| 11. その他（具体的に                                       |
| 12. 特に必要はない  |

**暴力などの人権侵害について**

問10. 次の（ア）、（イ）の考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（〇はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえは	そう思わない	わからない
（ア）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである ⇒	1	2	3	4	5
（イ）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである ⇒	1	2	3	4	5

問 11. あなたは、次にあげるようなことが配偶者・パートナー・恋人間で行われた場合、それを暴力だ  
 と思いますか。次の（ア）から（ソ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	⇒	どんな場合でも 暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、 そうでない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない
（ア）素手で打つ・殴る	⇒	1	2	3
（イ）足でける	⇒	1	2	3
（ウ）身体を傷つける可能性のある物でなぐる	⇒	1	2	3
（エ）なぐるふりをして、おどす	⇒	1	2	3
（オ）刃物などを突きつけて、おどす	⇒	1	2	3
（カ）大声でどなる	⇒	1	2	3
（キ）交友関係や電話を細かく監視する	⇒	1	2	3
（ク）外出を制限する	⇒	1	2	3
（ケ）何を言っても長期間無視し続ける	⇒	1	2	3
（コ）「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などと言う	⇒	1	2	3
（サ）必要な生活費を渡さない	⇒	1	2	3
（シ）嫌がっているのに性的な行為を強要する	⇒	1	2	3
（ス）避妊に協力しない	⇒	1	2	3
（セ）見たくないのに、AVなどの性的な動画や雑誌を見せる	⇒	1	2	3
（ソ）性的な画像を送るよう強要する	⇒	1	2	3

問 12. この3年間くらいのうちに、あなたは配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（オ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		1・2度あった	何度もあった	まったくくない
（ア）	【身体的暴力】なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた ⇒	1	2	3
（イ）	【精神的暴力】人格を否定するような暴言など精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、自分もしくは家族に危害が加えられる恐怖を感じるような脅迫を受けた ⇒	1	2	3
（ウ）	【社会的暴力】交友関係を細かく監視する、外出を制限するなどの嫌がらせを受けた。 ⇒	1	2	3
（エ）	【経済的暴力】必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、借金をさせる、デート代を常に払わせるなどされた ⇒	1	2	3
（オ）	【性的暴力】嫌がっているのに性的な行為を強要された。見たくないのに性的な動画を見せられた ⇒	1	2	3



【問 12 で（ア）から（オ）のうち、ひとつでも「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方に】  
付問 12-1. そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。（○はいくつでも）

1. 身内や友人・知人に相談した
2. 相談窓口（来所・電話）に相談した ——→付問 12-2へお進みください。
3. 身内や友人・知人の家に避難した
4. 保護施設・民間のシェルターなどに避難した
5. 配偶者・パートナー・恋人と別居、離婚又は交際解消した
6. 病院に行った
7. 警察に通報した
8. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
9. 何もしていない ——→次ページの付問 12-3へお進みください。

【付問 12-1 で「2. 相談窓口（来所・電話）に相談した」と答えた方に】  
付問 12-2. 相談窓口は、どのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

1. 市の情報誌（市報かすが等）
2. 公共施設や民間施設等のトイレに設置しているカードやパンフレット
3. インターネット等で検索した情報
4. 学校や市のセミナー等に参加して知った
5. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

【付問 12-1 で「何もしていない」と答えた方に】

付問 12-3. あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
5. 世間体が悪いと思ったから
6. 他人をまき込みたくないから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから
9. 思い出したくないから
10. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
11. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
12. その他(具体的に )

地域活動について

問 13. あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動
2. PTA活動、青少年健全育成に関する活動
3. 趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動
4. 社会奉仕やボランティア活動(登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など)
5. シルバー人材センターでの活動
6. その他(具体的に )
7. 特に参加していない

問 14. 仮にあなたが、次の（ア）から（カ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（○はそれぞれ1つだけ）

付問 14-1

※項目ごとに横に見てお答えください			引き受ける	なるべく引き受ける	なるべく断る	断る	断る理由 あてはまる項目の番号を記入してください。
（ア）	PTA会長・子ども会育成会長	⇒	1	2	3	4	
（イ）	PTA役員・子ども会育成会役員	⇒	1	2	3	4	
（ウ）	自治会長	⇒	1	2	3	4	
（エ）	自治会役員	⇒	1	2	3	4	
（オ）	県や市の審議会や委員会のメンバー	⇒	1	2	3	4	
（カ）	県・市議会議員	⇒	1	2	3	4	

【問 14 で（ア）から（カ）のうち、「なるべく断る」、「断る」と答えた方に】

付問 14-1. 断る理由は何ですか。（ア）から（カ）について、それぞれあてはまる項目の番号を2つまで記入してください。

1. 責任が重いから
2. 知識や経験の面で不安があるから
3. 時間的な余裕がないから
4. 経済的な余裕がないから
5. 家族の同意が得られないから
6. 人間関係がわずらわしいから
7. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
8. 役職に興味がないから
9. 地域活動に興味がないから
10. その他（具体的に

）

問 15. 九州でも多くの地震や豪雨などの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

1. 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
5. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7. 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8. 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
10. 特にない

**男女共同参画に関する施策について**

問 16. あなたは、次にあげる（ア）から（ス）の法令や言葉について、どの程度知っていますか。  
(〇はそれぞれ1つだけ)

※項目ごとに横に見てお答えください  ※13頁に用語の説明を載せています。	内容を 知っている	聞いたことはあるが 内容は知らない	知らない
(ア) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(イ) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(ウ) DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1	2	3
(エ) 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
(オ) ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
(カ) リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	1	2	3
(キ) LGBTQ	1	2	3
(ク) アンコンシャス・バイアス	1	2	3
(ケ) ジェンダーギャップ指数 (GGI)	1	2	3
(コ) 春日市男女共同参画を推進する条例	1	2	3
(サ) ちくし女性ホットライン (DV相談電話)	1	2	3
(シ) 春日市男女共同参画センター じよなさん	1	2	3
(ス) 春日市男女共同参画苦情処理制度	1	2	3

問 17. 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。  
この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する
2. 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する
3. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
4. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
5. 保育や介護の施設・サービスを充実する
6. 仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける
7. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
8. 自治会など地域団体の役員などに女性が多く参画できるよう団体に働きかける
9. 審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
10. 女性リーダーの養成・研修の場を充実する
11. 配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
12. 女性の悩みや人権侵害に関する相談体制を充実する
13. セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の啓発活動を充実する
14. 男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める
15. L G B T Qに関する理解を深める啓発を推進する
16. その他（具体的に )
17. 特にない

最後に、男女共同参画に関して、春日市へのご意見・ご希望などありましたら、自由にご記入ください。

調査は以上で終了です。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

記入もれなどが無いよう再度ご確認ください、11月8日(金)までに  
同封の返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。

## 男女共同参画に関する用語

### ○男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会をいいます（男女共同参画社会基本法第2条第1号）。

### ○DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）

平成13年に制定された、配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律です。

### ○女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

平成27年に成立した、働くことを希望する女性が、職業生活においてその個性と能力を十分に発揮し、活躍できるよう、国や地方公共団体が必要な施策を策定・実施することに加え、事業主が女性の活躍推進に向けた取り組みを自ら実施することを促すための枠組みについて定めた法律です。

### ○ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭生活や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることをいいます。

### ○リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖による健康／権利）

性や生殖にかかわるあらゆる事柄において、身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態で、安全で満足のある性生活を営むことができ、子どもを産むか産まないか、産むならいつ、何人産むかを決定することができる権利の事です。

### ○LGBTQ

Lはレズビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシュアル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人）、QはこれらのLGBT以外のクエスチョニング（性的指向・性自認が決められない、またはあえて決めない人）などを表現する包括的な言葉を表し、性的少数者の総称として使用されることもあります。

### ○アンコンシャス・バイアス

日常的な経験や育った環境、文化やメディアの影響をうけて知らず知らずのうちに身につけている偏った見方や考え方のこと。自分でも意識せずに持っているため、差別的な発言や行動を制御することが困難となります。

### ○ジェンダーギャップ指数（GGI）

世界経済フォーラムが、各国における男女格差を測る指数として毎年発表しています。経済、教育、健康、政治の4つの分野のデータから作成されており、2024年の日本の順位は146か国中118位でした。

### ○春日市男女共同参画を推進する条例

平成18年12月に制定された春日市での男女共同参画の推進における基本条例です。男女共同参画を進めていくための基本的な考え方となる基本理念を定め、市や市民のみなさん、事業者などがそれぞれの立場で男女共同参画を進めていくこと、市が実施する基本的な施策などについて定めています。

---

## 男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

発行年 令和7年 3月

発行 春日市「地域共生部 人権男女共同参画課

〒816-0806 福岡県春日市光町1丁目73番地

電話：092(584)1201 FAX:092(584)1181

MAIL: [jyonasan@city.kasuga.fukuoka.jp](mailto:jyonasan@city.kasuga.fukuoka.jp)

---

